

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MAO1	看護学研究法特論M	1年/前期	2
担当教員		課程	
西川まり子 藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>研究の基本的なデザインを学び、自立した実践リーダー・管理者・教育者になるために看護の実践や教育の場において専門的な知識・技術の向上、ケアプログラムやケアシステムの改善・開発など実践的研究活動が行われるようにする。国内外の文献で、先行研究のレビューをして、研究の新規性・独創性・社会的価値を考慮した研究テーマと研究目的に合致する研究デザインを選択する。</p> <p>研究の方法として疫学的手法を取り入れた量的研究法、質的研究法、実験的研究法、Mix Method法を学び研究の進め方、研究デザインの組み立て方、倫理的配慮と申請方法、データの収集方法、考察、結論の書き方を含めて研究プロセスにおける研究の質管理方法、研究論文作成方法について学修する。</p>
<p>授業内容</p> <p>研究テーマ・研究目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討する。</p> <p>研究計画書の作成において文献検索（英論文・和論文）や研究デザインの検討を行う。具体的な研究方法の選択、その適切性と妥当性を検討する。適切な研究データ収集法、研究スケジュールを含めて研究の実施計画、研究過程における研究の量や質を高めるためにデータの管理と解析方法を検討し、具体的で実行可能な研究計画作成の準備をする。研究計画発表会に向けて、研究倫理を踏まえた研究計画を検討することができる。</p> <p>（オムニバス方式／15回 西川まり子8回：藤原奈佳子7回）</p> <p>看護研究の目的、特徴、新規性・独創性・社会的価値を考慮した研究の進め方、日本語文献検索クオリティーの高い文献検索の実際と管理（特に和論文）、研究のタイムスケジュールの立て方（藤原/1回）</p> <p>文献検索の実際と管理（英語語論文）、文献管理ソフトの実際、クオリティーの高い論文誌の選択（特に英文誌）（西川/1回）</p> <p>研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基本（1）：研究デザインの選択（西川/6回）</p> <p>研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（2）</p> <p>研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（3）</p> <p>研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（4）看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法。介入研究の登録の意義と実際の方法</p> <p>研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な質的研究法とその質管理（5）</p> <p>研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な質的研究法と混合研究法（6）</p> <p>科学者としての研究倫理 と 研究倫理審査申請書作成（藤原/1回）</p> <p>文献クリティークの基礎（1）：質的研究法を含む（藤原/3回）</p> <p>文献クリティークの基礎（2）：量的研究法を含む</p> <p>文献クリティークの基礎（3）：実験的研究法を含む</p> <p>文献クリティークの基礎（4）：混合研究法を含む（西川/1回）</p> <p>研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点（藤原/2回）</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 英語論文を含む科学的な文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。 レポートなどの提出物は期日ごとに提出する。 授業への出席率と授業毎の復習、研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。
<p>教材</p>

1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。
2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。

授業計画 (15回)

- 1 クオリティーの高い文献検索の実際と管理 (特に和論文)、研究のタイムスケジュールの立て方 (藤原/1回)
- 2 文献検索の実際と管理 (英語語論文)、文献管理ソフトの実際、クオリティーの高い論文誌の選択 (特に英文誌) (西川/1回)
- 3 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基本 (1) : 研究デザインの選択 (西川)
- 4 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎 (2) (西川)
- 5 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎 (3) (西川)
- 6 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎 (4) 看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法。介入研究の登録の意義と実際の方法 (西川)
- 7 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な質的研究法とその質管理 (5) (西川)
- 8 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な質的研究法と混合研究法 (6) (西川)
- 9 科学者としての研究倫理 と 研究倫理審査申請書作成 (藤原)
- 10 文献クリティークの基礎 (1) : 質的研究法を含む (藤原)
- 11 文献クリティークの基礎 (2) : 量的研究法を含む (藤原)
- 12 文献クリティークの基礎 (3) : 実験的研究法を含む (藤原)
- 13 文献クリティークの基礎 (4) : 混合研究法を含む (西川)
- 14 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点 (1) (藤原)
- 15 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点 (2) (藤原)

評価基準

科目の到達目標の到達度により評価

A (100~80点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79~70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69~60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 基本的な研究のデザインと研究デザインの選び方を学ぶことができる。				
2. 研究計画への国際的基準に見合う、基本的なフォーマットが理解できる。				
3. 介入研究に必要な基準や手続きが理解できる。				
4. 研究の課題について国内外の先行研究をレビューし、新規性・独創性・社会的価値のある研究デザインを検討することができる。				
5. 自身の論文作成に結び付けて、倫理的配慮を十分に踏まえた計画書作成の準備ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA0201	疫学統計学M I (必修)	1年/前期	2単位
担当教員		課程	
箕浦 哲嗣		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>パソコンの発達・普及とともに、保健師や看護師が自ら収集したデータを簡単に分析できるようになりました。しかしながら統計学を修得していなければ、分析方法の選定や分析結果の解釈は不可能であり、最悪の場合には、間違った結論を導いてしまう危険さえあります。</p> <p>医療、看護および保健の分野で必須である統計学について、量的研究の論文を読解できるようになることを目的に、記述統計および推測統計を理解してもらいます。また、医療分野で多く使われている多変量解析に関しても、一部を教授します。</p>
<p>授業内容</p> <p>本講義は記述統計だけでなく、推測統計の基本である母平均・母比率の推定、平均値の差の検定および比率の差の検定、さらに重回帰分析に始まる多変量解析の初歩までを範囲として、実際に Excel、SPSS あるいは EZR を用いて計算しながら理解を深めます。</p>
<p>評価方法</p> <p>課題レポート 70% 講義に対するアクティビティ 30%</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的に参加する 2. 授業内容について事前に情報を収集し、必要に応じて分析を試みる 3. 授業内容を自己の研究の計画立案や実践に反映させる
<p>教材</p> <p>事前に授業支援 CMS よりプリントを配布するので、印刷して参加すること。</p>
<p>授業計画(15回)</p> <p>第1回 統計学の基本的概念 (保健統計の必要性、データの種類)</p> <p>第2回 記述的解析 (度数分布、特性値、散布度、質的データの記述的解析)</p> <p>第3回 記述的解析 (グラフの作成、統計的推論の準備) と論文上の標記の解釈</p> <p>第4回 分布 (色々な分布、確率分布、正規分布の基礎)</p> <p>第5回 統計的推論 (母集団平均の点推定と区間推定、割合の推定)</p> <p>第6回 統計的推論 (割合の推定)、仮説検定の考え方</p> <p>第7回 平均値の差の検定 (母集団と標本とのつの比較)</p> <p>第8回 平均値の差の検定 (2つの母集団の平均値の差の検定)</p> <p>第9回 分散分析法、ノンパラメトリック検定</p> <p>第10回 比率の差の検定 (分割表による検定、カイ二乗検定)</p> <p>第11回 相関と回帰、母相関検定</p> <p>第12回 各種検定の演習</p> <p>第13回 重回帰分析とは</p> <p>第14回 EZR による記述統計の算出、各種検定、重回帰分析およびロジスティック回帰分析</p> <p>第15回 まとめ</p>

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
保健医療データを統計分析する上で基本となる分布や基本統計量についての理解				
基本的な検定の考え方についての理解				
相関係数と母相関検定の考え方の理解				
多変量解析の初歩についての理解				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA0301	疫学統計学MⅡ (選択)	1年/後期	2単位
担当教員		課程	
箕浦 哲嗣		博士前期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
<p>結果には原因がありますが、実際の現象では原因と結果が一對一に対応しているような単純な例はほとんどありません。様々な要因が重なり合って、一つの事柄を説明しているのが現実です。本講義では、重回帰分析や因子分析をはじめとする各種多変量解析法を用いて、複雑に絡み合った物事を分かり易く理解する技術および証明する技術を習得することを目標とします。</p>				
授業内容				
<p>多変量解析（重回帰分析、ロジスティック回帰分析、主成分分析、因子分析、パス解析）を中心とした統計分析法を演習形式で講義します。また、自身の研究で参考となる論文を、正しく読みこなせるよう、毎回数点の先行研究をPDFファイルで持参してください。</p>				
評価方法				
課題レポート 70% 講義に対するアクティビティ 30%				
留意事項				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的に参加する 2. 授業内容について事前に情報を収集し、必要に応じて疑問点の洗い出しを試みる 3. 授業で扱った分析手法を自己の研究の計画立案や実践に反映させる 				
教材				
毎回プリントを配布します。				
授業計画(15回)				
<p>第1回 実際のデータに対するクリーニング方法、高機能テキストエディタの使い方 第2回 SPSS の使い方（ケースの選択、値の再割り当て等） 第3回 SPSS での独立サンプルの平均値の差の検定、対応サンプルの平均値の差の検定 第4回 SPSS での一元配置分散分析と多重比較 第5回 SPSS での相関係数の算出と分析、気を付けるべき点 第6回 SPSS でのクロス集計とカイ二乗検定、イエーツの連続補正、Fisher の直接確率法 第7回 重回帰分析 第8回 数量化理論Ⅰ類、ダミー変数の作り方と注意点 第9回 ロジスティック回帰分析 第10回 主成分分析 第11回 探索的因子分析 第12回 確証的因子分析と既存の尺度 第13回 共分散構造分析の基礎 第14回 EZR を使った各種分析と必要サンプル数の算出 第15回 効果量や検出力などの最近重要視されているパラメータの意味</p>				
評価基準				
<p>A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>				
到達目標	A	B	C	D
データを分析に適した形に加工出来る				
高機能統計ソフトウェアの仕組みを理解する				
算出される数値を適切に理解し、意味を述べる事が出来る				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA0401	看護理論特論M	1年/前期	2
担当教員		課程	
渡邊順子		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 看護理論の変遷とさまざまな理論の構造と特徴及び限界について知識を深めるとともに、看護理論の活用方法を探求し、各看護専門領域の実践・教育・研究に不可欠な論理的な思考能力を高めることを目的とする。
授業内容 看護理論の変遷と諸理論の特徴及び限界について知識を深めるとともに、各看護専門領域の実践・教育・研究に不可欠な批判的思考能力を高めることを目標とする。授業科目の内容には、理論の定義とその生成過程、理論の変遷、看護大理論（発達モデル、ニード論、相互作用モデル、システムモデル、ケアリングモデル等）の特徴、実践の基盤となる中小範囲理論（患者の理解と援助のための発達理論・ニード論・ストレス・コーピング理論、危機介入モデル、ソーシャルサポート・システム論、症状マネージメントモデル等）、理論およびEBNの検索、理論開発の意義、などを含む。
留意事項 1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。
教材 1. 筒井真優美（2020）：看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院 2. 野川道子（2016）：看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社
授業計画（15回） 1. 看護理論の意義 2. 看護理論の定義と用語の理解 3. 看護理論の歴史的変遷（その1）： 4. 看護理論の歴史的変遷（その2）： 5. 看護大理論の構造と特徴（その1）：発達モデル、ニード論、相互作用モデル 6. 看護大理論の構造と特徴（その2）：システムモデル、ケアリングモデル 7. 看護理論（大理論）に関する課題の発表と討議（その1） 8. 看護理論（大理論）に関する課題の発表と討議（その2） 9. 中小範囲理論の構造と特徴（その1）：ストレス・コーピング理論、危機介入モデル 10. 中小範囲理論の構造と特徴（その2）：ソーシャルサポート・システム論、症状マネージメントモデル 11. 看護過程と看護診断分類・看護介入分類・看護成果分類（その1） 12. 看護過程と看護診断分類・看護介入分類・看護成果分類（その2） 13. 看護理論（中範囲理論）に関する課題の発表と討議（その1） 14. 看護理論（中範囲理論）に関する課題の発表と討議（その2） 15. まとめと課題（渡邊順子/15回） 注）授業は2コマ連続開講を予定している。
評価基準 1. 授業中の質疑・討議 30% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 40% A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 看護専門領域における看護の実践や研究の基礎となる看護理論や看護モデルを理解し、その特徴と限界について説明できる。				
2. 看護の具体的な実践の基盤となる中範囲理論の特徴を理解し、具体的な場面でのように活用できるのかについて検討できる。				
3. 看護実践と看護理論と看護研究との相互の関連性について考察し、看護理論の意義と開発の必要性を検討できる。				
4. 特定の看護理論を用いて、具体的な事例の看護過程に適用して、その長所・短所を分析できる。				
5. 看護理論が看護実践と看護研究にどのように貢献するのかについて説明できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA0501	看護教育特論M共通	1年/後期	2
担当教員		課程	
渡邊順子		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
看護者としての倫理的態度を持って、看護実践における教育的機能を効果的に果たすために、教育心理学・教育学、看護教育学の基礎的知識を基盤とした看護実践能力とその資質を養う。			
授業内容			
看護実践・教育における教育的機能を、看護者としての倫理的態度を持って効果的に果たすために、教育心理学・教育学の基礎的知識を基盤とした能力・資質を養うことを目標とする。授業科目の内容は、教授・学習過程における学習理論、教育指導の方法論、教育評価、臨地実習指導方法、カウンセリング技法などについて教授するとともに、クライアント及び家族に対する介入指導計画の立案から評価に至るプロセスなどを含むものとする。			
留意事項			
1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。			
教材			
1. 杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学、医学書院、2016(第6版)あるいは最新版 2. 渡邊順子：患者の声から考える看護、医学書院、2020			
授業計画 (15回)			
1 日本の看護教育の現状と課題(教育制度・カリキュラム・指定規則) 2 諸外国の看護教育の現状と課題(主に教育制度について) 3 教授・学習過程における基礎知識と学習理論 4 体験学習理論(アクティブラーニングを含む) 5 教育指導の方法論(コーチングを含む) 6 グループダイナミクスを支えるリーダーシップ理論 7 対人関係を支えるカウンセリング理論 8 対人関係を支えるカウンセリング技法演習 9 教育評価 10 実習環境と実習評価 11 クライアント理解のための諸理論 12 クライアントや家族に対する教育指導計画 13 教育指導計画案の作成 14 教育指導計画案の発表と討議 15 まとめと課題について討議 (渡邊順子/15回)			
注) 授業は2コマ連続開講の予定。			
評価基準			
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%			
A (100~80点) : 到達目標に達している (Very Good)			
B (79~70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)			
C (69~60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)			
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)			
到達目標	A	B	C
			D

1. わが国の看護教育制度の歴史的発展にみられる特徴を理解し、現行大学のカリキュラムの課題をクリティークできる。				
2. 教授・学習過程における基礎的知識を理解し、体験学習理論の特徴について説明できる。				
3. 教育評価の基礎知識を理解し、実習評価時の留意事項について述べることができる。				
4. 看護学生の気質と特徴を理解し、対象に合わせた看護ケア技術教育の指導法および看護者としての倫理的態度の教育法について考察し、討議することができる				
5. 看護学生の実習環境に関する課題を挙げ、その対策について検討できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA0601	看護倫理特論 M	1年/前期	2
担当教員		課程	
伊藤千晴		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的
1) 看護倫理の意義と歴史的な変遷を土台として、看護倫理の歴史的発展を理解する。 2) 看護者の倫理綱領およびサラ T フライの倫理原則について内容を理解する。 3) 倫理的課題の解決に向けて、基盤となる諸理論・諸概念を理解する。 4) 倫理的課題に対する解決に向けた方法を実践できる。 5) 倫理的課題に対する組織のとりくみについて理解する。
授業内容
看護倫理の意義や目的を理解し、現代の医療現場で遭遇する倫理的課題を探究する。また解決に向けて方法論を理解し、対応策を導き出す。さらに最近の看護倫理の研究動向を知り、議論することで省察する。(全 15 回)
留意事項
1. 授業に主体的に参加することを期待する。 2. 授業の課題について積極的に取り組む。
教材
その都度必要な資料は配布する <参考書> ①臨床倫理学 赤林朗、蔵田伸雄、児玉聡、新興医学出版社 ②看護倫理 南江堂 ③看護者の倫理綱領 日本看護協会出版会
授業計画 (15回)
1. 感性と倫理・看護倫理の意義と目的・看護倫理教育の歴史 2. 現代の臨床倫理問題 3. 終末期医療における倫理的課題 4. 高齢者の意思決定支援 5. 看護者の倫理綱領とサラ T フライの倫理原則 6. 倫理的問題の解決方法・ナラティブアプローチ 7. 臨床倫理の4分割法を用いた事例展開 8. 4ステップモデルを用いた事例展開 9. 事例(臨床経験から倫理問題を提起し、解決へ導く) 10. 事例(臨床経験から倫理問題を提起し、解決へ導く) 11. 発表 12. 発表 13. 臨床での看護倫理教育の進め方・組織としての取り組み 14. 看護倫理に関する最近の研究動向 15. 看護倫理に関する最近の研究動向 まとめ

評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護倫理の意義と目的を理解する。				
2. 倫理的課題の解決に向けた基礎的知識を理解する。				
3. 倫理的課題の解決に向けて基盤となる諸理論・諸概念を理解し討議する。				
4. 組織としての対策・取り組みについて理解する。				
5. 自身の倫理的価値観を省察できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA0701	看護管理特論M	1年/後期	2単位
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>職場（病院）組織で良質な看護サービスを提供するために、職場内の看護組織、看護チームの運営や組織力の強化に必要な知識・技術を学ぶ。</p>
<p>授業内容</p> <p>医療現場で良質な看護サービスを提供するためには、看護組織、看護チームを構成する個々の看護職員が役割を認識し、円滑に看護実践を遂行することが求められている。本科目では、看護管理者として、看護組織力を強化し、効果的・効率的な看護ケアが実践できる知識・技術の修得をめざす。このために、看護管理に関する知識と諸理論を基盤とする科学的思考力を学び、組織的に問題を解決する方法を修得する。</p>
<p>留意事項</p> <p>授業内容について自己の課題と照合させ、事前に関連文献等に目を通しておき、授業中は積極的に討論ができる準備をしておくこと。プレゼンテーションは、テーマの理論概説、先行研究や既存資料の観察などを通じた現状分析、自身の体験事例などを統合させて、改善策の提言、看護実践への応用などを含む。討議内容をふまえて課題レポートを作成する。</p> <p>なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。</p>
<p>教材</p> <p>必要文献は、必要に応じて提示する。</p> <p>（参考書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スティーブンP. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2009年 ・ 中西睦子編集：看護サービス管理、第3巻、医学書院、2007年 ・ 井部俊子監修、増野園恵編集：看護管理学習テキスト、第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論 2019年版、日本看護協会出版会、定価2,592円 ・ 井部俊子監修、秋山智弥編集：看護管理学習テキスト 第3版 第2巻 看護サービスの質管理 2019年版、日本看護協会出版会、定価4,320円 ・ 井部俊子監修、手島恵編集：看護管理学習テキスト 第3版 第3巻 人材管理論 2019年版、日本看護協会出版会、定価4,212円 ・ 井部俊子監修、勝原裕美子編集：看護管理学習テキスト 第3版 第4巻 組織管理論 2019年版、日本看護協会出版会、定価3,672円 ・ 井部俊子監修、金井Pak 雅子編集：看護管理学習テキスト 第3版 第5巻 経営資源管理論 2019年版、日本看護協会出版会、定価3,780円 ・ 井部俊子監修、増野園恵編集：看護管理学習テキスト 第3版 別巻 看護管理基本資料集 2019年版、日本看護協会出版会、定価4,536円
<p>授業計画（15回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の看護管理の国内外の動向分析（2回） 病院看護管理システムの国内外文献の検討から、看護管理の概念と歴史的背景、看護管理の機能について概観 2. 組織論と組織分析（2回） <ol style="list-style-type: none"> 1) 組織論、組織の構造、集団の機能、医療・保健サービス提供組織、専門職組織 2) 自施設または提示組織の組織分析（SWOT分析）を実施し、組織の改善策を検討 3. 看護専門職としての人的資源活用（2回）

- 1) 組織行動論、人間行動学的理論をふまえたアプローチによる効果的な人的資源の活用方法
- 2) 専門職とはどうあるべきかを探求し、キャリアに関する理論をとおして自己のキャリア発達と組織におけるキャリア開発のしくみを理解
- 4. 看護サービスの提供（4回）
 - 1) 看護サービスの基本的概念と、看護サービスの提供過程のとらえ方
 - 2) 看護実践における倫理的問題の把握と意思決定や現場でおこる問題の解決手順を理解し、適切な解決策を検討
 - 3) 看護サービスの質管理
 - 質評価の枠組みを学び、提供される看護サービスの安全管理方法、医療・看護サービスの質の評価方法
- 5. 看護実践におけるリーダーシップ（3回）
 - 1) 集団力学（グループダイナミクス）の機能、看護チームにおけるリーダーの役割、医療チームにおける看護の役割
 - 2) 看護実践の質を改善するための交渉や組織変革実践のプロセスについて変革理論を含めた理解
 - 3) 看護組織内において、効果的な教育、研修の企画
- 6. 労務管理（1回）
 - 労働に関する法規を学び、看護職として心身ともに健康で働くことができるための組織支援の理解
- 7. 看護をとりまく社会情勢（1回）
 - 看護に関連する法律や制度の変遷をふまえた近年の社会情勢とその看護政策が職場に及ぼす影響

（藤原奈佳子／15回）

評価基準

- 1. 授業への参加状況 30%
 - 2. プレゼンテーション 35%
 - 3. 課題レポート 35%
- A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 看護管理に関する知識と諸理論を修得し、科学的思考力をもつ看護実践現場のリーダーとして組織力の強化に必要な知識・技術が理解できる。				
2. 看護専門職の役割と機能を認識し、看護現場でおこる問題の解決手順を理解し適切な解決策の検討ができる。				
3. 授業内容を含めて先行研究や既存資料の観察などを通じた看護領域における現状分析、自身の体験事例などを統合させて、論点を伝えることができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA0801	看護政策特論M	1年/後期	2単位
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的
<p>1) 政策と政策決定プロセスに関する基本的な構造を理解できる。</p> <p>2) 看護の質向上のために、制度改革や法改正を含む政策的な働きかけや専門領域における看護政策の具体的な課題にとりくむことができる。</p>
授業内容
<p>特に看護制度と関連する政策課題について看護行政における政策活動や政策的な働きかけの方法、看護サービスに関する将来設計、看護職の政策的役割を探求する。看護の質向上と関係する社会保障のしくみや医療制度、医療保険制度、介護保険制度、診療報酬制度、医療法、保健師助産師看護師法などの法的基盤を理解し、看護の質向上のための課題を明確にし、その課題に効果的に取り組む政策決定のプロセス、看護行政における政策活動などの方策を提言できる力を涵養する。</p>
留意事項
<p>授業内容について自己の課題と照合させ、事前に関連文献等に目を通しておき、授業中は積極的に討論ができる準備をしておくこと。</p> <p>なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。</p>
教材
<p>必要文献は都度提示する。</p> <p>(参考書)</p> <p>見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門、2007年、定価1,944円</p> <p>井部俊子監修、増野園恵編：看護管理学習テキスト、第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論 2019年版、日本看護協会出版会、定価2,592円</p>
授業計画 (15回)
<p>1-2 政策決定の過程と政策提言活動 (2回)</p> <p>わが国の立法行政について閣法、議員立法を確認し、法律案の成立過程、政策決定のプロセスが理解できる。看護政策について具体的な政策決定プロセスが理解できる。</p> <p>3-4 社会保障の概念 (2回)</p> <p>わが国の社会保障制度の軌跡を確認し、現在の課題と将来の福祉ビジョンについて理解できる。また、OECDヘルスデータなどから社会保障に関して国際比較について検討することができる。</p> <p>5-6 社会保障と資源 (2回)</p> <p>わが国の予算における社会保障関係費用の推移から社会保障に必要な費用やマンパワーについて現状の課題が理解できる。</p> <p>7-8 保健医療福祉制度とヘルスケアシステム (2回)</p> <p>保健・医療・福祉の主要な法律を概観し、これらの法律の基盤にたつヘルスケアシステムと現状の課題が理解できる。</p> <p>9-10 看護制度と看護マンパワー (2回)</p> <p>保健師助産師看護師法の改正過程を検証し、看護基礎教育の向上と看護専門職としてのあり方を考察することができる。看護師等の人材確保の促進に関する法律を確認し、看護職員需給見通し、看護職員確保対策が理解できる</p> <p>11-12 医療施策と看護政策 (2回)</p> <p>国民のヘルスニーズと医療法改正を理解し、現状における政策課題が見いだせる。</p>

13-15 プレゼンテーション (3回)				
<p>これまでの看護政策論の学びの中から看護の質向上のための課題を明確にし、その課題に効果的に取り組む政策決定のプロセス、看護行政における政策活動などの方策を提言する。</p> <p style="text-align: right;">(藤原奈佳子/15回)</p>				
評価基準				
<p>1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%</p> <p>A (100~80点) : 到達目標に達している (Very Good)</p> <p>B (79~70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69~60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>				
到達目標	A	B	C	D
1. 保健・医療・福祉の主要な法律を概観し、これらの法律の基盤にたつヘルスケアシステムと現状の課題を理解し、看護政策について具体的な政策決定プロセスが理解できる。				
2. 国内外の社会保障制度の軌跡を確認し、現在の課題と将来の福祉ビジョンについて検討することができる。				
3. 社会保障に必要な費用やマンパワー、現状の課題を理解し看護職員需給見通し、看護職員確保対策について考察できる。				
4. 国民のヘルスニーズと医療法改正を理解し、現状における政策課題が見いだせる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA0901	国際保健看護学特論M共通	1 / 後期	2 単位
担当教員		課程	
西川 まり子		博士前期	

授業計画詳細
授業目的
<p>グローバル化の中で、国際的な視点に立って、ヘルス、医療や看護を学ぶ。そのために（１）世界の看護、看護師の移動に対して、より深くポイントを絞って学ぶ。（２）世界の看護の動向、グローバルヘルスとその問題点、（３）世界の保健部門をサポートする国連を含む国際組織やNGOの活動を理解する。そのうえで、保健医療の重要な担い手として、国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができるようにする。</p>
授業内容
<p>国際的な視点を踏まえた内容がそれぞれの研究の中に評価される形で組み込まれるように学ぶ。さらに、将来、国際社会において国内外でヘルスの分野で活躍する基礎を学ぶ。授業は、初心者にも理解しやすいように、世界のエリアを地図上で世界を旅しながら、国際保健看護の専門的な知識を学ぶ。内容は、まず、（１）世界の看護師の移動として、看護師の国境を越えた移動状況（メリーゴーランド）、利点、問題点をアメリカ、日本、イスラム圏（ほとんどの看護師が外国人）を中心に深めて学ぶ。（２）世界の看護の動向として授業計画の①～⑧に示すように北米、南米、オーストラリア、ヨーロッパ、ロシア、アジア、アフリカ、中東から国を選び、そのヘルス、医療と看護の特徴を深める。（３）グローバルヘルスとその問題点、世界の保健部門をサポートする国連を含む国際組織やNGO。そのうえで、保健医療の重要な担い手として、国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができる。国際的にみて日本の看護の特徴、日本の看護が国際社会に与える影響、役割、国際貢献として果たすべき役割について考究する。DVDにより視覚的に教授しながら、レポートを作成して討論により、具体的に修得できるようにする。</p>
留意事項
<p>学生には積極的に質疑・討論に参加することを期待する</p>
教材
<p>日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3200 UNICEF『世界子供白書』最新版¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版、¥10 <資料> デイヴィッド ワーナー、若井 晋（翻訳）『いのち・開発・NGO』1998、新評論 ISBN13:978-4794804228 ¥3990 西川まり子『目で見える国際看護』DVD I, II, III, 医学映像教育センター ¥29400 X3 その他の論文資料は、適宜配布</p>
授業計画（15回）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際保健看護学の総論：国際保健看護学を深める理由。世界の看護師や医療者の移動（看護のメリーゴーランド）：看護師の国境を越えた移動状況、その利点と問題点 2. 世界の看護の動向①：アジアのヘルス、医療、看護 3. 世界の看護の動向②：オーストラリアのヘルス、医療、看護 4. 世界の看護の動向③：アメリカのヘルス、医療、看護 5. 世界の看護の動向④：カナダ、南アメリカのヘルス、医療、看護 6. 世界の看護の動向⑤：ヨーロッパのヘルス、医療、看護 7. 世界の看護の動向⑥：ロシアのヘルス、医療、看護

8. 世界の看護の動向⑦：アフリカのヘルス、医療、看護
9. 世界の看護の動向⑧：中東のヘルス
10. 保健や看護に関する国際機関や職能団体①：国際機関や国際的な職能団体の考え方、ICN
11. 保健や看護に関する国際機関②：UNICEF UNFPA WHO, 世界銀行
12. 国際機関で働くためのヒント：必要な事柄
13. 保健に関するNGO：国際的な動向、近隣での活動
14. プレゼンテーションのまとめ
15. まとめとプレゼンテーション・討論

評価基準

- 1) 講義内容のレポート作成 30%
- 2) テーマごとの発表・質疑・討論 30%
- 3) 国際保健看護に関することや国際保健看護の今後に向けての提言レポートと発表 40%
 - A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)
 - B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 - C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 - D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
それぞれの研究の中での国際的な位置づけが理解できる				
グローバル化の中で、国境を越えた看護師の移動の意味、利点と欠点が理解できる				
世界の看護の動向：それぞれのセクションで学ぶ、ヘルス、医療、看護が理解でき、世界を総合的に、それぞれの特徴としてとらえることができる。				
世界のヘルス、保健、看護をサポートする国際機関、国際的な職能団体やNGOの役割を理解することができる				
国際機関で働くためのヒントを得ることができる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA2101	フィジカルアセスメント特論M	1年/前期	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子		博士前期	

授業計画詳細				
授業目的				
1. フィジカルアセスメントの概念について理解する。 2. フィジカルアセスメントの構成・優先度について理解する。 3. 生命維持に関するフィジカルアセスメントを運用できる。 4. 生活を支えるためのフィジカルアセスメントを運用できる。				
授業内容				
さまざまな疾患の早期発見・予防を目的としたフィジカルアセスメントの技術・知識を修得する。具体的には、医療面接を通して病歴を聴取し、フィジカル・メンタル・ソーシャルなヘルスアセスメントができるようになること、病状や疾患別にアセスメントを行い鑑別診断につなげられるようにし、その経過を記録できるようにすること、が求められる。系統的にフィジカルアセスメントを習得できるように授業が構成されている。				
留意事項				
授業への出席と事例作成への積極的な取り組みが求められる				
教材				
その都度紹介する				
授業計画（15回）				
1 : フィジカルアセスメント総論 フィジカルアセスメントの構成・優先度 2 : 生命維持に関するフィジカルアセスメント：呼吸器系 3～4 : 生命維持に関するフィジカルアセスメント「看護介入」の実際 5～12 : 生命維持に関するフィジカルアセスメント 事例作成 13～15 : 生命維持に関するフィジカルアセスメント 事例の発表・展開				
評価基準				
授業の参加状況、レポート等による総合評価				
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
臨床推論の進め方・看護臨床場面での優先度について理解し説明できる。				
生命維持に関するフィジカルアセスメントの進め方を理解し説明できる。				
生活を支えるフィジカルアセスメントの進め方を理解し説明できる。				
フィジカルアセスメントを看護介入に活用する方法について説明できる。				
フィジカルアセスメントに関する事例作成・事例展開をとおして、看護介入の実際を説明できる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MA2301	病態生理学特論M	1年/前期	2単位
担当教員		課程	
太田美智男		博士前期	

授業計画詳細			
授業目的			
① 疾患理解のための、病態生理に関する基礎的な知識と考え方を学ぶ。			
② 疾患に対する病態生理の知識を応用し、理解を深める。			
授業内容			
専門的な看護ができる基礎的知識を身につけるために、感染症、膠原病・免疫疾患、代謝・内分泌疾患、消化器疾患ならびに呼吸器、循環器、腎臓などそれぞれの領域の基本的な疾患についてとりあげ、病態生理について演習形式で双方向講義を行い、理解を深めて基礎的知識を身につける。			
留意事項			
講義の出席は必須であり、課題についての予習を必要とする。また講義内容について復習し、講義内容に基づいてそれぞれの疾患を調べ、考察して理解を深める。それぞれの講義の予習ならびに復習において合計4時間以上を充てることが望ましい。			
教材			
臨床病態学：総論(2500円)、1巻、2巻、3巻、(各3000円)、(第2版、2013年発行、ヌーヴェルヒロカワ) ISBN:978-4-86174-048-0、ISBN:978-4-86174-049-7、ISBN:978-4-86174-050-3、ISBN:978-4-86174-051-0			
授業計画 (15回)			
1 免疫：免疫の機構、アレルギー疾患、膠原病			
2 自己免疫疾患、免疫不全			
3 感染症：ウイルス感染症、細菌感染症、敗血症、臓器別感染症			
4 炎症と修復：炎症性マーカー、発熱、SIRS、ショック			
5 代謝異常：糖尿病、脂質異常症、痛風			
6 体液の異常：電解質異常ならびに酸塩基平衡の異常に関わる疾患			
7 内分泌疾患：各種ホルモンの分泌異常による疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患			
8 循環障害：高血圧、うっ血性心不全、塞栓症、梗塞			
9 血液疾患：貧血、凝固異常症、白血病、リンパ腫			
10 消化器疾患1：消化管の癌、炎症性腸疾患			
11 消化器疾患2：肝、胆、膵の癌、肝炎、肝硬変、胆管感染症、膵炎			
12 呼吸器疾患：COPD、気管支喘息、肺癌			
13 腎臓・膀胱・前立腺の疾患、女性生殖器の疾患：腎癌など各臓器の癌および良性腫瘍、糸球体腎炎、腎不全			
14 脳・神経系疾患：脳血管障害、神経変性疾患、末梢神経疾患、神経系感染症、神経系腫瘍			
15 運動器疾患：骨疾患、関節疾患、脊椎・脊髄の疾患			
評価基準			
毎回の講義の出席とプレゼンテーション 50%、課題に対するレポート提出 50% など積極的参加を総合的に評価する。			
A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)			
B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)			
C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)			
D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)			
到達目標	A	B	C
			D

対象の状態、生理学的変化の解釈、臨床看護判断と実践における知識を習得できる。				
基本的な疾患の病態生理が理解でき、それを臨床判断に活かすことができる。				
慢性期疾患の患者の生理学的変化を理解でき、臨床判断に活かすことができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MB0101	看護教育学特論M	1年/前期	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子、伊藤千晴、原好恵		博士前期課程	

授業計画詳細						
授業目的						
<p>教育学や教育心理学などの諸理論を基盤として、看護教育学に関する基礎的概念や理論を修得し、基礎看護教育における基礎的知識、看護ケア技術、看護者としての倫理的態度を育成する指導方策を探求する。合わせて、諸理論や EBN などの先行文献をクリティークすることにより、効果的な教育方法や教材の開発法などについて探求する。</p>						
授業内容						
<p>看護教育の現状と課題、看護教育制度と課程の変遷、看護学カリキュラム作成のプロセス、学習理論と学習方法、教育評価、看護技術に関する教育指導法、看護基礎教育における看護倫理教育のありかたなどについて、先行文献を提示しながら講義する。(オムニバス方式/15回)</p>						
留意事項						
<p>1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。</p>						
教材						
<p>必要に応じてその都度提示及び配布する。 参考書： 1. 杉森みどり・舟島なをみ(2012). 看護教育学 第5版, 医学書院. 2. 近藤潤子、小山真理子訳(1988). 看護教育カリキュラム, その作成過程, 医学書院. 3. Kolb, D. A. (1984). <i>Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development</i>, Prentice-hall, New Jersey. 4. 佐藤みつ子, 宇佐見千恵子, 青木康子, 平の朝久. 看護教育における授業設定-指導案作成の実際, 医学書院</p>						
授業計画 (15回)						
1	看護教育の現状と課題	(篠崎恵美子/1回)				
2-3	看護教育制度と看護教育課程の変遷	(篠崎恵美子/2回)				
4-5	看護学カリキュラム作成のプロセス	(篠崎恵美子/2回)				
6-7	学習理論と学習方法	(伊藤千晴/2回)				
8-10	教育評価	(伊藤千晴/3回)				
11-13	看護技術教育と学習	(原好恵/3回)				
14	看護基礎教育における看護倫理教育	(伊藤千晴/1回)				
15	まとめ	(伊藤千晴/1回)				
評価基準						
<p>1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%</p> <p>A (100~80点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79~70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69~60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>						
到達目標			A	B	C	D
1. わが国の看護教育制度の歴史的発展にみられる特徴と課題について分析できる						
2. 看護学カリキュラム作成のプロセスを理解し、現行大学のカリキュラムをクリテ						

イークできる。				
3. 教授・学習過程における基礎的知識を理解し、体験学習理論の特徴について説明できる。				
4. 看護技術に関する教育の評価方法を理解し、考察することができる				
5. 看護技術に関する教育の指導案の基礎的知識を理解し、考察することができる				
6. 看護者としての倫理的態度の教育法について考察し、討議することができる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MB02	看護教育学演習M	1年/後期	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子、伊藤千晴、山口貴子、服部美穂		博士前期課程	

授業計画詳細																						
授業目的																						
<p>看護教育学特論Ⅰの学習を踏まえ、授業展開方法や演習展開方法、目的に応じた教育評価や実習評価方法などの演習を通して学修し、効果的な教育方法や教材の開発法、及び評価法などを先行研究やエビデンスに基づいて探求する。看護学生の看護実践能力、問題解決能力、判断能力などを高める教育・実習指導法とその効果を測定する評価法を模索すると同時に、看護学教師としての教育力を発展させ、自己の研究課題や研究計画に反映させる。</p>																						
授業内容																						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育研究のエビデンスに基づく看護学生の特性の理解 2. 目的に応じた授業案の設計法と教育評価法 3. 教材の開発のプロセスとその効果測定尺度の開発 4. アセスメント技術、看護基礎技術、倫理教育の授業展開法とその評価法 5. 問題解決過程の思考過程（臨床判断能力を高める）を重視した授業指導 6. 評価の目的に応じた実習評価法 7. 臨地実習指導者の教育指導と実習環境間との調整 8. まとめ 																						
留意事項																						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。 																						
教材																						
必要に応じて適宜使用																						
参考テキスト																						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 杉森みど理・舟島なをみ（2012）. 看護教育学 第5版, 医学書院. 2. 近藤潤子、小山真理子訳（1988）. 看護教育カリキュラム, その作成過程, 医学書院. 																						
授業計画（15回）																						
<p>授業はオムニバス方式、一部共同して展開する。</p> <table border="0"> <tbody> <tr> <td>1-2 教育研究のエビデンスに基づく看護学生の特性の理解</td> <td>(篠崎恵美子/2回)</td> </tr> <tr> <td>3-6 教材の開発のプロセスとその効果測定尺度の開発</td> <td>(篠崎恵美子/4回)</td> </tr> <tr> <td>7-10 目的に応じた授業案の設計法と教育評価法</td> <td>(篠崎恵美子/4回)</td> </tr> <tr> <td>11-13 アセスメント技術に関する授業展開法とその評価法</td> <td>(山口貴子/3回)</td> </tr> <tr> <td>14-16 看護基礎技術に関する授業展開法とその評価法</td> <td>(服部美穂/3回)</td> </tr> <tr> <td>17-19 倫理教育に関する授業展開法とその評価法</td> <td>(伊藤千晴/3回)</td> </tr> <tr> <td>20-23 問題解決過程の思考過程（臨床判断能力を高める）を重視した授業指導</td> <td>(伊藤千晴/4回)</td> </tr> <tr> <td>24 臨地実習指導者の教育指導と実習環境間との調整</td> <td>(伊藤千晴/1回)</td> </tr> <tr> <td>25-29 評価の目的に応じた実習評価法と実習指導案</td> <td>(伊藤千晴/5回)</td> </tr> <tr> <td>30 まとめ：学生の修得内容のまとめ 発表と検討により自己の教育力と研究に反映させる</td> <td>(伊藤千晴/1回)</td> </tr> </tbody> </table>			1-2 教育研究のエビデンスに基づく看護学生の特性の理解	(篠崎恵美子/2回)	3-6 教材の開発のプロセスとその効果測定尺度の開発	(篠崎恵美子/4回)	7-10 目的に応じた授業案の設計法と教育評価法	(篠崎恵美子/4回)	11-13 アセスメント技術に関する授業展開法とその評価法	(山口貴子/3回)	14-16 看護基礎技術に関する授業展開法とその評価法	(服部美穂/3回)	17-19 倫理教育に関する授業展開法とその評価法	(伊藤千晴/3回)	20-23 問題解決過程の思考過程（臨床判断能力を高める）を重視した授業指導	(伊藤千晴/4回)	24 臨地実習指導者の教育指導と実習環境間との調整	(伊藤千晴/1回)	25-29 評価の目的に応じた実習評価法と実習指導案	(伊藤千晴/5回)	30 まとめ：学生の修得内容のまとめ 発表と検討により自己の教育力と研究に反映させる	(伊藤千晴/1回)
1-2 教育研究のエビデンスに基づく看護学生の特性の理解	(篠崎恵美子/2回)																					
3-6 教材の開発のプロセスとその効果測定尺度の開発	(篠崎恵美子/4回)																					
7-10 目的に応じた授業案の設計法と教育評価法	(篠崎恵美子/4回)																					
11-13 アセスメント技術に関する授業展開法とその評価法	(山口貴子/3回)																					
14-16 看護基礎技術に関する授業展開法とその評価法	(服部美穂/3回)																					
17-19 倫理教育に関する授業展開法とその評価法	(伊藤千晴/3回)																					
20-23 問題解決過程の思考過程（臨床判断能力を高める）を重視した授業指導	(伊藤千晴/4回)																					
24 臨地実習指導者の教育指導と実習環境間との調整	(伊藤千晴/1回)																					
25-29 評価の目的に応じた実習評価法と実習指導案	(伊藤千晴/5回)																					
30 まとめ：学生の修得内容のまとめ 発表と検討により自己の教育力と研究に反映させる	(伊藤千晴/1回)																					
評価基準																						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% 																						

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 一単元の授業設計の作成プロセスについて理解ができる。				
2. 各自でアセスメント技術、看護基礎技術、倫理教育の教育プログラムを作成し、グループでクリティークできる。				
3. グループワークにおけるファシリテーターの役割をとることができる。				
4. 看護教育における実習指導の意義と実習評価上の留意点をあげ説明できる				
5. 知識、技術、態度などの目標達成に向けての具体的指導法を討議することができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MB03	看護教育学演習MⅡ	1年/後期	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子 伊藤千晴 山口貴子 服部美穂		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>看護実践能力は看護教育において基盤を形成し、また生涯にわたり個々の能力を維持・向上させることが求められる。この科目では基礎教育および継続教育における看護実践能力育成のための教育の能力を強化することを旨とする。具体的には次の2点である。</p> <p>1) 看護基礎教育における臨地実習での実習指導を体験し、看護学実習の意義や目的・目標到達のための効果的な指導方法の実際を学ぶ。これらの体験を振り返ることで看護者としての倫理観の育成や、看護学実習指導に関する自己の課題を明確にする。</p> <p>2) 看護実践現場でのフィールドワークおよび教育担当者への調査を実施し、継続教育の現状把握・分析を行い、課題を見いだす。さらに、見いだされた課題に対する看護実践現場での教育計画を立案する。</p>
<p>授業内容</p> <p>看護教育学特論M、看護教育学演習Mなどで学んだ内容を踏まえて、看護基礎教育を受ける学部生への臨地実習に参加し、担当教員とともに学生への指導の計画・評価を行う。</p> <p>臨地実習の指導案を作成し、教員とともに指導を振り返ることで、看護学実習の意義や目的・目標到達のための効果的な指導方法の理解を深める。具体的には教員の指導のもとで以下のことを行う。1) 学内で授業案(実習指導案)・教育評価の方法などの検討 2) 臨地実習での学生指導 3) 臨地実習指導終了後に学生の評価を検討する。臨地実習での教育指導の体験を振り返り、看護学実習の意義、看護者としての倫理観の育成、看護学実習指導に関する自己の課題を明確にする。</p> <p>また、看護実践現場での教育能力を強化するために、1) 看護実践現場でのフィールドワークおよび教育者への調査 2) 看護実践現場での教育計画の立案および発表・討議を行う。</p>
<p>留意事項</p> <p>1. 学内および実習現場での学習に積極的に参加し、現場の指導者・スタッフの協力が得られるようにする</p> <p>2. 提示された事前課題については、期日までにまとめて積極的に教員から指導を受ける</p> <p>3. 臨地実習での教育指導体験を振り返り、自己の課題を明確にし、発表・討議する</p> <p>4. 看護実践現場でのフィールドワークおよび教育担当者への調査を実施する</p>
<p>教材</p> <p>必要に応じて適宜使用する</p>
<p>授業計画 (15回)</p> <p>1-8 臨地実習における授業案の作成 (山口貴子、服部美穂、篠崎恵美子) 実際に指導を行う看護学実習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的・目標の明確化 ・指導対象となる学生の学生観の明確化 ・授業案の作成(学習目的、教授方法、場所、教材・教具、評価など) <p>9-24 臨地実習指導 (山口貴子、服部美穂、篠崎恵美子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員とともに実際に指導を行う臨地実習について打ち合わせを行う ・担当する臨地実習に参加する ・事前に作成した実習指導案をもとに、学部生への指導を行う ・学部生への指導の報告を教員へ行う <p>25 臨地実習での教育指導の体験の振り返りおよび自己の課題の明確化の発表・討論・まとめ (山口貴子、服部美穂、篠崎恵美子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習での教育指導を振り返る ・看護学実習の意義を探求する

26-27	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学実習指に関する自己の課題を明確にする 看護実践現場における継続教育の基本的な考え方	(伊藤千晴)
	<ul style="list-style-type: none"> ・継続教育の定義 ・継続教育の対象 ・継続教育の範囲 ・継続教育の基準 	
28-29	看護実践現場におけるフィールドワークおよび教育者への調査	(伊藤千晴)
	<ul style="list-style-type: none"> ・継続教育の現状を調査する ・現状を分析し、課題を見いだす 	
30	看護実践現場での教育計画の立案および発表・討議	(伊藤千晴)
	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の結果をもとに課題に対する教育計画を立案する ・立案した教育計画について発表し、討論する 	

評価基準

5つの到達目標について事前課題 60%、看護学実習への積極的な参加状況 20%、事後課題 20%で評価する

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 看護教育学特論 M、看護教育学演習 M などで学んだ内容を踏まえて、看護基礎教育を受ける学部生への臨地実習における授業案を作成することができる				
2. 看護基礎教育の看護学実習において目的・目標到達のために効果的な指導ができる				
3. 看護学実習の指導体験をもとに、看護学実習の意義、看護者としての倫理的態度の教育、看護学実習指導に関する自己の課題を明確にすることができる				
4. 看護実践現場でのフィールドワークおよび教育担当者への調査を実施し、現状を把握し、今日的な課題を見いだすことができる				
5. 見いだされた課題について、教育計画を立案することができる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MB2101	看護保健管理学特論M	1年/前期	2単位
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>院内から院外へとケアが継続する看護保健管理上の課題に対処するために、看護実践リーダーとして、他職種・他部門・他施設・地域などとの協働・連携の役割・方法および連携システムの構築の要件とその活用法を学ぶ。</p>
<p>授業内容</p> <p>病院の機能分化がはじまり、急性期医療での在院日数は短縮される一方で、退院後も継続して在宅ケアができるように地域との連携を担保することが重要となっている。こうした社会情勢をふまえて看護の質向上をめざすためには、病院の臨床現場における看護管理のみならず、地域における多職種が協働しておこなわれる継続ケアを視野にいれた幅広い保健管理が求められている。</p> <p>看護実践リーダーとして、院内の地域連携室（退院調整支援室）や外来、他職種との連携や地域における院外施設との連携の役割を学ぶ。</p> <p>質の高い継続看護を実施するために、病棟から外来もしくは院外へと連携する際に、患者のニーズを適切にアセスメントし、かつ連携先の条件を分析する科学的思考力を身につけ、病院から地域・在宅へ移行するシステムの構築方法を修得する。</p>
<p>留意事項</p> <p>各回のテーマに関する国内外論文を検索し、論文内容、研究方法について学習しておくこと。プレゼンテーションは、テーマの理論概説、先行研究や既存資料の観察などを通じた現状分析、自身の体験事例などを統合させて、改善策の提言、看護実践への応用などを含む。討議内容をふまえて課題レポートを作成する。</p> <p>なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。</p>
<p>教材</p> <p>必要文献は、必要に応じて提示する。</p> <p>（参考書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石原ゆきえ他著：多職種協働事例で学ぶ退院支援・調整、日総研、2014年 ・細田満和子：「チーム医療」とは何か、日本看護協会出版会、2012年 ・田村由美：新しいチーム医療、看護の科学社、2012年
<p>授業計画（15回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉制度に関する国内外動向と関連法規（2回） 保健医療福祉制度とヘルスケアサービス提供組織を規定する法律、特に医療法、社会保障制度改革推進法 2. 地域包括ケアシステムと看-看連携（3回） 具体的な地域における地域包括ケアシステムについて、院外施設との連携の方法について説明し、看-看連携における課題を見出し、その解決案の提示 3. チーム医療における看護職の役割（3回） 多職種で構成される院内のチーム医療における看護職の役割と院内における連携の効果的な運営や教育、協働の方法、他職種との調整方法 4. 院内から院外への連携（3回） 急性期病院での退院支援に関する効果的な方策、多職種ならびに関連施設との連携のあり方を検討し、院内から地域へと継続ケアを視野にいれた包括的な看護保健管理上の課題を検討 5. 院内外の連携における看護実践リーダーの役割（1回）

看護実践リーダーとしての、院内の地域連携室（退院調整支援室）や外来、他部門、他職種との調整や地域の院外施設との連携方法

連携に際し、入院中の患者のニーズを適切にアセスメントし、連携先の（訪問看護ステーション・在宅支援診療所・高齢者ケア施設・医療機関など）の条件の分析など科学的思考力を養い、病院から地域・在宅へ移行するシステムの構築において看-看連携を中心とした課題を検討

6. 連携と患者情報（1回）

連携と患者情報について院内外で共有される退院サマリや看護記録などから抽出される患者情報について、電子カルテなどの取扱いに関する規則や医療情報管理に関する法律などを理解

7. 連携システムの構築のための要素・要件とその活用方法（2回）

患者の意向をふまえた療養生活を支援するツールの検討

（藤原奈佳子／15回）

評価基準

1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%

A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 院内のチーム医療における看護職の役割を理解できる。				
2. 院内から院外への連携において、多職種ならびに関連施設との連携のあり方を検討できる。				
3. 院内外の多職種連携における看護実践リーダーの役割を理解し、患者のニーズを適切にアセスメントでき、看-看連携を中心とした課題を検討できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MB2201	看護保健管理学演習M	1年/後期	2単位
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
看護管理学領域に関連する課題を中心に、国内外の論文や図書などから情報を収集し、自己の研究課題を導く。				
授業内容				
論文講読は、研究デザインや研究方法の妥当性と信頼性、得られた結果の検討など批判的に精読する。文献検索法、文献整理など研究の基礎的な技術や情報収集能力を修得する。必要な研究方法については、専門書を輪読する。また、既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させる能力を修得する。学生の関心に応じて先進的取り組みを行っている組織においてフィールドワークを行い、その結果を報告・討議し看護管理上の課題を検討する。				
国内外の文献検索法を学び、文献の系統的整理ができる。				
研究について「バーンズ&グローブ看護研究入門」を中心に購読し、研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究する。				
既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させることができるようにする。				
留意事項				
自己の研究課題を明確にするために、事前に自ら演習計画を立案するなど積極的な準備が必要である。				
なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。				
教材				
必要文献は都度提示する。				
書名：バーンズ&グローブ看護研究入門				
著者名：Nancy Burns/Suzan K. Grove/監訳＝黒田裕子他、				
出版社・出版年：エルゼビア・ジャパン；原著第7版・2015年 価格：9,720円				
授業計画 (30回)				
1-6 国内外の文献検索法を学び、文献の系統的整理ができる。(6回)				
7-22 研究について「バーンズ&グローブ看護研究入門」を中心に購読し、研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究する。(16回)				
23-26 既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈。(4回)				
27-30 課題の明確化へと発展させることができる。(4回)				
(藤原奈佳子/30回)				
評価基準				
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%				
A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 国内外の文献検索法を学び、文献の系統的整理ができる。				
2. 既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させる能力を修得できる。				

3. 研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究することができる。

--	--	--	--

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MB2301	看護保健管理学演習MⅡ	1年/後期	2単位
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>看護管理学および保健管理学領域における ①リーダー能力 ②管理者能力 ③現場指導者としての教育能力の強化をめざす。これらの能力内容を理解し、知識・技能・コミュニケーション力を含めて計画的、効果的な実践現場での展開方法を学ぶ。そのために(1)リーダー、(2)管理者、(3)教育支援者のそれぞれの役割と機能について、実習病院でのフィールドワークを体験し、その前後に学内演習を加える。</p>
<p>授業内容</p> <p>看護マネジメントに求められる能力について、(1)実践リーダー(チームリーダー、チーム医療・他職種との調整者、退院支援調整者)、(2)管理者(看護師長、看護部長)、(3)教育支援者(スタッフ、学生の教育担当師長)のそれぞれの立場における役割の認識と機能を果たす能力を理解し、看護マネジメントとして実施展開する能力の強化・向上を目指す。上記の三つの課題について、実習病院を中心として、その前(準備)と後(まとめ)は学内での演習を設定する。この演習における看護マネジメントは、看護管理に関する論理的な考え方に加えて、医療体制、ヘルスケアシステムにおける社会資源など患者、家族をとりまく保健医療体制についても事前に学び、早期の退院支援が地域での継続ケアに有機的につながることを意識しながら、実習病院でのとりくみや看護マネジメントの実際に接することにより自施設での実践力の強化・向上をめざす。</p>
<p>留意事項</p> <p>1. 学内と現場での演習において積極的に参加し、現場の指導者やスタッフの協力が得られるように調整する。 2. 授業の課題について事前に情報収集し、レポートを期日ごとに作成し発表や報告を行う。 3. 自己の看護マネジメントの実践力強化・向上について具体的に評価する。</p> <p>なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。</p>
<p>教材</p> <p>教員および実習病院担当者より適宜提示</p>
<p>授業計画 (30回)</p> <p>(1)実践リーダー(チームリーダー、チーム医療・他職種との調整者、退院支援調整者)、(2)管理者(看護師長、看護部長)、(3)教育支援者(スタッフ、学生の教育担当者)のそれぞれの立場の役割と機能を理解し、現場での看護マネジメントとしての実践展開能力の強化・向上をめざす。</p> <p>上記三つの課題を達成する方法は以下のとおりとする。</p> <p>1 教員の指導のもと、学内で演習の準備のための文献検討と討議によるレポートを作成する。 2 実習病院の管理者(または担当者)の指導のもと、可能な範囲で実践リーダー、管理者、教育支援者に同行またはインタビューを実施し、実際の行動や態度、考え方をとおして、その行動や態度がもたらす影響について看護管理特論M、看護保健管理学特論Mの授業内容とあわせて考察する。 3 教員の指導のもと、学習内容を深めるためのまとめをする。各自のレポートに基づいて学内での発表・討論から本演習履修学生が情報を共有することで演習効果を増大させる</p> <p>1-4: (学内) 三課題のフィールドワークの準備(文献調査、討論、レポート作成)(4回) 5-12: (病院) 病院における看護実践にかかわるリーダー(チームリーダー、チーム医療・他職種との調整者、退院支援調整者、中堅看護管理者、看護副師長、主任、係長)の役割・機能を果たす実践力の向上(8回)</p> <p>1) 病棟スタッフマネジメント、チームナーシングの遂行方法 2) 良質なチーム医療展開のための他職種との調整方法</p>

3) 安心できる継続ケアへの展開、退院支援調整のとりくみ方法

4) 倫理的調整の方法

5) リーダーの役割と機能

13-22：(病院) 病院における看護管理者（看護師長、看護部長）としての役割・機能を果たす実践力の向上（10回）

1. 看護師長（中堅管理者）として

1) 病棟の理念に基づく病棟運営

2) キャリア開発におけるスタッフのキャリア発達へのアプローチ方法

3) 質の高い看護の提供のためのとりくみ

4) 看護師長の役割と機能

2. 看護部長（トップ管理者）

1) 病院の方針、看護部の方針をふまえた看護部の組織づくり

2) 他職種、他部門との調整、交渉の方法

3) 人的資源管理と組織力強化へのとりくみ

4) 看護の質と財務管理

5) 看護部長の役割と機能

23-28：(病院) 病院における教育支援者（スタッフ、学生の教育担当者）としての役割・機能を果たす実践力の向上（6回）

1. スタッフへの教育支援

1) 看護実践力の評価方法

2) 新卒看護職員の教育方法

3) 職務満足をもたらす教育方法の工夫

2. 看護学生の実習における教育支援における留意点

3. 教育支援者の役割と機能

29-30：(学内) 上記の三課題のレポートに基づく発表・討論・まとめ（2回）

(藤原奈佳子／30回)

評価基準

1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%

A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)

B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標

	A	B	C	D
1. 看護実践リーダーの役割・機能の理解と効果的な看護マネジメントの展開方法について理解し、自己能力を判断して自施設で有効な範囲で演習の成果を活用できる。				
2. 管理者の役割・機能の理解と効果的な看護マネジメントの展開方法について理解し、自己能力を判断して自施設で有効な範囲で演習の成果を活用できる。				
3. 教育支援者の役割・機能の理解と効果的な教育の展開方法について理解し、自己能力を判断して自施設で有効な範囲で演習の成果を活用できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MB9101	看護教育管理学特別研究 MI	1年/通年	4
担当教員		課程	
篠崎恵美子、伊藤千晴、藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本研究目的は看護教育・看護管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む、看護教育学・看護保健管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その分野で広い視点が持てるように、分野で指導を行う。学生は分野の中から主指導教員を選び、その教員と相談して副指導教員を選択する。専門的視点から科学的思考力と研究能力を持った、看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究計画発表会での発表を目指す。</p>
<p>授業内容</p> <p>本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。</p> <p>研究は分野の広い視野を基盤として個別研究を行う。看護の改善・改革のために、看護サービスの提供方法、看護システム、看護教育内容と展開方法などについて取り組む。研究の過程を理解し、研究計画書を作成する。研究の課程は、①研究テーマと目的の決定、②研究倫理を含めた研究デザインの選定、データ収集法、③データ分析法、④研究の精度を保つ質管理方法、⑤修士論文計画書を完成する。</p> <p>授業は、学生が広い視野をもつために分野の教員が学生のテーマに合わせて討論を主体として講義を含めて展開する。学生主体で研究過程に沿って取り組み、教員は上記①～⑤に沿って指導する。</p> <p>看護教育領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。</p> <p>(篠崎恵美子)</p> <p>看護教育領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。</p> <p>研究テーマは、フィジカルアセスメントにコツと落とし穴、強くなる病態関連図、例えば糖尿病、臨床の看護実践家のアセスメント教育、基礎看護実習に関する振り返り、学び、模擬患者による解釈モデル効果の経時的特徴、看護技術に関する研究、臨床と教育の両者が求める呼吸に関するフィジカルアセスメントに関する課題を探求する。</p> <p>(伊藤千晴)</p> <p>看護教育領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。</p> <p>研究テーマは学生に基礎看護学実習に関する研究、フィジカルアセスメントに関する研究、看護の歴史、新人看護師の研究と倫理教育の歴史的変遷についての研究を行う。</p> <p>(藤原奈佳子)</p> <p>看護保健管理学領域では、看護政策および看護管理学、医療管理学領域における独自のテーマ・方法を含む研究計画書を作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いずれのテーマにおいても看護実践現場の組織特性を踏まえた看護マネジメントの改善や変革のために新たな知見の提案ができること。 2. 研究手法は、看護・医療の質を構造（提供体制）、過程（ケアや医療の内容）、成果（実際に得られた効果）の視点から測る評価研究、調査研究、介入前後比較研究、関係探索研究、疫学研究手法を用いる。 3. 研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム ②多職種連携と協働 ③医療専門職の人的資源活用 ④看護実践における質評価 ⑤院内の療養環境、医療安全 ⑥病院の機能分化をふまえたへ

ルスケアシステム ⑦難病・慢性疾患患者の継続看護など。				
留意事項				
1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。				
教材				
・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。				
授業計画				
1-20 共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて、担当教員並びに看護教育管理分野が紹介し、併せて教授する。 21-23 研究テーマと目的を決定：(自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。 24-27 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討 28-30 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択 31-35 データ分析法の選択 36-41 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法 42-48 研究計画書を作成 49-52 看護学研究科委員会による学生とテーマ関連教員参加の下「発表会」において準備・発表・討論 53-60 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、また看護教育管理学関連教員が参加し助言の下、研究計画書を完成する。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究論文のクリティークができる。				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
5. 看護教育管理学分野の看護活動の改善・改革のために新しい知見が予測される研究計画を研究計画発表会で発表できる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MB9201	看護教育管理学特別研究MⅡ	通年	4
担当教員		課程	
篠崎恵美子、伊藤千晴、藤原奈佳子		博士前期課程 2年	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>特別研究Ⅱでは特別研究Ⅰの研究計画に沿って看護教育・看護管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。看護教育学・看護管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その分野で広い視点が持てるように2つの領域でのいずれかにおいて個別専門的視点から科学的思考力と研究能力と看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。そのために倫理審査の承認を得て、研究を実施し、中間・最終発表会で研究について発表する過程を経て、研究論文を完成させる。</p>
<p>授業内容</p> <p>本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。そのため研究目的を達成するために特別研究Ⅰで作成した研究計画に沿って次の①～⑧の通り研究を進める。研究の精度を保つ方法で①データを収集する。②効率的なデータ入力方法、③妥当なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて結果をまとめる。④研究結果データに基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる。⑤研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を適切に検討する。⑥「修士論文中間発表会」において評価を受けて修士論文を修正し、完成させる。</p> <p>看護教育領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。</p> <p>(篠崎恵美子)</p> <p>看護教育学領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。</p> <p>研究テーマは、フィジカルアセスメントの教育・実践に関する研究、看護技術教育に関する研究、コミュニケーションスキルに関する研究などである。</p> <p>(伊藤千晴)</p> <p>研究テーマは、看護教育に関する研究(基礎教育・継続教育)、看護倫理に関する研究などである。</p> <p>(藤原奈佳子)</p> <p>看護保健管理学領域では、看護政策および看護管理学、医療管理学領域における独自のテーマ・方法を含む研究計画書を作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いずれのテーマにおいても看護実践現場の組織特性を踏まえた看護マネジメントの改善や変革のために新たな知見の提案ができること。 2. 研究手法は、看護・医療の質を構造(提供体制)、過程(ケアや医療の内容)、成果(実際に得られた効果)の視点から測る評価研究、調査研究、介入前後比較研究、関係探索研究、疫学研究手法を用いる。 3. 研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム ②多職種連携と協働 ③医療専門職の人的資源活用 ④看護実践における質評価 ⑤院内の療養環境、医療安全 ⑥病院の機能分化をふまえたヘルスケアシステム ⑦難病・慢性疾患患者の継続看護などである。
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。 2. レポートなどの提出物は期日ごとに行う。 3. 授業への積極的参加と研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。
<p>教材</p>

1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。
2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。

授業計画 (60回)

- 1-10 研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備
- 11-20 研究の精度を保つ方法でデータを収集
- 21-35 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化研究結果に基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる
- 36-43 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討
- 44-50 「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論
- 51-60 発表した論文の評価に基づいて修正し論文を完成する

評価基準

6つの到達目標について評価する

- A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 倫理審査の承認を得ることができる				
2. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる				
3. 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる				
4. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる				
5. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる				
6. 研究目的から結論までの論旨の一貫性と信頼性・妥当性が確認できる				
7. 「中間発表会」「最終発表会」において、評価を受け、論文を修正することができる				
8. 決められた期日までに最終論文を提出することができる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
ME2101	地域看護学特論 M	1年/前期	2単位
担当教員		課程	
巽あさみ 肥後恵美子 松原紀子		博士前期課程 1年	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>公衆衛生看護学のコアとなる理論と実践技術を、論理的な柱に添って学習する。また、個と集団、集団・組織等、国内・外の先駆的な活動実践例より地域看護・公衆衛生看護に必要な能力を獲得する。</p> <p>在宅看護活動に必要な諸概念と在宅ケア利用者の満足度、リスク要因、意思決定支援、及びアウトカム評価の学習に併せて国内外の在宅ケアシステムを学び在宅看護に必要な実践力を体系的に獲得する。</p>
<p>授業内容</p> <p>地域における保健師活動のコアとなる理論と実践技術を、論理的な柱に添って学ぶ。併せて保健・看護行政関連情報ネットワークと倫理的課題、一連の地域看護過程を理解する。</p> <p>また、一定の行政単位(都道府県、政令市、市町村)、産業保健、学校保健等の地域ケアシステムを学ぶ。併せて多様な個と集団及び行政の保健計画や健康支援と諸施策、情報システムなどモデル的先駆的な活動実践例を通し理解する。地域看護学研究方法を理解する。</p> <p>(オムニバス全 15 回)</p> <p>(巽あさみ/ 5 回) 地域看護学の基盤となる理論、地域看護システムで用いる基盤となる概念、地域(行政)看護活動システムと用いる理論と概念、実際の展開、産業保健における対象への健康支援と専門的実践の探求、地域看護学における研究方法</p> <p>(松原紀子/ 5 回) 学校保健分野における対象コミュニティの診断、ヘルスプロモーションの理念による健康づくり、連携・協働を基盤とするコミュニティにおける学校保健の展開、学校保健システム・学校保健組織活動を支えるに人々・機関の役割と機能、チーム学校と学校保健活動の展開</p> <p>(肥後恵美子/ 5 回) 諸外国の在宅ケアの制度・サービスシステム、在宅看護展開における諸概念の理解、在宅ケア利用者の心身アウトカムと満足度及び改善方法の検討、在宅ケアにおけるリスク要因と管理、病院から在宅ケア根の移行支援を含めた在宅ケア利用者と家族の意思決定支援、在宅ケアの質管理のためのアウトカム評価方法、訪問看護ステーションにおける質の高いサービス提供のための運営・管理方法</p>
<p>留意事項</p> <p>授業に①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。</p>
<p>教材</p> <p>資料(書名、必要な文献など)は、その都度紹介する。</p>
<p>授業計画 (15回)</p> <p>1. 地域看護学の基盤となる考え方 地域看護システムで用いる理論と基盤となる概念 (巽あさみ/1回)</p> <p>2. プライマリ・ヘルスケアにおける地域看護の役割について (巽あさみ/1回)</p> <p>3. ヘルスプロモーションとその展開方法</p> <p>4. 公衆衛生看護活動の実践における個人・家族、集団・地域・組織支援について、施策化や保健計画、組織間・他組織連携と協働活動について (巽あさみ/1回)</p>

- 5. 地域看護学における研究方法の理論や特徴（巽あさみ/1回）
- 6. 学校保健分野における対象コミュニティの診断（松原紀子/1回）
- 7. ヘルスプロモーションの理念による健康づくり（松原紀子/1回）
- 8. 連携・協働を基盤とするコミュニティにおける学校保健の展開（松原紀子/1回）
- 9. 学校保健システム・学校保健組織活動を支えるに人々・機関の役割と機能（松原紀子/1回）
- 10. チーム学校と学校保健活動の展開（松原紀子/1回）

- 諸外国の在宅ケアの制度・サービスシステム・看護の機能からわが国の在宅看護の特徴（肥後恵美子/1回）
- 在宅看護展開における諸概念の理解（肥後恵美子/1回）
- 11. 在宅ケア利用者の心身アウトカムと本人・家族の満足度および改善方法の検討（肥後恵美子/1回）
- 12. 在宅ケアにおけるリスク要因（転倒・感染・病状急変・医療的ケア等）と管理を含めたケア（肥後恵美子/1回）
- 13. 病院から在宅ケアへの移行支援を含めた在宅ケア利用者と家族の意思決定支援（肥後恵美子/1回）
- 14. 在宅ケアの質管理のためのアウトカム評価方法（肥後恵美子/1回）
- 15. 訪問看護ステーションにおいて質の高いサービス提供のための運営・管理方法（肥後恵美子/1回）

評価基準

- 1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30%
- A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 地域看護活動で用いる理論と概念を理解し、地域における健康課題抽出ができる。				
2. 地域看護学における研究方法を理解できる。				
3. 学校保健分野における対象コミュニティの診断が分かり、健康課題を抽出できる。				
4. ヘルスプロモーションの理念に基づく、学齢期における健康づくりについて説明できる。				
5. 在宅看護におけるケアシステムについてアウトカム指標を用いた評価方法を説明できる。				
6. 在宅ケア利用者と家族の意思決定支援、および質の高いサービス提供のための運営・管理方法理解できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
ME2201	地域看護学演習 M	1年/前期	2
担当教員		課程	
巽あさみ 肥後恵美子 松原紀子		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 目的：地域看護の一端を担う国、都道府県・市町村や民間企業などに所属する看護専門職による地域看護診断、看護計画、実践・評価の一連の展開過程と、その方法を理解できる。 学習目標：①行政事例を通して既存の統計・報告・調査資料の分析方法を理解できる。 ②GIS(Geographic Information System)地図を用いて健康と関連課題の明確化手法を学ぶ。 ③community as partner の考え方を基盤に人々と協働して、資源開発や施策形成への発展を踏まえた問題解決過程を学び、具体例にあてはめ評価できる。
授業内容 実際の地域を対象に、取り寄せた保健統計・報告・調査資料を GIS(Geographic Information System)地図などを用いて分析を行い、図表で示し、よりわかりやすく健康問題と関連課題を表示し明確化を図る。また、地区踏査と机上演習によって一連の活動過程の展開を通して看護の立場で援助可能な問題を明らかにできる。併せて、机上演習により資源開発や施・政策への発展に向けた一連の政策形成の過程と評価の在り方について学び、具体例にあてはめ、分析、評価ができる。 (オムニバス方式 全 30 回) (巽あさみ/肥後恵美子/松原紀子 12 回) コミュニティ・アセスメントの理論とそのプロセス、地域看護実践のモデルと地域診断：地区踏査資料,各種保健統計,各種報告書,調査。資料チェックと分析、地域ニーズに応じた事業企画策定、地域ニーズに応じた事業企画・予算化、事業企画プレゼンテーション実施と評価、一連の事業過程評価と分析の手法 (巽あさみ/肥後恵美子/松原紀子 12 回) (共同) 地域看護診断分析作業、GIS ソフトを用いて分析、地域ニーズの把握と課題抽出 (巽あさみ/肥後恵美子/松原紀子 2 回) (共同) 地域ニーズに応じた施策・事業計画・プログラム開発 (巽あさみ/肥後恵美子/松原紀子 4 回) 地域看護活動における質管理・評価、地域看護研究計画書の検討
留意事項 授業に①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。
教材 資料（書名、必要な文献など）は、その都度紹介する。
授業計画（ 15 回 ）
授業計画（ 30 回 ） （巽あさみ/肥後恵美子/松原紀子） 1-2 コミュニティ・アセスメントの理論とそのプロセス 3-4 地域看護実践のモデルと地域診断：地区踏査資料、各種保健統計、各種報告書、調査資料チェックと分析 5-12 地域看護診断分析

13-16 地域ニーズの分析と課題抽出				
17-18 地域ニーズに応じた施策・事業計画・プログラム開発				
19-20 地域ニーズに応じた事業企画策定				
21-22 地域ニーズに応じた事業企画・予算化				
23-24 事業企画プレゼンテーションの実施と評価				
25-26 一連の事業過程評価と分析の手法				
25-28 地域看護活動における質管理・評価				
29-30 地域看護研究計画書の検討				
評価基準				
1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30%				
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 行政事例を通して既存の統計・報告・調査資料を適切に分析できる。				
2. 地域看護診断、看護計画、実践・評価の一連の過程について、地域保健行政事例を用いて説明できる。あわせて課題と対策等を提言できる。				
3. 地域ニーズに応じた実用可能な事業企画が立案でき、予算化を考え、プレゼンテーションを行うことができる。				
4. 一連の事業過程を分析した上で、新たな施策提案ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
ME2301	地域看護学演習 MⅡ	1年/後期	2単位
担当教員		課程	
巽あさみ 肥後恵美子 松原紀子		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的
<p>地域看護学の対象領域において、個人・家族・集団を対象とし、地域看護学演習Mで抽出した健康課題をベースとして、地域住民に対するケア方法、ケアシステム、地区組織の育成、健康危機管理、保健医療福祉計画の策定と評価、実習学生の教育とスタッフの育成ができる能力を養う。併せて健康支援に関連する専門職のコンサルテーション・コーディネーションが実践できる能力を養う。</p>
授業内容
<p>地域看護領域における実践リーダーとして、管理者として、教育者としての役割・機能を果たす能力を理解し、その実施展開能力の強化・向上を目指す。そのため、リーダー能力、管理能力、教育力強化について学修する。理論的な考え方を学び、その後、実践力の強化・向上を目指す。教育力については、臨地の保健師や、関係スタッフ等、保健師学生(公衆衛生看護学実習)への支援を見学、一部指導を体験したうえで考察する。学修内容を深めるため、学生の授業目標に沿ったレポートに基づいて発表・討論を行う。</p> <p>地域の人々の健康課題の解決に向けたケア方法、ケアシステム、地区組織の育成、健康危機管理、保健医療福祉計画の策定と評価、実習学生の教育とスタッフの育成について学ぶ。さらに、地域住民の健康課題から、優先すべき課題を抽出し、地域の実情に応じた対応の在り方を予測する。／保健センター実習を経験する／把握した健康課題とその対応の実態から、健康課題解決に向けて、地域看護が今後取り組むべき具体的な内容は何かを、実際の事例やデータを基に議論する。そのうえで、今後の地域看護管理において優先的に取り組むべき内容を具体的に提示しまとめ、発表する。／研究課題に応じて、学内ででのまとめを修正し、発表する。</p>
留意事項
<p>①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。</p>
教材
<p>資料(書名、必要な文献など)は、その都度紹介する。</p>
授業計画 (30回)
<p>授業計画(30回)</p> <p>1～8回 研究課題に合わせて、地域の人々の健康課題の解決に向けたケア方法、ケアシステム、地区組織の育成、健康危機管理、保健医療福祉計画の策定と評価、実習学生の教育とスタッフの育成について学ぶ。さらに、地域住民の健康課題から、優先すべき課題を抽出し、地域の実情に応じた対応の在り方を予測する。</p> <p style="text-align: right;">(巽あさみ、肥後恵美子、松原紀子)共同</p> <p>9～24回 保健センター実習指導を経験する(シミュレーション)。</p> <p>1)研究課題は、学生自身が選んだ課題に中心的に取り組み、地域の健康課題とその対応の実態を把握する。</p> <p>2)教育力については、臨地の保健師や、関係スタッフ、保健師学生(公衆衛生看護学実習等)への支援をシミュレーションで行う。</p> <p style="text-align: right;">(巽あさみ、肥後恵美子、松原紀子)共同</p> <p style="text-align: right;">共同</p>

25～28回 把握した健康課題とその対応の実態から、健康課題解決に向けて、地域看護が今後取り組むべき具体的な内容は何かを、実際の事例やデータを基に議論する。そのうえで、今後の地域看護管理において優先的に取り組むべき内容を具体的に提示しまとめる。
 (巽あさみ、肥後恵美子、松原紀子)共同

29～30回 以上の学びをまとめ、作成した資料とレポートを提出する。

評価基準

1. 授業への参加状況、作成資料やプレゼンテーション等 70% 2. レポート 30%
- A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 地域看護学における看護の個人・家族・集団についての的確なアセスメントができる。				
2. 地域住民の健康課題から、優先すべき課題を抽出し、地域の実情に応じた対応の在り方を予測することができる。				
3. 健康課題の解決に向けたケア方法、ケアシステム、地区組織の育成、健康危機管理、保健医療福祉計画の策定ができる。				
4. 健康課題の解決に向けたケア方法、ケアシステム、地区組織の育成、健康危機管理、保健医療福祉計画の実践をシミュレートし、評価ができる。				
5. 教育力については、臨地の保健師や、関係スタッフ、保健師学生(公衆衛生看護学実習等)への支援をシミュレーションで行い、今後の地域看護管理において優先的に取り組むべき内容を具体的に提示しまとめる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
ME4101	国際保健看護学特論M	1 / 前期	2 単位
担当教員		課程	
西川 まり子		博士前期	

授業計画詳細

授業目的

国際保健看護学を学ぶことによって近隣者もしくは世界の人々に平等なヘルスケアを提供することをめざす。そのために、国際社会においてヘルスの分野で活躍できる基礎を学び、それぞれの研究の背景に取り込む事や将来その実践リーダーや教育者へとつなげる事ができる。

このクラスでは、(1) 将来、国際社会においてヘルスの分野で活躍する基礎を学ぶために、国際的なヘルスに関係する指標から、世界のヘルス状況をヘルスシステムと共に把握する。(2) グローバル化の中での人々の移動や原住民のヘルスと多文化看護を理解する。国境を越えて移動している人々の国家間のギャップと問題点を理解する。(3) 看護と他職種連携による、平等なヘルスを提供するための最新の状況と問題点を理解し、その対策を検討できる。(4) 国内において国際保健看護学のイニシアチブをとることが出来る。

授業内容

国際的な視点を踏まえた内容がそれぞれの研究の中に評価される形で組み込まれるように学ぶ。

自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために国際社会においてヘルスの分野で活躍する視野を深める。授業は、国際保健看護学の専門的な知識をより深める。内容は、国際保健看護特論を学ぶ意義、世界のヘルスの指標、ヘルスの動向、グローバル化による人々の移動。日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのヘルスプロモーションを含めた現状と問題点として外国人旅行者の対策、中国残留日本人孤児帰国者（主に広島と京都）、短期就労者、中国人留学生を学ぶ。海外のヘルス事情では特に、発展国であるアメリカ東海岸への移民としてチベット人、カンボジア人、ラオス人の生活。途上国では、ケニアのスラムにおけるヘルス事情、ベトナムのヘルス事情、難民キャンプ場における現状と対策。海外のヘルス事情授業①～⑦のシリーズで深める。最後にまとめとして、レポート作成とプレゼンテーション・討論をおこなうことにより、具体的に習得できるようにする。

留意事項

学生には積極的に質疑・討論、発表に積極的に参加することを期待する

教材

日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3200

UNICEF『世界子供白書』最新版¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版, ¥10

<資料>

Christina Harlan (2014). Global Health Nursing: Narratives from the Field, Springer Pub Co, New York. ISBN-13: 978-0826121172 ¥6650 デイヴィッド ワーナー, 若井 晋 (翻訳)『いのち・開発・NGO』1998, 新評論 ISBN13:978-4794804228 ¥3990

イシメール・ベア, 忠平美幸 (翻訳)『戦場から生きのびて ぼくは少年兵士だった』河出書房新社 (2008). ISBN-13: 978-4309204864 ¥1728

西川まり子『目で見る国際看護』DVD I II III, 医学映像教育センター(2012) ¥29400 X3

その他、クラスに合わせて、本や論文を適宜配布

授業計画 (15回)

国際保健看護学の総論：国際保健看護学特論を学ぶ意義

1. 国際保健看護学を学ぶ意義、動向、世界のヘルス指標、
2. 世界のヘルス事情① 看護の先駆者 フランス人ジェン・マウス、世界のヘルスの歴史的展開と現代の課題。将来に向けて。SDG's ゴールに向けた世界の動きと日本
3. 世界のヘルス事情② 国際的な医療経済とヘルスシステム：医療のアクセス

4. 世界のヘルス事情③ ヘルスと教育、ジェンダー問題
5. 世界のヘルス事情④ ジェンダーの問題、世界の人口と家族計画、FGMの概要
6. 世界のヘルス事情⑤ 世界の人権、テロ、少年兵士の問題、ヘルスと教育、孤児
7. 世界のヘルス事情⑥：途上国の環境とヘルスの問題：ケニアのスラムにあるキベラにおけるヘルス事情、感染症
8. 世界のヘルス事情⑦：発展国のヘルス問題：肥満（特にアメリカやオーストラリ）、他
9. 文化人類学・医療人類学と共に学ぶ健康や病気のとらえ方
10. グローバル化の中での人々の移動：日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのヘルスプロモーションを含めた現状と問題点：中国残留日本人孤児帰国者（主に広島と京都）、短期就労者、増加する中国人留学生の特徴。海外の移民：アメリカ東海岸への移民：チベット人、カンボジア人、ラオス人の生活
11. グローバル化による人々の移動：日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのケアの実際。外国人旅行者の対策を含める
12. 原住民：アボリジニーやアメリカインディアンの生活や社会的背景に由来するヘルスへの影響
13. 紛争による問題：難民保健（シリア、スーダン等の難民キャンプでのヘルスや ICN による看護師の移動図書等。
14. まとめ
15. プレゼンテーション・討論

評価基準

- ① クラスへの参加度 20% ②テーマごとのレポート（小レポート）25%、③一つの国もしくはテーマでのレポートと発表 45%、④地図のクイズ 10%
- A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
世界のヘルスの指標と、ヘルスへのサポートにおける世界トップが考えている目標について理解できる				
世界のヘルス問題（感染症を含める）、看護に対して、ポイントを絞ってその内容を深めることができる				
グローバル化の中で、難民を含む世界の人々の移動に伴うヘルスに関連する問題を理解できる。また、国境を越えて移動している人々の国家間のギャップと問題点とケアを理解することができる				
看護と他職種連携による、平等なヘルスを提供するための最新の状況とその問題点を理解し、その対策を検討できる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME4201	国際保健看護学演習M	1年/後期	2単位
担当教員		課程	
西川 まり子		博士前期	

授業計画詳細
授業目的 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際保健看護の演習を通し、ヘルスや看護分野の論文をクリティークやディスカッションしながら国際的な問題を捉え、その改善のための提言ができる基礎的能力を持てる。 2) 世界の論文を交えた広い視野から問題解決能力を持って、国際保健看護学の領域における具体的な課題に、積極的、効果的に取り組む方策と方法を説明できる。 3) 国際保健看護の学びを通し、ヘルスにおける国際的な問題を捉え、その改善のための提言ができる基礎的能力を持てる。 4) 広い視野から問題解決能力を持って、国際保健看護学の領域における具体的な課題に、積極的、効果的に取り組む方策と方法を説明できる。
授業内容 <p>国際保健看護学演習により国際社会においてヘルスの分野で活躍する視野を深める。演習は、学生の英論文理解度に合わせ、日本も含めた世界の論文を厳選して国際保健看護の専門的な知識を学ぶ。無理なく解説しクリティークできるような達成感を重要視する。内容は、世界の看護の動向、グローバル化の中での人々の移動や原住民のヘルスと多文化共生看護、グローバルヘルスとその問題点とする。そのうえで、国際社会における問題を捉え、その改善への自分の意見を持つことができる。レポート作成と討論により、具体的に習得できるようにする。</p>
留意事項 <p>学生には積極的に論文解説、質疑・討論に参加することを期待する。</p>
教材 <p>教材・資料は受講者のニーズに応じて適宜選択する。</p> <p>The Lancet 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3200 UNICEF『世界子供白書』最新版¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版、¥10</p> <p><資料> デイヴィッド ワーナー, 若井 晋 (翻訳)『いのち・開発・NGO』1998, 新評論 ISBN13:978-4794804228 ¥3990 西川まり子『目で見える国際看護』DVD I, II, III, 医学映像教育センター ¥29400 X3</p>
授業計画 (15回) <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 国際保健看護学演習により国際社会においてヘルスの分野で活躍する視野を深める 3-13. 学生のニーズと英論文理解度に合わせ、日本も含めた世界の論文を厳選して国際保健看護の専門的な知識を学ぶ。無理なく解説しクリティークできるような達成感を重要視する。内容は、世界の看護の動向、グローバル化の中での人々の移動や原住民のヘルスと多文化共生看護、グローバルヘルスとその問題点とする <p>そのうえで、国際社会における問題を捉え、その改善への自分の意見を持つことができる。レポート作成と討論により、具体的に習得できる</p>

具体的にはこの分野で著名な関連資料を提示し、その中から学生が論文を選ぶ、もしくは学生の選ぶ英語論文とする。

国際保健看護学に関連した下記の①、②、③の資料 3 編は解読を奨励する。

- ① Ratcliffe, J. (1978). Social Justice and the Demographic Transition: Lessons from India's Kerala State: *Int. J. Health Serv.*, (1), 123-44.
- ② Srivastava, R., (2006). Cross-cultural Communication. *The Healthcare Professional's Guide to Clinical Cultural Competence, 1st Edition (pp101-123)*: Canada, Mosby.
- ③ Guttman, N. (2004) Guilt, Fear, Stigma and Knowledge Gaps: Ethical Issues in Public Health Communication Intervention: *Journal of Evaluation in Clinical Practice*, 21 (3):496-502.

14-15. まとめ

評価基準

- 1) テーマごとのパワーポイント作成 30%
- 2) テーマごとの発表・質疑・討論 30%
- 3) 最後まで読み終えるチャレンジする根気強さ 20%
- 4) 情報分析力、他の人々や組織力を活用し協力・連帯する能力 20%
 - A (100~80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
 - B (79~70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 - C (69~60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 - D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
国際的な視野から問題解決能力を持って、具体的な課題に、積極的、効果的に取り組むことができる。				
世界のヘルスにおいて、学生自身ニーズと英語論文解読レベルに合わせた世界的な論文を読み終えることができる。				
国際保健看護学の学びを介し、ヘルスにおける国際的な問題を捉えて、その改善への検討ができる。				
多文化共生社会の中での看護に対する具体的な内容を学ぶことができる。				
自己の研究と融合した国際看護に関連した国際的な文献を解読し理解を深めることができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
ME4301	国際看護学演習Ⅱ	1年後期	2
担当教員		課程	
西川 まり子		博士前期	

授業計画詳細

授業目的

国際保健看護学における多文化看護に配慮した①管理者能力 ②現場指導者としての教育能力の強化をめざしている。それらの能力内容を理解し、実践で文化的な背景をふまえた知識・技能・可能な範囲でのコミュニケーション力を含めて計画的効果的な実践の展開方法を学ぶ。そのために国際保健看護学の(1)管理者(2)教育支援者の役割・機能の実践力の強化・向上の二つの課題について、外国人対応の準備が整っている施設でのフィールドワークを中心に体験しその前後に学内演習を加えて展開する。

授業内容

国際保健看護学の多文化看護に配慮した(1)管理者 (2)教育者の役割・機能を果たす能力を理解し、それらの実施展開能力の強化・向上を目指す。上記の二つの課題について、外国人対応の整っている施設でのフィールドワークを中心として、その前(準備)と後(まとめ)は学内演習を設定する。理論的な考え方を基に、現場での学びから実践力の強化・向上をめざす。国際看護の国内実習の経験の豊かな教員を中心とした指導のもとに (1)学内でフィールドワークの準備のための多言語に対する対応、文献検討、DVD視聴と討議によるレポート作成 (2)フィールドワークは現場の外国人や日本からの渡航準備の対応を中心的に行っているリーダーと管理者の指導のもとに実践の見学・共同実施および現場にとって効果的である範囲で①管理者 ②教育支援者の役割の2つの課題をもつことによってリーダー的役割も含めて実践する。教育支援者の役割・機能は現場のスタッフや看護学生(国際看護学実習)への支援を指す。(3)学習内容を深めるためのまとめはまず、実習施設内において、実習の最終日に発表し、(4)現場とのディベートをもとに、学内において、教員の助言も含めて学生が、発表・討論を行い、(5)現在の状況から今後の課題を見出す。実習は最低5日間とする。

留意事項

- 外国人へ積極的に関わることができるように、教員指導のもと次のことを習得や準備する。①挨拶、自己紹介は実習施設に合わせた数カ国語で、可能であるようにしておく。さらに、②身体の部位や主要な症状は対象者にあわせられるように、英語の日常語に近い簡単な単語(医療英語は母国語でも難しいため)でコミュニケーションが可能なるようにできる範囲で努力し、その資料をポケットに入れて、持ち歩くことができるように準備しておく。
- 授業の課題について事前に情報収集し、レポートを期日ごとに作成し、現状と今後の課題を含めて発表や報告を行う。
- 学内と実習現場における外国人ケアやその対策に積極的に参加し、現場の指導者やスタッフ、対象者の協力が得られるようにする。
- 自己の実践力強化・向上について具体的に評価する。

教材

担当教員執筆の論文や著書

- Mariko Nishikawa, Kiyoka Niiya & Masako Okayasu (2014). Addressing Practical Issues Related to Nursing Care For International Visitors To Hiroshima, Revista da Escola de Enfermagem da USP, Vol.48(2), 299-307. (Medline からダウンロード可能)
日本語訳：広島を訪日外国人に関係する看護ケアの実践的な問題。
- 西川まり子, 村田直己, 小櫻愛美(2014). 国際看護への挑戦をテキストマイニングする, 看護研究 46(6), 577-586, 医学書院。
- 西川まり子(2012). 目で見る国際看護Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, 株式会社医学映像教育センター, 東京, DVD.
- 多文化共生センター(2012). 医療従事者が知っておきたい外国人患者への接し方 外国人医療カン

<p>ファレンス編, 京都.</p> <p>現場の資料の一例</p> <p>外国人対応施設で使用されている、多言語の説明書</p> <p>その他、</p> <p>実習施設と学生の状況に合わせて、研究論文を中心に適宜使用</p>				
<p>授業計画 (15回)</p>				
<p>実習事前学習</p> <p>現地実習</p> <p>実習後のまとめ</p>				
<p>評価基準</p>				
<p>A (100~80点) : 到達目標に達している (Very Good)</p> <p>B (79~70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69~60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>				
到達目標	A	B	C	D
管理者として現場での役割: 外国人への対応として施設全体の外国人受け入れが理解できる				
管理者として現場での役割: 外国人への対応として言葉、食事や文化等への配慮が理解できる				
管理者として現場での役割: 外国人への対応として地域のボランティア等との連携が理解できる				
教育的機能として現場での役割: 現場で外国人への対応全体の中から現場への提言ができる				
教育的機能として現場での役割: 看護教育上で、国際保健看護学についての提言をカリキュラムや学生実習等に対してできる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
ME9101	広域看護学特別研究M I	1年/通年	4単位
担当教員		課程	
巽あさみ、西川まり子		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的
<p>本研究の目的は、地域看護の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。その分野で広い視点が持てるように個別専門的視点から科学的思考力と研究能力を有する看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につけるために、適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究倫理審査委員会に提出できるようにすることである。</p>
授業内容
<p>本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。研究は分野の広い視野を基盤として2つの領域のいずれかに焦点を当てて個別研究を行う。看護の改善・改革のために、看護サービスの提供方法、看護システム、看護教育などについて取り組む。研究の過程を理解し、研究計画書を作成する。研究のプロセスは、① 研究テーマと目的の決定、② 研究倫理を含めた研究デザインの選定、データ収集法 ③ データ分析法 ④ 研究の精度を保つ質管理方法 ⑤ 修士論文計画書を完成する。</p> <p>主指導教員と必要に応じて副指導教員の指導体制で、学生主体で自己学修をプロセスに沿って行い、教員が上記①～⑤において指導する。</p> <p>(巽あさみ)</p> <p>地域住民の健康づくり、乳幼児虐待、生活習慣病の重度化予防、産業保健・看護分野における研究、睡眠保健指導、地域と職域連携推進に関する研究をテーマに質的研究または記述統計、多変量解析などを用いて研究指導を行う。</p> <p>(西川まり子)</p> <p>① 通訳を含めた言葉を中心にした支援評価、②ヘルスケアシステムを中心とした評価、③多様な文化的な背景を考慮したケアへの支援、④施設の受け入れ準備体制評価、⑤費用対効果、⑥多職種連携プレーの評価、⑦スタッフの教育体制や管理体制等。(2) 外国人への調査の例は、①病気になりヘルス施設を受診するにあたり、その不安や心配要因の評価、②外国人の中でも比較的渡航医療が進んでいる国(ヨーロッパ諸国)と他国の比較からの訪日者の特徴やその対策、③外国人留学生のヘルス行動の評価(例としては、留学性のうち多くの比重を占めている中国系留学生)。グローバル化に伴い地域保健、医療・看護においては国際感染症への対応が必要となっている。感染症は、対策が届きにくい脆弱な環境にある人たちにおいて流行することが多く、また移民(外国人)、職業などへの偏見や差別、そして感染者への差別が予防や医療の遅れを生んでいる。さらに感染症をテーマに、発生動向、疫学研究、感染リスクと予防対策、医療と看護などの先行研究を総括し、独自の研究課題、研究デザイン、研究手法等の考案、研究成果についての多面的な視点からの考察などを踏まえた研究計画書を作成する。</p>
留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日に提出する。
教材
<ul style="list-style-type: none"> ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。
授業計画 (15回)
<p>1-20 共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて、担当教員並びに広域看護学関連教員が紹介し、併せて教授する。</p>

<p>21-23 研究テーマと目的を決定：（自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。</p> <p>24-27 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討</p> <p>28-30 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択</p> <p>31-35 データ分析法の選択</p> <p>36-41 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法</p> <p>42-48 研究計画書を作成</p> <p>49-52 看護学研究科委員会による学生とテーマ関連教員参加の下、「研究計画発表会」において準備・発表・討論（10月）（担当教員全員）</p> <p>53-60 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、また広域看護学分野のテーマ関連教員が参加し、助言の下、研究計画書を完成。</p>				
<p>評価基準</p>				
<p>科目の到達目標の到達度により評価</p> <p>A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)</p> <p>B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究論文のクリティークができる。				
2. 社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる。				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
5. 各看護学領域の看護活動の改善・改革のために新しい知見が予測される研究計画を完成できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
ME9201	広域看護学特別研究MⅡ	2年/通年	4単位
担当教員		課程	
西川まり子 巽あさみ		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的
<p>広域看護学特別研究MⅡの目的はMⅠ研究計画に沿って、研究倫理委員会の承認を得た後に、研究データを収集し、得られたデータの分析を行い、結果の解釈を検討し、論文を作成し、決められた期日までに最終論文提出する。</p>
授業内容
<p>特別研究MⅠで作成した研究計画書に沿って研究を進め、中間発表会発表、最終発表会発表を行う。データの収集は倫理的配慮のもと適切に行う。データの分析は量的データでは記述統計を行い、適切な統計手法を用いて分析する。結果から、仮説の検証を行い、解釈・考察を行う。質的データは主にコード化、カテゴリー化して中核概念を抽出し、研究課題に応じた解釈法で結果と考察を行う。これら論文作成の一連のプロセスを教授する。</p> <p>(巽あさみ)</p> <p>地域住民の健康づくり、乳幼児虐待、生活習慣病の重度化予防、産業保健・看護分野における研究、睡眠保健指導、地域と職域連携推進に関する研究をテーマに質的研究または記述統計、多変量解析などを用いて研究指導を行う。</p> <p>(西川まり子)</p> <p>(1) 施設や教育側への異文化的な調査例は、①通訳を含めた言葉を中心にした支援評価、②ヘルスケアシステムを中心とした評価、③多様な文化的な背景を考慮したケアへの支援、④施設の受け入れ準備体制評価、⑤費用対効果、⑥多職種連携プレーの評価、⑦スタッフの教育体制や管理体制等。(2) 外国人への調査の例は、①病気になりヘルス施設を受診するにあたり、その不安や心配要因の評価、②外国人の中でも比較的渡航医療が進んでいる国(ヨーロッパ諸国)と他国の比較からの訪日者の特徴やその対策、③外国人留学生のヘルス行動の評価(例としては、留学性のうち多くの比重を占めている中国系留学生)。(3) 海外における調査。</p> <p>(2) グローバル化に伴い地域保健、医療・看護においては国際的なヘルスプロモーションや感染症への対応が必要となっている。国際的なヘルスプロモーションは、国を移動する時にも重要となるため、健康に過ごすための情報を得る必要がある。感染症は、人が多く集まる場所(マス・ギャザリング)や対策が届きにくい脆弱な環境にある人々において流行することが多く、移民(外国人)、職業などへの偏見や差別、そして感染者への差別が予防や医療の遅れを生んでいる。感染症をテーマに、発生動向、疫学研究、感染リスクと予防対策、医療と看護などの先行研究を総括して計画した独自の研究課題について、研究デザイン、研究手法等の研究計画書の倫理審査承認を経て研究を実施し、最終論文を作成する。</p>
留意事項
<p>根拠に基づいた結果にから導きだした論文を作成する。</p> <p>レポートなどの提出物は期日ごとに行う。</p> <p>授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。</p>
教材
適宜示す。
授業計画 (15回)
<p>1-5 妥当性のある調査方法によって、データの収集を行う。</p> <p>6-9 得られたデータの入力を行う。</p> <p>10-19 得られたデータについては、量的データは記述統計を行い、その後目的を明らかにできる統</p>

計手法を用いて分析し、結果を導く。出された結果から仮説検証と、解釈・考察を行う。質的データは主にコード化、カテゴリー化し中核概念を抽出する。研究課題に応じた解釈法で結果と考察を行う。

20 研究テーマに沿って結果および考察をまとめ、発表する。

(広域看護学分野の学生と教員による意見、助言)

21-30 論文の作成を行う。

評価基準

科目の到達目標の到達度により評価

A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 倫理審査の承認を得る				
2. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちながらデータ収集ができる。				
3. 適切なデータ分析によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる。				
4. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる。				
5. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる。				
6. 中間発表会で発表し評価を受ける				
7. 最終発表会で発表し評価を受ける				
8. 研究目的から結論までの論旨一貫性がある論文の作成ができる。				
9. 決められた期日までに最終論文提出ができる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF0101	助産学特論 M	1年/前期	2
担当教員		課程	
杉下佳文 谷口通英		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的
<p>リプロダクティブヘルスや助産学の歴史および理論を学び、母性と父性を育む看護学とジェンダー視点から今日的課題の倫理と女性の人権を守る視座で、女性のエンパワーメントを高める健康支援の課題を明確にする。また、助産学的観点から周産期および思春期から更年期までの女性とその家族を対象に近年のトレンドとなる助産ケアの方略を探求する。</p>
授業内容
<p>自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために助産学に関する健康課題や健康問題から、近年の動向について研究論文をもとに講述する。Well-being の維持や各健康問題に対する援助方法論では、看護理論やその活用法を講義しディスカッションする。院生は生殖医療の倫理的問題や施策を理解し、女性がリプロダクトの正しい知識や意志決定ができ次世代育成遂行に向け、看護活動や研究ができるよう助産ケアの本質から論文をクリティカルに分析し、助産学として新しいケア方法を学ぶ。</p>
評価方法
<p>課題についてプレゼンテーション 50%、討議・ディベート 50%</p>
留意事項
<p>助産学課題研究 I と連動している。講義及び課題についてプレゼンテーションやレポート発表や、討議・ディベートを行うので、積極的に参加することを期待する。本科目の単位取得にあたり、30 時間の自己学習が必要である。</p>
教材
<p>適時、配布資料として紹介する。</p>
授業計画(回)
<ol style="list-style-type: none"> 母性看護に有用な概念と理論 (杉下) 母性看護に有用な概念と理論 (谷口) 助産学における概念と理論 (杉下) 助産学における概念と理論 (谷口) 助産学に有用な概念と理論における課題 発表と討論 (杉下・谷口) 助産学に有用な概念と理論における課題 発表と討論 (谷口・杉下) 文献レビュー方法および文献リストの作成方法 (谷口) 量的研究論文のクリティーク手法 (杉下) 質的研究論文のクリティーク手法 (谷口) 文献クリティーク (杉下) 文献クリティーク (谷口) 研究 MAP・概念図作成 (杉下) 研究 MAP・概念図作成 (谷口) 研究課題の発表 (杉下・谷口) 研究課題の発表 (谷口・杉下)
評価基準
<p>A (100~80 点) : 到達目標に達している (Very Good)</p>

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 助産学および母性看護学における概念と理論を説明できる。				
2. 文献クリティークが実践できる。				
3. 助産学に関する健康問題と健康課題の国内外の今日的動向を分析し、探究すべき課題の提示ができる。				
4. 助産学に関する健康課題や健康問題への科学的アプローチの方法を説明できる。				
5. 自らの積極的な意見を持ち活発な討議を行うことができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF0201	助産学演習 M	1年/後期	2
担当教員		課程	
杉下佳文 谷口通英		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 <p>助産学の視座から生涯を通じた女性の健康支援の学問分野から知識に依拠し、子どもを産み育てるケアの本質を追究する方法と理論を学び、自己の関心課題を中心に、文献検討を通し研究的感性を培う。更に自己の研究課題を明確にできるよう事例を用い問題や課題を討議し、健康に関わる研究を PBL 学習でクリティカルに分析し、女性の安寧を考慮した助産技術とケアシステム確立に向かう修士論文もしくは課題研究論文の作成を容易にする。</p>
授業内容 <p>助産学の文献の分析で介入モデルを検討し、自己の研究課題を明確にできるよう実践から女性の健康を考え、研究的に発展させる論文作成に導く。特に、周産期および助産ケアを必要とする思春期・更年期講座や子育て家族や医療施設の実践活動に参加し対象のアセスメントから、研究課題を探求する。また、今日的動向を取り上げ講述しながら、Well-being の維持や各健康問題の援助方法論では理論やその活用法を講義し、質疑し討議する。</p>
評価方法 <p>1 回の授業時間：90 分、助産学および母性看護理論や今日的課題や動向を中心に進める。講義及び課題についてプレゼンテーションやレポート発表や、討議・ディベートを行うので、積極的に参加することが必要である。</p>
留意事項 <p>講義と課題学習に毎回参加して、討議やプレゼンテーションを積極的に行うことを求める。また、学会参加および発表、可能な範囲で地域へ出向き演習として体験学習を期待する。講義の必携テキストは多く提示されているが、文献に親しみ読破することを望む。</p>
教材 <p>1.APA 論文作成マニュアル：APA 著、江藤裕之他：医学書院 2.看護研究 原理と方法：D.F.ポーリット&C.T.ベック 医学書院 3.適宜、配布資料として紹介する。</p>
授業計画(回) <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の課題発表と討論および評価 (杉下) 2. 自己の課題発表と討論および評価 (谷口) 3. 助産ケアにおけるエビデンス 論文からの考察 (杉下) 4. 助産ケアにおけるエビデンス 論文からの考察 (谷口) 5. 海外における助産ケアの文献検討 (杉下) 6. 海外における助産ケアの文献検討 (谷口) 9. 海外における助産ケアにおける課題 発表と討論 (杉下・谷口) 10. 海外における助産ケアにおける課題 発表と討論 (谷口・杉下) 11. 夫婦関係・家族関係における助産学的文献検討 (谷口) 12. 子育て支援における助産学的文献検討 (杉下) 13. 対象理解のためのアプローチ方法 (谷口) 14. 自己の課題発表と討論および評価 (杉下・谷口) 15. 自己の課題発表と討論および評価 (谷口・杉下)

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 文献クリティークから助産学における課題を明示できる。				
2. 助産学に関する健康問題と健康課題の国内外の今日的動向を分析し、探究すべき課題の提示ができる。				
3. 助産学に関する健康課題や健康問題への科学的アプローチの方法を説明できる。				
4. 科学的根拠を持った助産ケアの方法を説明することができる。				
5. 自らの積極的な意見を持ち、活発な討議を行うことができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF0301	助産学演習 MⅡ	1年/後期	2
担当教員		課程	
杉下佳文 谷口通英		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>助産学における管理能力、看護実践力の質的向上への臨床指導力の強化を図ることを目的とする。周産期における倫理的問題への対応、エビデンスの臨床への適用、業務管理、ケア評価、周産期周辺の母子支援システムを充実・発展させるうえでのリーダーシップ、社会参画の方法など、実践で知識・技術・コンサルテーション力を含めて計画的効果的な実践の展開方法を学ぶ。そのために周産期センターでのフィールドワークを行い、その前後に学内演習を加えて展開する。</p>
<p>授業内容</p> <p>助産学演習 MⅡは、リーダーシップ・看護管理・臨床指導力についても、強化・向上を目指す。周産期センターでのフィールドワークを中心とする。後期履修期間で、各自が実習を計画する。その具体的日程は、演習到達度目標に沿って3段階のレベルを設定し、3区分(1期プレ実習・導入、2期メイン実習・展開、3期ポスト実習・まとめ)に分け、日常業務の臨床現象で看護スタッフが困っていること、知りたいことの価値ある課題を、探索するための実習であり、科学的に検討することである。プレ実習の前(オリエンテーション・準備)と後の(まとめ)、メイン実習の後(まとめ)、ポスト実習と、その後の(まとめ)の学内演習を設定し、理論的な考え方を学び実践力の強化・向上をめざして進める。</p> <p>本科目演習Ⅱの演習・実習は、クリティカルシンキングにより、入院中の妊産褥婦と看護職者のケア満足度やケアリングの評価の一致度、管理者の課題や、臨床実習の指導方法の課題や、リーダーシップなどについて、フィールドワークを中心に行い、リプロダクティブヘルスケアの向上につながることをめざして実施する。</p> <p>(1)学内でフィールドワークの準備のための文献検討と討議によるレポート作成 (2)フィールドワークは臨床のリーダーと管理者の指導のもとに実践の見学・共同実施および臨床にとって効果的である範囲で課題を実践する。ここでいう教育支援者の役割・機能は臨床のスタッフや看護学生(母性看護学実習)への支援を指す。(3)学習内容を深めるためのまとめは学内で実施し、教員と共に学生が主体的にレポートに基づき発表・討論により進める。(オムニバス方式/30回)(一部共同)</p> <p>(学内演習)</p> <p>助産学演習Ⅱオリエンテーション、フィールドワーク準備について：文献調査、討論、レポート作成、学内演習として、PBL教育方法で、進め適時、教員や学生が相互に質疑・討議して効果的に進める。</p> <p>(学内演習) フィールドワークの課題の討論・まとめを行う。</p> <p style="text-align: right;">(杉下佳文/12回)</p> <p>(実習場)</p> <p>周産期周辺のリプロダクティブヘルス看護における業務管理、ケア評価、周産期周辺の母子支援システムを充実・発展させるうえでのリーダーシップ、社会参画の方法リーダーの役割能力・コンサルテーション能力向上/周産期センターにおける看護業務管理、ケア評価について/周産期センターにおけるスタッフと看護学生(母性看護学実習)への教育的支援の実践力の向上</p> <p style="text-align: right;">(杉下佳文、谷口通英/18回)(共同)</p>
<p>評価方法</p> <p>1回の授業時間：90分、助産学に関連した理論や概念および今日的課題や動向を中心に進める。講義及び課題についてプレゼンテーションやレポート発表や、討議・ディベートを行うので、積極的に参加することが必要である。</p>
<p>留意事項</p>

1. 課題について事前に情報収集し、レポートを期日毎に作成し発表や報告を行う。
2. フィールド・ワークの演習計画を教員の指導のもとに立案する。
3. 自己の実践力強化・向上について具体的に評価する。

教材

各教員により研究論文を中心に適宜使用

授業計画(30回)

1-3: (学内演習)

- 1) 助産学演習Ⅱオリエンテーション
- 2) フィールドワーク準備について: 文献調査、討論、レポート作成
- 3) 学内演習として、以下の内容で、PBL 教育方法で、進め適時、教員や学生が相互に質疑・討議して効果的に進める。

(杉下佳文)

4-9: (実習場) 周産期周辺のリプロダクティブヘルス看護における業務管理、ケア評価、周産期周辺の母子支援システムを充実・発展させるうえでのリーダーシップ、社会参画の方法リーダーの役割能力・コンサルテーション能力向上

- 1) 母子支援システムと、ケアの質保証のためにスタッフへのケア支援
- 2) 他職種・機関との連携調整方法の実際
- 3) 倫理的調整の方法
- 4) 中間管理者としてのリーダーの役割・機能

(谷口通英、杉下佳文)

10-12: (学内演習) フィールドワークの課題の討論・まとめを行う。

(杉下佳文)

13-18: (実習場) 周産期センターにおける看護業務管理、ケア評価について

- 1) 個人情報の保護の方法
- 2) 個別事例と家族のケアの質管理方法
- 3) 事例ケアの質保証のためのケアの組織化とケア評価、及びケア体制づくり
- 4) 人事管理と組織力強化
- 5) 周産期センターにおける危機管理
- 6) ケアの質管理と経営管理を両立させる方法

(谷口通英、杉下佳文)

19-21: (学内演習) フィールドワークの課題の討論・まとめを行う。

(杉下佳文)

22-27: (実習場) 周産期センターにおけるスタッフと看護学生(母性看護学実習)への教育的支援の実践力の向上

- 1) スタッフへの教育支援
 - (1)各スタッフのケア実践力の形成的評価を行い、各スタッフの受け持ち事例を用いてリプロダクティブヘルス看護の知識と技術力向上(事例検討・実践場面での共同実施・アセスメント・ケア方法・技術などの個人およびグループへの指導・訓練)に向けた教育的支援を行う。
 - (2)実践例について連携調整方法・社会資源利用・チームケア展開方法を分析する。
- 2) 看護学生の母性看護学実習での教育支援
実習計画に基づく実習展開における教育支援方法を挙げ、教育実践する。

(杉下佳文、谷口通英)

28-30: (学内演習) フィールドワークの課題をレポートし、発表・討論・まとめを行う。

(杉下佳文、谷口通英)

評価基準

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 看護管理者・リーダーシップの役割・機能の理解と効果的な実施方法について理解し、自己能力を判断して臨床に有効な範囲で実践できる。				
2. 看護実践力の質的向上への臨床指導力の強化を図るための助産および看護を実践できる。				
3. 助産学における教育的機能について理解し、自己能力を判断して臨床に有効な範囲で教育的役割を実践できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF1101	助産学概論	1年/前期	2
担当教員		課程	
谷口通英/杉下佳文		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

助産の基本的理念および概念と歴史と文化、助産師の業務と責務についての基本姿勢について学修し、助産師としての考え方やアイデンティティの確立、助産師としての倫理観を養うことを目的とする。また、専門的自律能力を身につけ、今後の助産師のあり方と受講生自身のアイデンティティと展望について考察を深める。

授業内容

助産の基本的概念と歴史と文化、助産師の業務と責務、そして今後の展望および助産学を構成する理論を教授し、プロフェッショナリズムやアイデンティティの形成を図る。助産師としての高度な職業倫理、出生前治療の背景にある生命倫理、リプロダクティブヘルス/ライツの概念、コミュニケーション・カウンセリング、助産学研究、助産師教育および助産師としての自律性について教授する。

(オムニバス方式/全 15 回 谷口通英：9 回・杉下佳文 6 回)

評価方法

筆記試験 30%、課題レポート 70%

事項

本科目の単位取得にあたり、30 時間の自己学習が必要である。

教材

1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第 4 版、南江堂
2. 編集我部山キヨ子他：基礎助産学[1]助産学概論、助産学講座 1、医学書院
3. 福井トシ子編：新版 助産業務要覧、基礎編、第 3 版、2021 年版、日本看護協会出版会
4. 必要な資料は講義時に配付する。

授業計画(15 回)

- 1 助産の概念、助産の周辺概念（谷口）
- 2 助産師の定義、助産実践に必須のコンピテンシー（谷口）
- 3 助産師の業務と助産ケア -周産期における助産ケア-（谷口）
- 4 助産師の業務と助産ケア -女性の健康と助産ケア-（谷口）
- 5 助産師の教育（谷口）
- 6 世界の助産師教育（谷口）
- 7 助産の歴史と文化（谷口）
- 8 助産の分化論（谷口）
- 9 助産学を構成する理論（杉下）
- 10 助産師の専門性（谷口）
- 11 助産師と倫理（杉下）
- 12 倫理的意思決定支援（杉下）
- 13 母子保健の歴史（杉下）
- 14 母子保健の動向と諸制度（杉下）
- 15 母子保健の課題と展望（杉下）

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 助産に関連する概念や理論について理解できる。				
2. 助産師の業務や責務および職業倫理について理解できる。				
3. 助産師としての生命倫理について理解でき、自分の考えを述べることができる。				
4. リプロダクティブヘルス/ライツの概念を理解でき、事例への応用ができる。				
5. 母子保健の動向と諸制度およびその課題を理解できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF1201	母子の基礎科学特論	1年/前期	2
担当教員		課程	
西由紀/杉下佳文/鍋田美咲/水野祥子/高久道子/早川博生/大瀬戸久美子/澤田富夫		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 助産学を学ぶ上で必要な基礎的知識である性と生殖に関する解剖と生理、周産期における内分泌機構、性の機能と行動および女性の健康に影響を及ぼす因子について基本的知識の習得を目的とする。また、遺伝や遺伝疾患の理解とその助産ケアおよび生殖補助医療の実際と問題点について近年の動向を踏まえて理解する。
授業内容 助産学の基礎的な知識であるリプロダクションに関する解剖・生理等の身体的および内分泌学的特徴と、妊娠成立およびそれに伴う生理的变化について教授する。また、近年の生殖分野における現状と課題、出生前診断と遺伝カウンセリングの知識や技法の実際を臨床の非常勤講師が教授する。 (オムニバス方式/全15回 西由紀5回・杉下佳文1回・鍋田美咲2回・水野祥子1回・高久道子1回・早川博生1回・大瀬戸久美子2回・澤田富夫2回)
評価方法 筆記試験 70% 課題レポート 30%
留意事項 本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。
教材 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：基礎助産学[2]、助産学講座2、医学書院 3. 必要な資料は講義時に配付する。
授業計画(15回) 1 助産学における解剖生理①(西) 2 助産学における解剖生理②(西) 3 生殖生理に関する視床下部-下垂体系機能①(西) 4 生殖生理に関する視床下部-下垂体系機能②(西) 5 卵巣機能・母子の歯科保健(西) 6 ライフサイクル各期における健康と健康課題(小児・思春期)(水野) 7 ライフサイクル各期における健康と健康課題(成熟期)(杉下) 8 ライフサイクル各期における健康と健康課題(更年期・老年期)(鍋田) 9 母子と感染(鍋田) 10 性の分化と発達および性障害と性同一性障害・性感染症(STI)(高久) 11 遺伝と遺伝性疾患(早川) 12 遺伝カウンセリング①(大瀬戸) 13 遺伝カウンセリング②(大瀬戸) 14 生殖補助医療の実際(澤田) 15 生殖補助医療の問題点(澤田)

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 性と生殖に関する解剖と生理について理解できる。				
2. ライフサイクル各期の性機能と行動および健康課題について理解できる。				
3. 母子感染について理解できる。				
4. 遺伝と遺伝性疾患およびその助産ケア方法について理解できる。				
5. 生殖補助医療および出生前診断について理解できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF1301	母子の健康科学特論	1年/前期	2
担当教員		課程	
星貴江/鍋田美咲/笥侑子/谷口通英/太田美智男/堀田芳弘		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 妊産婦および胎児・新生児・乳児の健康水準を診断し、妊娠・出産・産褥が自然で安全に経過するように助産ケアができることを目標に、本科目では助産学を学ぶ上で必要な基礎的知識である妊産褥婦の栄養および胎児新生児乳児の栄養について、周産期にかかわる薬理について基本的知識の習得を目的とする。また、妊産婦運動に関する指導およびリプロダクティブ・ヘルスに関する助産ケアとしての家族計画の保健指導を学ぶ。
授業内容 妊娠による女性の変化や正常な妊娠・分娩・産褥の経過において、基礎的知識を支える母子の栄養学や周産期薬理学について教授する。また、リプロダクティブ・ヘルスに関する支援のための基本的な知識と根拠を教示し、妊産婦運動の実際や家族計画の保健指導の実際を教授する。 (オムニバス方式/全15回：太田美智男3回・谷口通英1回・堀田芳弘2回・鍋田美咲2回・笥侑子2回・星貴江5回)
評価方法 演習課題レポート 70% 保健指導案 30%
留意事項 本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。
教材 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：基礎助産学[3]母子の健康科学 助産学講座3、医学書院 3. 必要な資料は講義時に配付する。
授業計画(15回) 1 母子と栄養①(非常勤：太田美智男) 2 母子と栄養②(非常勤：太田美智男) 3 母子と栄養③(非常勤：太田美智男) 4 母子の栄養における助産ケア(谷口) 5 周産期薬理学①(非常勤：堀田芳弘) 6 周産期薬理学②(非常勤：堀田芳弘) 7 助産活動を支える援助技術(鍋田) 8 助産活動における健康教育技法(鍋田) 9 妊産婦の運動生理学(笥) 10 マタニティビクス・ヨガ(笥) 11 母子と補完代替医療①(星) 12 母子と補完代替医療②(星) 13 リプロダクティブ・ヘルス/ライツと家族計画(星) 14 家族計画が内包する政治・文化的な課題(星) 15 家族計画指導(星)
評価基準

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 妊婦・授乳婦・乳幼児の栄養について理解できる。				
2. 周産期の薬理について理解できる。				
3. 妊産婦への教育・相談技術および健康教育について理解できる。				
4. 妊産婦の運動生理学について理解できる。				
5. 妊産婦の運動について理解し、実践できる。				
6. 妊娠・出産における東洋医学と代替医療について理解し、実践できる。				
7. 家族計画指導案を作成できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF1401	母子と家族の心理学特論	1年/後期	1
担当教員		課程	
杉下佳文/守村麻子/三後美紀		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>女性のライフサイクルにおける心理的变化および社会的課題について、助産師としてのケアを習得することを目的とする。また、心理学専門の講師により母子関係に影響する発達心理について、臨床心理士からはハイリスク母子や精神障害については実際の事例を通して学ぶ。さらには、心理学科の心の健康教育に関する理論や実践を学ぶことで女性や母子への助産ケアに活かすことを目的とする。</p>
<p>授業内容</p> <p>女性のライフサイクル各期における心理・社会的課題に対して、理論や概念に支えられる助産ケアやサポートを教授する。心理学科教員による心理学的技法を用いて理解を深める。さらには現場で働く臨床心理士から臨床心理学的アプローチの実際を講義演習で理解を深め心理学的手法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回：杉下佳文4回・非常勤：守村麻子5回・三後美紀2回・演習4回)</p>
<p>評価方法</p> <p>演習課題レポート100%</p>
<p>留意事項</p> <p>本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。</p>
<p>教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 編集我部山キヨ子他：基礎助産学[4]、母子の心理・社会学 助産学講座4、医学書院 必要な資料は講義時に配付する。
<p>授業計画(15回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 周産期のメンタルヘルス①(杉下) 2 周産期のメンタルヘルス②(杉下) 3 母子の発達心理学①(三後) 4 母子の発達心理学②(三後) 5 周産期の母子相互作用(非常勤：守村麻子) 6 ハイリスク母子の相互作用(非常勤：守村麻子) 7 臨床現場における流産・死産の心理過程(非常勤：守村麻子) 8 周産期の精神障害①(非常勤：守村麻子) 9 周産期の精神障害②(非常勤：守村麻子) 10 心の健康教育に関する理論と実践①(聴講)/人間環境学研究科 11 心の健康教育に関する理論と実践②(聴講)/人間環境学研究科 12 ハイリスク妊産婦の心理社会的助産ケア①/ゲストスピーカー 13 ハイリスク妊産婦の心理社会的助産ケア①/ゲストスピーカー 14 切れ目のない子育て支援①(杉下) 15 切れ目のない子育て支援②(杉下)
<p>評価基準</p> <p>A(100~80点)：到達目標に達している(Very Good)</p>

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. マタニティサイクルにおける内分泌機能や心理的特徴についてケアを含め理解できる。				
2. 母子の発達心理について理解できる。				
3. 母子相互作用および母子の愛着形成についてケアを含め理解できる。				
4. 流産・死産の心理過程について段階的ケアを含め理解できる。				
5. 実際のハイリスク事例について助産ケアが提案できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF1501	妊娠期の助産学特論	1年/前期	2
担当教員		課程	
谷口通英/杉下佳文/星貴江/鍋田美咲/笥侑子/杉本誠		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 正常な妊娠の成立や妊娠経過、及び妊婦と胎児の健康状態の診断方法修得することを第一の目的とする。妊娠の生理や妊娠期の心理社会的変化について学び、その助産ケアについて習得する。また、妊娠期の異常やハイリスク妊娠について医学的知識および助産ケアについて学ぶ。妊娠期における助産診断ができることが第二の授業目的である。
授業内容 正常な妊娠の成立や妊娠経過、また妊婦と胎児の健康状態の診断方法を修得する。妊婦と胎児の健康状態を維持・増進できるような助産ケアについて根拠ある技法を学ぶ。また、妊婦と胎児の家族や取り巻く社会、環境においてもウエルネスな状態を維持できる技法を学ぶ。さらには、臨床医から正常妊娠からの逸脱を診断できる技法を学び、ハイリスク妊婦への助産ケアについて学修する。 (オムニバス方式/全15回: 杉下佳文4回・谷口通英4回・星貴江2回・鍋田美咲2回・杉本誠2回)
評価方法 筆記試験 100%
留意事項 本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。
教材 1. 編集北川真理子・内山和美: 今日の助産、改訂第4版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他: 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期、助産学講座5、医学書院 3. 荒木勤: 最新産科学正常編、改訂第22版、文光堂 4. 荒木勤: 最新産科学異常編 改訂22版、文光堂 5. 必要な資料は講義時に配付する。
授業計画(15回) 1 助産診断の概要(谷口) 2 正常な妊娠の生理と診断法(杉下) 3 妊娠経過の診断と妊娠に伴う全身の変化および心理社会的側面(杉下) 4 胎児の発育と器官形成、胎児付物に関する診断(星) 5 妊娠に関連した検査(鍋田) 6 妊娠経過に対応した健康生活の診断とケア、マイナートラブル(鍋田) 7 胎児の発育と診断(星) 8 胎児モニタリング(星) 9 ハイリスク妊娠の診断とケア①(杉本) 10 ハイリスク妊娠の診断とケア②(杉本) 11 正常性の助産診断とハイリスク妊娠の診断とケア(杉下) 12 正常妊娠から逸脱時の診断(杉下) 13 妊娠期の母乳育児に関する診断(谷口) 14 出産準備教育の意義と方法(笥) 15 妊娠・出産における家族形成(谷口)

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 正常妊娠について診断方法をふまえた理解ができる。				
2. 胎児の発育について方法をふまえた理解ができる。				
3. 胎児モニタリングについて理解できる。				
4. 妊娠期の異常およびハイリスク妊娠について理解できる。				
5. 妊娠期の助産診ができる。				
6. 出産準備教育の展開方法について理解する。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF1601	分娩期の助産学特論	1年/前期	2
担当教員		課程	
杉下佳文/谷口通英/星貴江/杉本誠/中根茂晴		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 分娩期における助産診断と助産ケアを行うために求められる専門的知識について正常性の助産診断を修得することを本科目の目的とする。産科学的診断指標と助産学技術の整合性を学修し、正常逸脱時のアセスメント、正常性へのケアおよびハイリスクな状態のリスク管理や助産診断に基づく助産ケアを修得する。
授業内容 分娩期における助産診断と助産ケアを行うために求められる専門的知識について正常性の助産診断を修得する。産科学的診断指標と助産学技術の整合性を学び、分娩介助の技法について理論上の習得を行う。また、正常分娩からの逸脱時のアセスメント、正常性へのケアについて理解する。さらに、臨床医よりハイリスクな状態のリスク管理を学び、専任教員の助産師から助産診断に基づく助産ケアを修得する。 (オムニバス方式/全15回:杉下佳文6回・水野祥子2回・谷口通英1回・星貴江1回・笥侑子1回・杉本誠2回・中根茂晴2回)
評価方法 筆記試験 100%
留意事項 受講生の主体性をもとに演習が行われることに留意すること。また、本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。
教材 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期、助産学講座7、医学書院 3. 必要な資料は講義時に配付する。
授業計画(15回) 1 分娩期開始の予知-分娩前徴候における診断(水野) 2 分娩経過の診断①-分娩の4要素(杉下) 3 分娩経過の診断②-分娩の4要素(杉下) 4 分娩経過の診断-統合(杉下) 5 分娩経過に伴う助産ケア-分娩期の心理社会的側面(水野) 6 分娩介助の原理①(杉下) 7 分娩介助の原理②(杉下) 8 分娩介助の原理③(杉下) 9 産婦への理論的助産ケア-産痛緩和・呼吸法ケア(谷口) 10 出生直後の新生児(笥) 11 分娩誘発、無痛分娩(星) 12 出生後24時間の新生児の管理(小児科医:中根) 13 ハイリスク新生児の管理(小児科医:中根) 14 分娩の異常(産科医:杉本) 15 産科手術(産科医:杉本)
評価基準

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 分娩期の助産診断について理解できる。				
2. 分娩介助技術について理論や原理をふまえて理解できる。				
3. 心理社会的側面が分娩に及ぼす影響について理解することができる				
4. 産痛緩和や呼吸法等の分娩時の助産ケアについて理解できる。				
5. ハイリスク新生児の管理について理解できる。				
6. 分娩の異常およびハイリスク分娩について理解できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF1701	産褥・育児期の助産学特論	1年/後期	2
担当教員		課程	
谷口通英/杉下佳文/笥侑子/鍋田美咲/水野祥子/笥侑子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>マタニティサイクルの中の産褥期、新生児期および育児期、乳児期における助産過程を展開するために、全身状態および心理・社会的状態や健康問題についての知識や理論を学修し、助産実践のための必要な技術を修得することを目的とする。また、正常性の維持とともに正常逸脱の回避に重点を置き、母子に合わせた効果的で適切な産後ケアを実践する能力を修得する。</p>
<p>授業内容</p> <p>妊娠期からの事例を基に、産褥期の全身状態および心理・社会的状態や健康問題についての知識や理論を学修する。実際の臨床事例について新生児期および乳児期を含んだ産褥期および育児期（産後4か月まで）の助産課程の展開を行う。また、正常性の維持とともに正常逸脱の回避に重点を置き、母子および家族形成期に合わせた効果的で適切な産後ケアを実践する能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回：谷口通英7回・杉下佳文2回・笥侑子1回・鍋田美咲1回・水野洋子1回）</p>
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 100%</p>
<p>留意事項</p> <p>関連科目に事例で助産課程の展開を行う。事例をよく読んで本講義に臨むこと。 本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。</p>
<p>教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期、助産学講座7、医学書院 3. 荒木勤：最新産科学、正常編、改訂22版、文光堂 4. 荒木勤：最新産科学、異常編、改訂22版、文光堂 5. 必要な資料は講義時に配付する。
<p>授業計画(15回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 分娩第3期から産褥0日目の生理的開化と異常 2 産褥期の生理 3 産褥経過の助産診断と助産過程の展開① 4 産褥期のフィジカルアセスメントと退行性変化の促進ケア 5 進行性変化促進と日常生活適応の支援 6 乳房管理 7 産褥期の助産診断と助産過程の展開② 8 新生児のフィジカルアセスメント 9 産褥期の心理社会的変化 10 育児期行動の取得・家族への支援 11 産褥期のマイナートラブルとケア 12 産褥期の異常とケア 13 ハイリスク・異常褥婦への支援 14 家庭・社会生活復帰の支援 15 助産診断、助産診断過程の展開 まとめ（谷口）

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 産褥期の全身状態・心理社会的状態の助産診断ができる。				
2. 退行性変化・進行性変化および日常生活適応の促進ケアについて説明できる。				
3. 産褥期の異常について説明できる。				
4. 乳房管理について乳房に異常を含めて説明できる。				
5. 新生児および乳児 (4 か月まで) のフィジカルアセスメントおよび助産診断ができる。				
6. 家族全体へのケアについて説明できる。				
7. よりよい産後ケアについて自らの考えを説明することができる。				
8. 産褥期の助産診断と実践過程の展開方法が理解できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF1801	妊娠期の実践助産学演習	1年・前期	1
担当教員		課程	
谷口通英/杉下佳文/星貴江/鍋田美咲/水野祥子/寛侑子/（山田尚美）		博士前期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
<p>正常な妊娠の成立や妊娠経過、及び妊婦と胎児の健康状態の診断方法を修得し、実際の助産ケア技法を学ぶことを本科目の目的とする。妊娠の生理や妊娠期の心理社会的変化について学び、その助産ケアについて習得する。また、妊娠期の異常やハイリスク妊娠について助産診断方法及び助産ケアの実際について学ぶ。</p>			
授業内容			
<p>妊婦および胎児の健康状態を維持するための助産技術を修得できることを目的とする。また、異常時の早期発見に向けたアセスメント能力と診断技法、助産ケアの方法論を学ぶ。さらには、妊婦と胎児、その家族の状況に応じた助産ケアの選択をできる能力を養う。「妊娠期の助産学特論」と連動した講義展開をする。 （オムニバス方式／全15回：谷口通英5回・杉下佳文3回・星貴江1回・鍋田美咲2回・寛侑子4回）</p>			
評価方法			
実技および助産診断過程の展開 40%、保健指導案 40、出産準備教育 20%			
留意事項			
<p>妊娠期の助産学特論の理論や原則を復習し受講する。受講生の主体性をもとに演習が行われることに留意すること。また、本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。</p>			
教材			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期、助産学講座6、医学書院 3. 必要な資料は講義時に配付する。 			
授業計画(15回)			
<ol style="list-style-type: none"> 1 助産診断過程・助産実践過程の展開方法（谷口） 2 妊娠経過の診断・助産ケアのための診断技術に関する助産技術（谷口・山田） （妊娠反応、妊娠歴、経膈超音波など） 3 助産診断・助産ケアのための診査技術（谷口・山田） （中期以降） 4 妊娠経過診断における内診技術、クスコ診（寛） 5 妊娠期における超音波診断法（星） 6 マイナートラブルの診断と助産ケア（鍋田） 7 妊婦健康診査、経過診断過程の事例展開（谷口） 8 妊娠期の保健指導案①（杉下） 9 妊娠期の保健指導②（杉下） 10 妊娠期の保健指導③（杉下） 11 妊娠期の助産実践過程の立案、評価（谷口） 12 ハイリスク妊娠の助産ケアとグリーンケア（水野） 13 出産準備教育（寛、山田） 14 出産準備教育（寛、山田） 15 出産準備教育（寛、山田） 			
評価基準			
A (100～80点)：到達目標に達している(Very Good)			

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 妊娠成立と妊娠経過の診断方法について理解できる。				
2. 妊婦健康診査の技法について実践できる。				
3. 妊娠期の異常における助産ケアについて理解できる。				
4. 妊娠期の保健指導案を作成できる。				
5. 助産診断過程、実践課程の展開方法が理解できる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MF1901	分娩期の実践助産学演習	1年/通年	2
担当教員		課程	
杉下佳文・谷口通英・星貴江・水野祥子・笥侑子・(山田尚美)		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>分娩期の助産診断および正常な経過にある産婦への支援について基本的な技術の習得が本科目の目的である。分娩介助技法では原理と基本を学修し、分娩介助時の助産技術を習得する。胎児新生児の健康状態の診査や胎児付属物の検査法について理解する。また、正常分娩からの逸脱およびハイリスク分娩の助産ケア技術について習得する。</p>
<p>授業内容</p> <p>分娩期の助産診断技術や助産ケア技術の習得を目指し、事例を基に臨床推論を行いながら演習を行う。自律した分娩介助技術を修得する。また、ハイリスクや危機的状況に対する判断や行動をシミュレーション演習を通して身につけることができるように教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回:杉下佳文8.85回・谷口通英5.6回・星貴江1回・水野祥子1回・笥侑子9.6回・(山田尚美)・セルフ4回)</p>
<p>評価方法</p> <p>実技試験 100%</p>
<p>留意事項</p> <p>助産診断技術特論Ⅰの理論や原則を復習し受講する。受講生の主体性をもとに演習が行われることに留意すること。また、本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。</p>
<p>教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集北川真理子・内山和美:今日の助産、改訂第3版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他:助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期、助産学講座7、医学書院 3. 必要な資料は講義時に配付する。
<p>授業計画(30回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2 分娩期の助産診断①-分娩期の内診技術・陣痛測定法(笥) 3 分娩期の助産診断③(セルフ) 4 分娩経過に伴うアセスメント・助産診断①(杉下) 5～8 助産診断における助産過程の展開①～④(杉下) 9・10 分娩の準備(笥・山田) 11～16 分娩介助技術①～⑥(杉下・谷口・笥・山田) 17 産婦への助産ケア方法①(谷口・山田) 18 出生直後の新生児フィジカルアセスメント(笥) 19 出生直後の新生児フィジカルアセスメント(セルフ) 20・21 出生直後の新生児フィジカルアセスメント実技試験(笥・谷口・杉下) 22～24 分娩介助中間試験(杉下・谷口・笥) 25 実習施設における分娩介助セルフトレーニング(セルフ) 26 人工破膜・臍帯巻絡解除技術(杉下) 27 フリースタイル分娩体位(水野) 28 硬膜外麻酔分娩(星) 29 回旋異常、骨盤位、鉗子分娩介助法(谷口)

30 肩甲難産時の分娩介助法、異常出血時の助産ケア（杉下）				
評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 分娩開始および分娩経過の診断ができる。				
2. 分娩第 1 期のケアが実践できる。				
3. 正常分娩の分娩介助（分娩第 2 期～分娩第 4 期）の一連の流れが実践できる。				
4. 産痛緩和および呼吸法指導について実践できる。				
5. 出生時の正常新生児のケアについて一連の流れが実践できる。				
6. 分娩の異常およびハイリスク分娩について理解できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2001	産褥・育児期の実践助産学演習	1年/後期	1
担当教員		課程	
杉下佳文/谷口通英/鍋田美咲/笥侑子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>母子や家族に質の高い助産実践を行うために、産褥期・育児期および新生児期・乳児期に必要な診査技術やケア技術を修得することが目的である。事例における臨床推論を通して、正常からの逸脱の回避、異常への予防について技術習得する。また、実際の保健指導の場面で活用できる有効な保健指導案を作成する。</p>
<p>授業内容</p> <p>産褥期および新生児期、乳児期に必要な診査技術やケア技術を修得する。また、褥婦および新生児のハイリスクや危機的状況に対する判断や行動をシミュレーション演習を通して身につけることができるように教授する。出生直後の新生児に対して、新生児蘇生法（NCPR）専門（B）コースを受講し修了する。乳児の発育発達と健康診査は小児看護のスペシャリストから講義を受ける。また、実際の保健指導の場面で活用できる保健指導案を作成する。（オムニバス方式／全15回：杉下佳文3.9回・谷口通英3.9回・鍋田美咲1回・笥侑子3.9回・ 2回）</p>
<p>評価方法</p> <p>実技試験 70% 保健指導案 30% 新生児蘇生法（NCPR）専門（B）コース修了書</p>
<p>留意事項</p> <p>産褥・育児期の助産学特論の理論や原則を復習し受講する。受講生の主体性をもとに演習が行われることに留意すること。また、本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。</p>
<p>教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：助産診断・技術学Ⅱ [2]分婁・産褥期 助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 助産学講座8 医学書院 3. 新生児蘇生法テキスト 4. 必要な資料は講義時に配付する。
<p>授業計画(15回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新生児蘇生法（NCPR：Bコース受講）（笥） 2 新生児蘇生法（NCPR：Bコース受講）（笥） 3 産褥経過の助産診断と助産過程の展開①（谷口） 4 産褥経過の助産診断と助産過程の展開②（谷口） 5 褥婦のフィジカルアセスメント（鍋田） 6 乳房管理技術（谷口） 7 産褥期の保健指導（杉下） 8 新生児のケア技術（笥） 9 産褥期の保健指導案作成①（杉下・谷口・笥） 10 産褥期の保健指導案作成②（杉下・谷口・笥） 11 産褥期の保健指導案作成③（杉下・谷口・笥） 12 産褥期の健康診査（杉下） 13 産褥期の家庭訪問指導（杉下） 14 乳児の発育発達と健康診査①（ ）

15 乳児の発育発達と健康診査② ()				
評価基準				
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 褥婦のフィジカルアセスメントの手技手法が実践できる。				
2. 乳房管理の手技手法が実践できる。				
3. 産褥期の保健指導案の作成ができる。				
4. 新生児蘇生法 (NCPR) 専門 (B) コースが修了できる。				
5. 産褥期の健康診査や家庭訪問指導が実践できる。				
6. 乳児の発育発達を理解した健康診査の実践ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2101	地域助産活動論	2年/前期	2
担当教員		課程	
鍋田美咲/巽あさみ/西川まり子/杉下佳文/水野祥子/（山田尚美）		博士前期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
<p>地域助産活動の基盤となる地域母子保健の諸理論や母子保健の動向を学修するとともに、母子保健システムや母子保健制度、母子保健施策を理解する。また、地域の母子保健の実際を学び、地域助産活動における他職種や組織との連携、対象を理解する。さらに、地域母子保健の現状や課題についての実際の健康診査事業等を通じて、地域において助産師が果たすべき役割を考察する。</p>			
授業内容			
<p>地域助産活動の基盤となる地域母子保健の諸理論や母子保健の動向を学修するとともに、母子保健システムや母子保健制度、母子保健施策を理解するために、地域母子保健の専門家や臨地の保健師により教授する。さらに、国際母子保健の意味や意義について国際保健看護の専門家により教授する。実際の保健センターにおける健康診査事業等を通じて、地域における助産師が果たすべき役割を考察する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回：巽あさみ1回・鍋田美咲7回・西川まり子2回・杉下佳文1回・水野祥子1回・山田尚美3回）</p>			
評価方法			
筆記試験 70% 課題レポート 30%			
留意事項			
<p>本科目は、助産学実習Ⅰおよび地域助産学実習と連動している。単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。</p>			
教材			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 編集我部山キヨ子他：地域母子保健・国際母子保健、助産学講座9、医学書院 2. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 3. 必要な資料は講義時に配付する。 			
授業計画(15回)			
<ol style="list-style-type: none"> 1 地域母子保健の意義（巽） 2 母子保健の現状と動向（鍋田） 3 地域母子保健行政の体系①（鍋田） 4 地域母子保健行政の体系②（鍋田） 5 地域母子保健活動の基盤（鍋田） 6 地域母子保健活動の展開①（水野） 7 地域母子保健活動の展開②（杉下） 8 国際母子保健①（西川） 9 国際母子保健②（西川） 10～15 健康診査の実際（保健センター）（鍋田・山田） 			
評価基準			
<p>A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)</p> <p>B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>			

到達目標	A	B	C	D
1. 地域母子保健の意義を理解することができる。				
2. 地域母子保健の現状と課題を理解することができる。				
3. 国際母子保健の現状と課題を理解することができる。				
4. 保健センターにおける助産師の役割が理解できる。				
5. 地域母子保健における助産師の役割が理解できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2201	助産マネジメント論	2年/前期	2
担当教員		課程	
谷口通英/水野祥子/磯貝明/星剛史/真野真紀子/叶谷克枝		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>専門職の自律性をもとに、助産業務に係る法的規定の理解や施設および組織の特性に応じた助産ケアの質について理解し助産業務管理を学ぶ。また、周産期リスクマネジメントについて学び助産師の役割と機能の促進に向けた組織的活動について理解する。さらには、助産所開設の手順と方法について習得する。</p>
<p>授業内容</p> <p>助産管理の基本、助産業務管理、助産所の経営や管理、周産期医療とその安全について基本的な知識を教授する。現場の周産期センター師長から産科病棟の管理や周産期管理システムを、助産院院長からは助産業務管理の実際を学ぶ。また、経営学的観点からマネジメントサイクルのためのリソース（ヒト・モノ・カネ・情報・システム）と活用の基礎を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回：谷口通英6回・水野洋子2回・磯貝明2回・非常勤：星剛史2回・非常勤：真野真紀子2回・非常勤：叶谷克枝2回）</p>
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 100%</p>
<p>留意事項</p> <p>受講生の主体性をもとに演習が行われることに留意すること。また、本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。</p>
<p>教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：助産管理、助産学講座10、医学書院 3. 日本看護協会出版会：助産師業務要覧Ⅰ 第3版 4. 必要な資料は講義時に配付する。
<p>授業計画(15回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 助産管理の概念(谷口) 2 助産業務管理の基本(谷口) 3 管理の基本概念とプロセス(非常勤：星) 4 医療経営学の基礎(非常勤：星) 5 経営学的見地における病院や助産院の組織構成およびその活用(磯貝) 6 経営学的見地からみた病院内の人的資源管理(磯貝) 7 関係法規と助産師の責務①(谷口) 8 関係法規と助産師の責務②(谷口) 9 助産師の法的責任と義務(谷口) 10 周産期医療システム①(水野) 11 周産期医療システム②(水野) 12 産科病棟・パースセンターの管理の実際(非常勤：真野) 13 周産期の医療事故とリスクマネジメント(非常勤：真野) 14 助産所における助産業務管理(非常勤：叶谷) 15 助産所の運営(非常勤：叶谷)

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 助産管理に係る関係法規について理解することができる。				
2. 助産師の法的責任について理解することができる。				
3. 経営学的見地における組織管理について理解することができる。				
4. 医療経営および管理について理解することができる。				
5. 周産期リスクマネジメントについて理解することができる。				
6. 助産所における業務管理や運営について理解することができる。				

”

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2301	助産学実習 I (継続事例実習・周産期ケア見学実習)	1年/前期	2
担当教員		課程	
杉下佳文/谷口通英/星貴江/鍋田美咲/水野祥子/寛侑子/ (山田尚美)		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 妊娠中期から産後 2 ヶ月までの継続事例を対象として、妊娠・分娩・産褥・育児の各期の母子とその家族への継続的な支援に必要な助産診断および助産技術を修得することを目的とする。さらに、地域助産活動や他職種との連携に必要な調整能力を養うことを目的とする。また、ローリスクの妊産褥婦・新生児を対象として、指導助産師の助産ケアの見学を通し、妊娠期の健康診査技術および分娩介助技術を含めた分娩期の助産技術、産褥期・新生児期の助産ケア技術の修得のための基礎を学ぶ。
授業内容 1) 継続事例実習では、妊娠中期(妊娠 20 週頃)から産後 2 ヶ月までの母子を継続事例の対象として、妊娠・分娩・産褥・育児期の母子とその家族への助産ケアを実践する。実習内容は、妊娠期の妊婦健康診断、正期産入院時の分娩期のケア(分娩介助を含む)、産褥入院中のケア(沐浴指導や退院指導を含む)、2 週間健診、産後 1 か月健診、産後 2 ヶ月までの家庭訪問 1 回である。 2) 周産期ケア見学実習では、妊娠期の健康診査技術および分娩介助技術を含めた分娩期の助産技術、産褥期・新生児期の助産診断・ケア技術について指導助産師の実践を見学する。
評価方法 実習評価指標に基づいて評価する。助産学実習要項および手引き参照
留意事項 本科目の単位取得にあたり、30 時間の自己学習が必要である。助産技術に関しては、分娩期の実践助産学演習と連動し習得すること、さらには 30 時間のセルフトレーニングが必要である。
教材 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第 4 版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期、助産学講座 6、医学書院 3. 必要な資料は講義時に配付する。
授業計画(15 回) 1. 実習期間(助産学実習計画参照) 令和 3 年 9 月 13 日～令和 4 年 3 月 4 日のうち、令和 3 年 9 月 13 日～9 月 17 日は周産期ケアの見学実習を行う。9 月 17 日以降は、継続事例の妊婦健康診査に合わせて実習する。令和 4 年 1 月 11 日からは実習期間は助産学実習Ⅱ・Ⅲと重複する。 1) 実習時間 8:30～16:30(原則) ただし、分娩進行中の事例があれば、実習施設と相談の上、実習時間の延長や変更がされる場合がある。また、見学実習後は、継続事例の妊婦健康診査時に実習する。
2. 週間計画と実習内容

1) 令和3年9月13日～9月17日

曜日	午前	午後
9/13 (月)	(臨地) 外来・病棟オリエンテーション	(臨地) 継続事例妊婦の選定・情報収集・助産計画の立案
9/14 (火)	(臨地) 分娩見学/褥婦ケア見学・助産計画立案	(臨地) 助産計画に基づいたケアの実施、ケア評価
9/15 (水)	(臨地) 分娩見学/新生児ケア見学・助産計画立案	(臨地) 助産計画に基づいたケアの実施、ケア評価
9/16 (木)	(臨地) 分娩見学/妊婦ケア見学・助産計画立案	(臨地) 助産計画に基づいたケアの実施、ケア評価
9/17 (金)	(臨地) 分娩見学/妊婦健康診査見学	(学内) まとめ、最終カンファレンス

2) 令和3年9月17日以降は継続事例の妊婦健康診査日に合わせて外来において実習を行う。

評価基準				
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 継続事例の妊婦健診を助産診断をもとに実践する事が出来る。				
2. 継続事例の分娩介助を助産診断をもとに行うことができる。				
3. 継続事例の産褥・新生児の助産ケアを助産診断をもとに行うことができる。				
4. 助産計画にもとづき、産後健診及び新生児健診を行うことができる。				
5. 助産計画にもとづき、産後の家庭訪問を行うことができる。				
6. 継続事例の継続助産ケアについて診断と計画ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2401	助産学実習Ⅱ（ローリスク分娩助産実習）	1年/後期	5
担当教員		課程	
杉下佳文/谷口通英/ 笥侑子/星貴江/鍋田美咲/水野祥子/（山田尚美）		博士前期課程	

授業計画詳細		
授業目的		
ローリスクな妊産褥婦・新生児を受け持ち、妊娠・分娩・産褥期および新生児期の各期を通した母子とその家族への助産ケアを実践することを目的とする。特に、分娩期の経過を踏まえた基本的な分娩助産技術の習得と対象のニーズに応じた助産ケアを実践できる能力を修得する。		
授業内容		
分娩助産事例は6～7例、継続事例は1例（助産学実習Ⅰ）を指導助産師の指導の下で実習する。分娩時に開ける間接助産は5例、新生児係（児受け）は5例を実習する。また、分娩助産した褥婦と新生児を受け持ち、助産過程の展開と助産ケアの実施を行う。		
評価方法		
実習評価指標に基づいて評価する。実習要項及び手引きの評価方法参照。		
留意事項		
本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。助産技術に関しては、分娩期の実践助産学演習と連動し習得すること、さらには30時間のセルフトレーニングが必要である。		
教材		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期、助産学講座6、医学書院 3. 必要な資料は講義時に配付する。 		
授業計画(15回)		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間（助産学実習計画参照） 令和4年1月11日～2月10日の5週間。継続事例実習（助産学実習Ⅰ）の分娩助産および産褥期のケアを含む。 2. 実習時間 8：30～16：30（原則）ただし、分娩進行中の事例があれば、実習施設と相談の上、実習時間の延長や変更がされる場合がある。 3. 週間計画と実習内容（例） 		
曜日	午前	午後
月	（臨地）受け持ち事例の選定・情報収集	（臨地）助産診断・助産計画
火	（臨地）分娩助産	（臨地）分娩助産、産褥期・新生児期の助産計画立案
水	（臨地）産褥新生児実習	（学内）分娩助産の振り返り、評価
木	（臨地）受け持ち事例の選定・情報収集	（臨地）助産診断・助産計画
金	（臨地）分娩助産	（臨地）分娩助産、産褥期・新生児期の助産計画立案
評価基準		
A(100～80点)：到達目標に達している(Very Good)		

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 事例の受け持ち時の助産診断をもとに助産ケアを行うことができる。				
2. 事例の分娩経過の診断をもとに助産ケアを行うことができる。				
3. 分娩介助評価指標にもとづいた安全・安楽な分娩介助を 5 例以上行うことができる。				
4. 分娩評価指標にもとづいた分娩間接介助を 5 例以上行うことができる。				
5. 分娩評価指標にもとづいた児受けを 5 例以上行うことができる。				
6. 受け持ち事例の入院中の産褥期・新生児期の助産ケアを行うことができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2501	助産学実習Ⅲ（ローリスク・ハイリスク分娩介助実習）	1年/後期	3
担当教員		課程	
杉下佳文/谷口通英/寛侑子/星貴江/鍋田美咲/水野祥子/（山田尚美）		博士前期課程	

授業計画詳細		
授業目的		
<p>助産学実習Ⅱの学修をもとに、妊娠・分娩・産褥・育児期の各期の対象の理解をさらに深め、助産診断に基づいた助産計画の立案、実施、評価を実践し、個別性の尊重や状況に応じた助産ケアを修得することを目的とする。さらに、正常からの健康状態の逸脱を予測し、ハイリスク産婦（帝王切開分娩、吸引分娩・鉗子分娩を受ける産婦、無痛分娩）に対する実践能力を養う。</p>		
授業内容		
<p>分娩介助事例は3～4例を指導助産師の指導の下で実習する。また、ハイリスク産婦（帝王切開分娩、吸引分娩・鉗子分娩を受ける産婦、無痛分娩）は1例を助産師の指導の下で部分的に実施および状況に応じて見学実習する。分娩時における間接介助は2例、新生児係（児受け）は2例を実習する。また、分娩介助した産婦と新生児を受け持ち、助産過程の展開と助産ケアの実施を行う。</p>		
評価方法		
実習評価指標に基づいて評価する。実習要項及び手引きの評価方法参照。		
留意事項		
<p>本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。助産技術に関しては、分娩期の実践助産学演習および助産学実習Ⅰ・Ⅱと連動し習得すること、さらには30時間のセルフトレーニングが必要である。</p>		
教材		
<ol style="list-style-type: none"> 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 編集我部山キヨ子他：助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期、助産学講座6、医学書院 必要な資料は講義時に配付する。 		
授業計画(15回)		
<ol style="list-style-type: none"> 実習期間（助産学実習計画参照） 令和4年2月14日～3月4日の3週間。 実習時間 8：30～16：30（原則）ただし、分娩進行中の事例があれば、実習施設と相談の上、実習時間の延長や変更がされる場合がある。また、分娩介助事例数が助産学実習ⅠとⅡとを合計して10例以上に到達しないと判断された時点で、実習時間が土日や夜間に拡大される場合がある。 週間計画と実習内容 		
曜日	午前	午後
月	（臨地）受け持ち事例の選定・情報収集	（臨地）助産診断・助産計画
火	（臨地）分娩介助	（臨地）分娩介助、産褥期・新生児期の助産計画立案
水	（臨地）産褥新生児実習	（学内）分娩介助の振り返り、評価
木	（臨地）受け持ち事例の選定・情報収集	（臨地）助産診断・助産計画
金	（臨地）ハイリスク分娩の一部介助	（学内）分娩介助の振り返り、評価
評価基準		

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 事例の個別性を含めた助産診断をもとに助産計画の立案ができる。				
2. 助産計画をもとに分娩介助評価指標にもとづいた分娩介助ができる。				
3. ハイリスク事例の一部分娩介助ができる。				
4. 異常分娩の助産診断および助産計画ができる。				
5. ハイリスクおよび異常分娩の間接介助の一部ができる。				
6. ハイリスク新生児の児受けの一部が出来る。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2601	助産学実習Ⅳ（ハイリスク管理実習）	2年/前期	1
担当教員		課程	
杉下佳文 笥侑子		博士前期課程	

授業計画詳細		
授業目的		
<p>妊娠期における合併症を有する事例および正常からの逸脱をしたハイリスクな事例において、健康障害の診断と助産過程を通し、産科管理の実際や助産ケアの実際から助産管理の在り方を学ぶ。また、MFICU・NICU・GCUの管理の実際を通し、ハイリスク妊産褥婦・新生児に対する管理の重要性や周産期医療連携システムの必要性について理解し、医療チームの中で自律して助産ケアを提供するための能力を養う。</p>		
授業内容		
<p>MFICU に入院しているハイリスク妊婦（妊娠高血圧症候群や切迫早産等の合併症妊婦）を受け持ち、情報収集、アセスメント、助産計画を立案し、指導助産師とともに助産ケアを実践する。また、NICU・GCUにてハイリスク新生児の管理や周産期医療連携システム、他職種連携等の実際について見学実習する。</p>		
評価方法		
<p>実習評価指標に基づいて評価する。実習要項及び手引きの評価方法参照。</p>		
留意事項		
<p>本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。</p>		
教材		
<ol style="list-style-type: none"> 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第4版、南江堂 編集我部山キヨ子他：助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期、助産学講座6、医学書院 必要な資料は講義時に配付する。 		
授業計画(15回)		
<ol style="list-style-type: none"> 実習期間（助産学実習計画参照） 令和3年6月24日～7月8日のうち、1週間 実習時間 8:30～16:30（原則） 実習施設 第一赤十字病院、総合周産期センター、MFICU、NICU、GCU 週間計画と実習内容 		
曜日	午前	午後
月	(臨地) 病棟・MFICUでのオリエンテーション	(臨地) 受け持ち対象の決定・情報収集・助産計画の立案
火	(臨地) 助産計画に基づいたケアの実施	(臨地) 助産計画に基づいたケアの実施
水	(臨地) 助産計画に基づいたケアの実施	(臨地) 助産計画に基づいたケアの実施
木	(臨地) 助産計画に基づいたケアの実施	(臨地) 助産計画に基づいたケアの実施・ケアの評価、まとめ
金	(臨地) NICU/GCU 見学実習	(臨地) NICU/GCU 見学実習・最終カンファレンス
評価基準		

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 合併症妊娠等のハイリスク事例の助産診断およびケア計画を立案することができる。				
2. MFICU、NICU、GCU の管理について説明することができる。				
3. NICU で管理される新生児の助産診断およびケア計画を立案することができる。				
4. 産科病棟、MFICU および NICU の連携について説明することができる。				
5. 母体搬送システムにおける周産期センターの役割の実際が理解できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2701	地域助産学実習	2年/前期	1
担当教員		課程	
星貴江/鍋田美咲		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的
地域に根ざした助産所において実践されている助産活動を学ぶ。また、助産所の経営管理の実際を通して学び、ケアや管理の在り方を学ぶ。さらに、助産所と連携する医療保健福祉の連携システムについて理解を深める。市町村保健センターにおける健康診査事業および多職種連携会議に参加し、ローリスクのみならずハイリスクの母子および家族を支援する地域母子保健システムを理解することができる。そして、地域母子保健における専門職助産師の役割について理解し、考察をする。
授業内容
実習期間：令和3年7月19日（月）～令和3年9月17日（金）のうち助産所・保健センター各2～3日間 実習場所：かなや助産所、大府市保健センター 実習方法：実習施設の概要について、事前オリエンテーションを実施する。 実習中は、主体的に実習指導者と相談し、実習スケジュールを調整、決定する。 最終日に、カンファレンスを行う。
評価方法
実習評価指標に基づいて評価する。地域助産学実習要項参照。
留意事項
本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。 助産学実習を振り返り、自己の課題を明確にして実習準備を整える。1年次科目の学習内容すべて復習しておくこと。2年次「地域母子保健活動論」「助産マネジメント論」については、実習内容に直結するため、特に復習しておく。助産所のホームページから情報を得て実習施設の理念、具体的な活動を理解しておくこと。
教材
1. 編集我部山キヨ子他、助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版、医学書院 2. 編集我部山キヨ子他、助産学講座10 助産管理 第5版、医学書院 3. その他、必要な資料は講義時に配付する。
授業計画(15回)
1. 実習期間 令和3年7月19日(月)～9月17日(金)のうち、助産所実習・保健センター実習各3日間
2. 実習時間 8:30～16:00(原則) ただし実習内容によっては施設と相談の上、実習時間の延長や変更がされる場合がある。
3. 週間計画と実習内容
1) かなや助産所 各3日間 ・施設オリエンテーション、助産所の管理・運営 ・助産活動の見学および一部実施(妊婦健康診査の見学および一部実施、子育て支援活動等)
2) 大府市保健センター 各3日間 ・大府市保健センターのオリエンテーション ・母子保健福祉業務の見学および一部実施
<妊娠期>
・ローリスク妊婦・ハイリスク妊婦の抽出・状況把握の実際

- ・ハイリスク妊婦への支援の実際
 - ・ハイリスク妊婦に関わる他職種・他部署・他組織との連携
- <育児期>
- ・家庭での育児状況の把握・支援の実際
 - ・産後ケア事業利用者への対応の実際・産後ケア事業実施施設との連携
 - ・健康診査での支援の実際
 - ・育児相談の実際
 - ・ハイリスク母子に関わる他職種・他部署・他組織との連携

評価基準

- A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 助産所における妊産褥婦及び新生児に対する助産ケアの実際を理解できる。				
2. 助産業務の安全性を理解し、効果的な医療連携システムについて考察できる。				
3. 助産所と連携する各施設・団体の活動の実際を理解できる。				
4. 市町村保健センターにおける母子保健福祉業務・地域医療連携の実際を理解する。				
5. 地域母子保健における専門職助産師の役割を考察することができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2801	助産学課題研究 I	1年/通年	4
担当教員		課程	
杉下佳文/谷口通英		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 母子とその家族を取り巻くさまざまな課題をとらえ、助産の専門性を追究し、研究的視点をもって助産ケアに取り組む能力を身につける。また、臨床に還元できる研究ニーズであるリサーチマインドを育成する。
授業内容 当該科目では、助産実践と近接した研究ニーズを文献や助産学実習 I を通して発掘し、研究計画書を作成し、1 年次後期（10 月）には研究計画発表会で報告する。また研究計画書を基に、研究倫理審査における承認を目指す。
評価方法 研究計画書 70%、研究倫理審査関連資料 30%
留意事項 本科目の単位取得にあたり、30 時間の自己学習が必要である。自己学習には文献検索をはじめ、母子とその家族がとりまく課題について探索する。
教材 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第 4 版、南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：助産学講座 1 助産学概論 医学書院 3. 必要な資料は講義時に配付する。
授業計画 (30 回) 1・2 助産学における研究① 3・4 助産学における研究② 5・6 臨床研究① 7・8 臨床研究② 9・10 研究シーズの探索① 11・12 研究シーズの探索② 13・14 文献検索① 15・16 文献検索② 17・18 文献検索③ 19・20 文献検索④ 21・22 文献検索⑤ 23・24 文献のまとめ発表 25・26 文献検索のまとめ発表 27・28 リサーチクエッションの発表 29・30 リサーチクエッションの発表 31・32 研究計画書について① 33・34 研究計画書について② 35・36 研究計画書作成① 37・38 研究計画書作成②

39・40	研究計画発表①
41・42	研究計画発表②
43・44	研究計画発表会予演（
45・46	研究計画発表会（研究計画発表会M I）
47・48	研究計画発表会（研究計画発表会M I）
49・50	研究計画リフレクション①
51・52	研究計画リフレクション②
53・54	倫理審査計画書
55・56	倫理審査計画書
57・58	倫理審査計画書
59・60	倫理審査計画書

評価基準

A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 助産学の関連する文献検討をまとめることができる。				
2. 助産における研究課題と研究における実現可能なシーズを見つけることができる。				
3. 研究計画書を作成することができる。				
4. 研究計画発表会 M1 で発表できる。				
5. 倫理審査計画書および関連資料の作成ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF2901	助産学課題研究Ⅱ	1年/通年	4
担当教員		課程	
杉下佳文/谷口通英		博士前期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
母子とその家族を取り巻くさまざまな課題をとらえ、助産の専門性を追究し、研究的視点をもって助産ケアに取り組む能力を身につける。また、臨床に還元できる研究ニーズであるリサーチマインドを育成する。				
授業内容				
当該科目では、助産学課題研究Ⅰをもとに、実際の研究データを収集し、分析する。研究結果の信頼性と妥当性を検討し、図や表の作成をもとにまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と臨床への還元性を丁寧に考察する。2年次後期（10月）の中間発表会Ⅱを通して研究論文のブラッシュアップを行う。さらに課題研究論文として精練し提出する。さらには最終発表会（2月）では課題研究修了を目指す。				
評価方法				
課題研究論文 100%				
留意事項				
助産学課題研究Ⅰと連動している。本科目の単位取得にあたり、30時間の自己学習が必要である。自己学習には文献検索をはじめ、母子とその家族がとりまく課題について探索する。				
教材				
1. 必要な資料は講義時に配付する。				
授業計画(30回)				
1～5回：倫理審査計画書の承認を得て、研究計画書に沿って研究実施の準備を行う。				
6～15回：研究の精度を保持する方法で研究データ収集を行う。				
16～25回：効率的なデータ入力方法、データの分析、結果のまとめ				
26～35回：結果からの考察、研究目的から考察までの論旨の一貫性と臨床への還元性を考慮する。				
36～45回：考察から結論を導き出す。研究背景から結論までの論旨の一貫性を考慮する。				
46～50回：最終発表会の発表方法				
51～60回：最終発表会を通じた論文のブラッシュアップと課題研究論文の完成				
評価基準				
A(100～80点)：到達目標に達している(Very Good)				
B(79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある(Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている(Pass)				
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない(Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画に沿って研究実施の準備ができる。				
2. 適切な方法で研究データの収集ができる。				
3. データ入力および信頼性のある分析ができる。データの解析ができる。				
4. 適切でわかりやすい方法で結果をまとめることができる。				
5. 研究目的および研究結果に基づく考察ができる。				
6. 研究目的から考察にもとづく結論を導き出すことができる。				
7. 研究の背景から結論まで論旨一貫性のある論文を作成できる。				
8. 臨床への還元性や専門性について考察できている。				

9. 中間発表会や最終発表会を基にブラッシュアップすることができる。				
10. 決められた期日までに最終論文を提出することができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF9101	助産学特別研究 M I	1年/通年	4
担当教員		課程	
杉下佳文		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 母子とその家族を取り巻くさまざまな課題をとらえ、助産の専門性を追究し、研究的視点をもって助産ケアに取り組む能力を身につける。また、臨床に還元できるリサーチマインドを育成する。
授業内容 当該科目では、助産実践と近接した研究ニーズを文献や助産学実習 I を通して発掘し、研究計画書を作成し、1 年次後期（10 月）には研究計画発表会で報告する。また研究計画書を基に、研究倫理審査における承認を目指す。
評価方法 研究計画書 70%、研究倫理審査関連資料 30%
留意事項 本科目の単位取得にあたり、30 時間の自己学習が必要である。自己学習には文献検索をはじめ、母子とその家族がとりまく課題について探索する。
教材 1. 編集北川真理子・内山和美：今日の助産、改訂第 4 版、 南江堂 2. 編集我部山キヨ子他：医学書院 3. 必要な資料は講義時に配付する。
授業計画 (30 回) 1・2 助産学における研究① 3・4 助産学における研究② 5・6 臨床研究① 7・8 臨床研究② 9・10 研究シーズの探索① 11・12 研究シーズの探索② 13・14 文献検索① 15・16 文献検索② 17・18 文献検索③ 19・20 文献検索④ 21・22 文献検索⑤ 23・24 文献のまとめ発表 25・26 文献検索のまとめ発表 27・28 リサーチクエッションの発表 29・30 リサーチクエッションの発表 31・32 研究計画書について① 33・34 研究計画書について② 35・36 研究計画書作成① 37・38 研究計画書作成②

39・40	研究計画発表①				
41・42	研究計画発表②				
43・44	研究計画発表会予演				
45・46	研究計画発表会（研究計画発表会M I）				
47・48	研究計画発表会（研究計画発表会M I）				
49・50	研究計画リフレクション①				
51・52	研究計画リフレクション②				
53・54	倫理審査計画書				
55・56	倫理審査計画書				
57・58	倫理審査計画書				
59・60	倫理審査計画書				
評価基準					
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)					
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)					
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)					
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)					
到達目標		A	B	C	D
1.	助産学の関連する文献検討をまとめることができる。				
2.	助産における研究課題と研究における実現可能なシーズを見つけることができる。				
3.	研究計画書を作成することができる。				
4.	研究計画発表会（M I）で発表することができる。				
5.	倫理審査計画書および関連資料の作成ができる。				
6.	倫理審査委員会に申請することができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MF9201	助産学特別研究 M II	2年/通年	4
担当教員		課程	
杉下佳文		博士前期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
母子とその家族を取り巻くさまざまな課題をとらえ、助産の専門性を追究し、研究的視点をもって助産ケアに取り組む能力を身につける。また、臨床に還元できる研究ニーズであるリサーチマインドを育成する。				
授業内容				
当該科目では、助産学特別研究 I をもとに、実際の研究データを収集し、分析する。研究結果の信頼性と妥当性を検討し、図や表の作成をもとにまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と臨床への還元性を丁寧に考察する。2 年次後期（10 月）の中間発表会 M II を通して研究論文のブラッシュアップを行う。さらに課題研究論文として精練し提出する。さらには最終発表会（2 月）では課題研究修了を目指す。				
評価方法				
課題研究論文 100%				
留意事項				
助産学特別研究 I と連動している。本科目の単位取得にあたり、30 時間の自己学習が必要である。自己学習には文献検索をはじめ、母子とその家族がとりまく課題について探索する。				
教材				
1. 必要な資料は講義時に配付する。				
授業計画 (30 回)				
1～5 回：倫理審査計画書の承認を得て、研究計画書に沿って研究実施の準備を行う。				
6～15 回：研究の精度を保持する方法で研究データ収集を行う。				
16～25 回：効率的なデータ入力方法、データの分析、結果のまとめ				
26～35 回：結果からの考察、研究目的から考察までの論旨の一貫性と助産学の専門性を考慮する。				
36～45 回：考察から結論を導き出す。研究背景から結論までの論旨の一貫性を考慮する。				
46～50 回：最終発表会の発表方法				
51～60 回：最終発表会を通じた論文のブラッシュアップと修士研究論文の完成				
評価基準				
A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画に沿って研究実施の準備ができる。				
2. 適切な方法で研究データの収集ができる。				
3. データ入力および信頼性のある分析ができる。データの解析ができる。				
4. 適切でわかりやすい方法で結果をまとめることができる。				
5. 研究目的および研究結果に基づく考察ができる。				
6. 研究目的から考察にもとづく結論を導き出すことができる。				
7. 研究の背景から結論まで論旨一貫性のある論文を作成できる。				
8. 助産学の専門性について考察できている。				

9. 中間発表会や最終発表会を基にブラッシュアップすることができる。				
10. 決められた期日までに最終論文を提出することができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MG2101	生涯発達看護学特論 M	1年/前期	2
担当教員		課程	
深谷久子 櫻井香		博士前期課程	

授業計画詳細	
授業目的	
生涯発達を遂げる発達段階各期における対象理解を深めるために基盤となる諸理論に基づいて、対象の健康問題の把握方法や健康増進と質の高い看護実践への適用を探究する。また、対象の最善の利益を保障するための倫理的判断に基づき、さまざまな課題を抱える対象に応じた援助方法を考究する。さらに、時代の変化および日本の文化の中でこれらの理論を応用する上での課題を探究する。	
授業内容	
人間の一生涯を発達のプロセスとしてとらえる生涯発達の観点から、発達段階各期の対象をめぐる現代社会の特徴をふまえ、人間発達に関する諸理論を用いて対象への質の高い看護実践への適用を探究する。発達段階各期における対象のさまざまな現代的課題を理解し、倫理的判断に基づき、対象の意思決定、セルフケア能力、QOLの向上をめざした援助方法を探究する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康増進に関する諸理論について説明できる。 2. 諸理論と看護学との関係を説明することができる。 3. 関心領域に関連のある理論、概論、現象を分析し、課題を述べることができる。 4. 理論と既存の研究を用いて、対象への援助を考案することができる。 	
留意事項	
各回の授業テーマに関する事前学習を主体的に行い、授業に積極的に臨むこと。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連文献や資料に基づき、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める。資料は前日まで、あるいは当日に配布する。 2. 授業内容に沿った事例をより深く学習できるよう、授業概要または配布資料に参考資料を記す。 <p>【事前学習】授業概要または配布資料に記した文献リストにある関連資料に目をとおり、要旨をノートにまとめる。</p> <p>【事後学習】授業内容をもとに自身の専門領域の視点から考察し、A4用紙1枚にまとめる。</p>	
教材	
教科書	
各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。	
参考書、参考資料等	
開講時、参考文献を提示し、随時授業で資料を配付する。	
服部祥子（2020）：生涯人間発達論第3版，医学書院。	
上田礼子（2012）：生涯人間発達学改訂第2版増補版，三輪書店。	
舟島なをみ（2017）：看護のための人間発達学第5版，医学書院。	
授業計画（15回）	
1	オリエンテーション／理論の説明（講義・討論）（深谷久子）
2	発達理論（1）フロイト（自我）（発表・GW・討論）（深谷久子）
3	発達理論（2）エリクソン（発表・GW・討論）（深谷久子）
4	発達理論（3）ピアジェ（発表・GW・討論）（深谷久子）
5	発達理論（4）ボウルビー（発表・GW・討論）（深谷久子）
6	発達理論（5）総括（発表・GW・討論）（深谷久子）

7	子どもと家族をめぐる理論の課題学習 (演習) (深谷久子)
8	発達障害とその支援 (1) 人間のライフサイクルと発達およびその支援 (新生児期・乳児期)
9	発達障害とその支援 (2) 人間のライフサイクルと発達およびその支援 (幼児期) 新生児期・乳児期・幼児期の発達過程や複雑な健康問題に応じた適切なケア方法とケアの質評価 について検討する。現場で起こりやすい倫理的諸課題に対応するための方法を検討する (発表・GW・討論) (深谷久子/2回)
10	発達障害とその支援 (3) 人間のライフサイクルと発達およびその支援 (学童期)
11	発達障害とその支援 (4) 人間のライフサイクルと発達およびその支援 (思春期) 学童期・思春期の発達過程や複雑な健康問題に応じた適切なケア方法とケアの質評価について検 討する。現場で起こりやすい倫理的諸課題に対応するための方法を検討する (発表・GW・討論) (深谷久子/2回)
12	発達障害とその支援 (5) 人間のライフサイクルと発達およびその支援 (成人期)
13	発達障害とその支援 (6) 人間のライフサイクルと発達およびその支援 (老年期) 成人期・老年期の発達過程や複雑な健康問題に応じた適切なケア方法とケアの質評価について検 討する。現場で起こりやすい倫理的諸課題に対応するための方法を検討する (発表・GW・討論) (櫻井香/2回)
14	生涯学習者としての経験／ライフサイクルにおけるキャリア発達 (発表・GW・討論) (櫻井香)
15	学生の修得内容のまとめ、レポート作成 (演習) (深谷久子)

評価基準

テーマに沿ったレポート作成および授業への取り組み・発表内容・参加状況等から総合的に評価する。

- A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 人間発達に関する諸理論について理解し、対象の理解・健康増進および看護実践への理論的裏づけに応用できる。				
2. 科学的根拠に基づいた人間の発達過程や健康状態のアセスメント方法およびケアの質評価について理論・文献・事例から検討し、対象への適切なケアを探求することができる。				
3. 諸理論と看護学との関係を説明することができる。				
4. 関心領域に関連のある理論、概論、現象を分析し、課題を述べることができる。				
5. 理論と既存の研究を用いて、対象への援助を考案することができる。				
6. さまざまな課題を抱えた対象の最善の利益、意思決定、セルフケア、QOL向上を保障するための具体的援助方法について提案できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MG2201	生涯発達看護学演習 M	1年/後期	2
担当教員		課程	
深谷久子 櫻井香		博士前期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
生涯発達を遂げる対象への看護実践能力の向上をめざし、学生の関心領域において、健康問題をもつ対象への支援体系の開発・構築の基盤となる援助方法を検討する。				
授業内容				
生涯発達看護学特論 M を基盤に、対象への看護実践能力の向上に寄与する方法を検討する。病棟や外来、在宅等看護実践をする際に必要となる社会資源やチームアプローチの適用、対象の最善の利益を保証するための具体的方法について検討する。学生の関心の高いテーマについての文献検討や事例検討で得られた示唆をもとに、対象に貢献できる看護実践モデルや支援計画を考究する。				
留意事項				
各回の授業テーマに関する事前学習を主体的に行い、授業に積極的に臨むこと。				
教材				
必要に応じてその都度提示する。				
授業計画 (30回)				
(共同方式/30回)				
1-10 オリエンテーション 関心領域の国内外の文献検索、文献の整理および文献検討 対象の生涯発達を促し、QOL およびセルフケア能力向上を目指した看護実践とその評価				
11-16 総括 (発表・GW・討議)				
17-24 さらに文献や実践事例検討を行うとともに、課題に基づいて、対象への支援体系の開発・構築を目指した看護実践モデルや支援計画を作成する。				
25-30 総括 (発表・GW・討議)				
評価基準				
テーマに沿ったレポート作成および授業への取り組み・発表内容・参加状況等から総合的に評価する。 A (100~80点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79~70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69~60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 生涯発達を遂げる対象への看護実践について、関心領域に沿って理論・文献・実践事例から検討することができる。				
2. 看護実践をする際に必要となる社会資源の活用、および多職種連携によるチームアプローチ、考慮すべき倫理について検討できる。				
3. 対象の特性に応じたケアの特徴とポイント、アウトカムについて理解し、対象に寄与できる支援方法と評価方法を提案できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MG2301	生涯発達看護学演習 MII	1年/前・後期	2
担当教員		課程	
深谷久子 櫻井香		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>生涯発達を遂げる対象への看護のケアの質の向上と、人材育成をめざし、1) リーダー能力、2) 管理能力、3) 看護実践を支援する教育能力の強化を目的とする。これらの能力について理解し、対象の最善の利益を保障するための計画的かつ効果的な看護実践の展開方法を学ぶ。そのために、(1) 実践リーダー、(2) 管理者、(3) 教育支援者の役割・機能の実践力の強化・向上の3つの課題について、関連領域におけるフィールドワークおよび学内演習によって展開する。</p>
<p>授業内容</p> <p>あらゆる発達段階および発達状況にある対象への看護における(1) 実践リーダー、(2) 管理者、(3) 教育支援者の役割・機能を果たす能力を理解し、これらの能力の強化および向上をめざす。対象の在院日数の短縮化が進む中、複雑な問題を抱える対象の最善の利益を守るためのケアの確立、人材育成をする上での課題について現状を把握し、看護を提供する看護職者への教育支援・キャリア支援についても検討する。2単位のうち、1単位(5日間)は、病棟・外来・施設等フィールドでの具体的な実施とし、その前(準備)と後(まとめ)は学内演習を設定する。担当教員の指導のもとに、1) 学内でフィールドワークの準備のための文献検討および討議によるレポート作成、2) フィールドワークにおいては、臨床のリーダーや看護管理者の指導のもとに、実践の見学・共同実施をすることで、(1) 実践リーダー、(2) 管理者、(3) 教育支援者の役割の3つの課題を実践する。3) 学習内容を深めるためのまとめは学内で学生主体で教員とともに学生のレポートに基づいて発表・討論により行う。</p> <p>(共同方式/30回)</p> <p>1-4 フィールドワークの準備(文献検討、討議、レポート作成)</p> <p>5-12 看護実践の現場におけるリーダーの役割・機能・コンサルテーション能力の向上</p> <p>13-22 看護実践の現場における管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上</p> <p>23-28 看護実践の現場におけるスタッフと看護学生(臨地実習)への教育的支援の実践力の向上</p> <p>29-30 上記の3つの課題のレポートに基づく発表・討論・まとめ(学内)</p>
<p>留意事項</p> <p>各回の授業テーマに関する事前学習を主体的に行い、授業に積極的に臨むこと。</p>
<p>教材</p> <p>必要に応じてその都度提示する。</p>
<p>授業計画 (30回)</p> <p>(共同方式/30回)</p> <p>1-4 (学内) フィールドワークの準備(文献検討、討議、レポート作成)</p> <p>5-12 (実習場) 看護実践の現場におけるリーダーの役割・機能・コンサルテーション能力の向上</p> <p>1) 受け持ち対象と家族へのケアの質保証を目指したスタッフへのケア支援</p> <p>2) 医療チーム、他職種との連携調整方法</p> <p>3) 対象が抱える倫理的問題に対する調整</p> <p>4) 中間看護管理者としてのリーダーの役割・機能</p> <p>13-22 (実習場) 看護実践の現場における管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上</p> <p>1) 対象の最善の利益の保障および説明と同意の方法</p> <p>2) 病棟・外来・施設におけるケアの質を保証するシステム</p> <p>3) 人材資源管理とキャリア支援</p>

23-28	4) 病棟・外来・施設における感染管理・安全管理 5) ケアの可視化および経済的評価 (実習場) 看護実践の現場におけるスタッフと看護学生への教育的支援の実践 力の向上 1) スタッフへの教育支援 (1) スタッフの看護実践の評価と支援 (2) 新卒および異動看護師への支援 2) 看護学生の看護実習における教育支援 実習計画に基づく実習展開における教育支援方法
29-30	(学内) 上記の3つの課題のレポートに基づく発表・討論・まとめ

評価基準

テーマに沿ったレポート作成および授業への取り組み・発表内容・参加状況等から総合的に評価する。

A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 看護実践リーダーの役割・機能の理解と対照の最善の利益を保障する看護実践について理解し、対象に応じた方法で実施できる。				
2. 対象が療養している現場における看護管理者の役割・機能, 看護の質保証および人材育成について理解し、現場の状況に応じた方法で実施できる。				
3. 看護における教育的機能について理解し、自己能力を判断して現場や対象に応じた方法で実施できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MG4101	エンドオブライフケア看護学特論M	1年/前期	2
担当教員		課程	
加藤亜妃子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>エンドオブライフケアにおいて総合的で質の高いケアを提供するために国内外の関連する法制度・ケア提供システムと看護の機能および研究動向について理解し、わが国の課題を検討する。エンドステージにある患者と家族の生活環境によるケアニーズの特徴を理解し、QOLとQODD (Quality of Death and Dying) を高めるケア方法を検討する。また、患者と家族への告知と意思決定、インフォームド・コンセント、Total Pain、Spirituality、Grief & Mourningの概念を理解する。さらに、介入研究やEBP (Evidence-based Practice) を検討しエンドオブライフケア看護学の科学的思考力と実践力の向上をめざす。</p>
<p>授業内容</p> <p>国内外におけるエンドオブライフケアの法制度、ケア提供システム、ケアの実際については文献的に理解し、我が国の課題を分析する。国内外のエンドオブライフにおける研究動向を理解する。エンドステージを迎える事例の生活環境の相違による看護の提供システムの相違、病態像の相違を考慮したQOLとQODDを高める条件とケア方法を検討する。意思決定とインフォームド・コンセント、Total pain, Spirituality, Grief & Mourningなどの概念を理解する。患者とその家族のさまざまなニーズ対応と課題及び専門的ケア介入に関する諸理論とケア方法を探求する。またEBPなどの先行文献をクリティークすることにより、エンドオブライフケア看護学の科学的思考力と実践力の向上を図る。</p> <p>(加藤亜妃子/全15回)</p> <p>(4回)</p> <p>エンドオブライフ患者のQOLとQODD、死にゆく人の心理過程の介入方法とDying Patient (臨死患者) のアセスメントとニーズ、Death & Dying Care、スピリチュアルケアと看取りケア</p> <p>(3回)</p> <p>患者の権利と意思決定と告知・インフォームド・コンセントの概念とケア方法、エンドオブライフ患者の疼痛管理、症状緩和ケア</p> <p>(2回)</p> <p>エンドオブライフ患者と家族の環境(病院・在宅・ホスピス・高齢者施設など)の生活条件によるアセスメントとケアポイントの相違・特徴、臨死患者の家族の問題とサポートケア、Grief & Mourningなどについて文献や事例検討(2回)</p> <p>諸外国におけるエンドオブライフケア制度、ケアシステムサービスの実態とわが国の課題(2回)</p> <p>エンドオブライフ患者の病態特性とエンドオブライフケアの疾患「がん・心・肺疾患・老衰」などの事例とその家族の条件によるケアの特徴(1回)</p> <p>まとめ 学生の「修得内容のまとめ、レポート発表と検討」により自己の研究や実践力強化に反映させる</p>
<p>留意事項</p> <p>1. 授業に積極的参加を期待する。</p> <p>2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。</p> <p>3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。</p> <p>なお、本科目の単位習得には、授業時間以外に文献研究、発表準備等、およそ授業時間の2倍程度の自己学習を要します。</p>
<p>教材</p> <p>教科書</p> <p>1. 小笠原知枝編(2018)「エンドオブライフケア看護学 - 基礎と実践 - 」ニューヴェルヒロカワ出版</p> <p>参考図書</p>

1. 小笠原知枝、他（共著）（2005）「メンタルケア論Ⅱ Essays on Mental Care」メンタルケア協会
2. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編（2006）「看護理論 理論と実践のリンケージ」ニューヴェルヒロカワ出版
3. 小笠原知枝・松木光子編（2012）これからの看護研究 基礎と応用 第3版、ニューヴェルヒロカワ出版
4. 島内節、内田陽子（2014）「在宅におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人の人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房
5. 内田陽子、島内節編（2014）「施設におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人に人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房
6. 島内節、葉袋淳子（2008）「在宅エンド・オブ・ライフケア利用者アウトカムと専門職の実践力を高めるケアプログラムの応用」イニシア?
7. 島内節、友安直子、内田陽子（2002）「在宅ケアーアウトカム評価と質改善の方法」医学書院

授業計画（15回）

- 1-2 諸外国におけるエンドオブライフケア制度、ケアシステムサービスの実態とわが国の課題（2回）
- 3 エンドオブライフ患者のQOLとQODD（1回）
- 4 患者の権利と意思決定と告知・インフォームド・コンセントの概念とケア方法（1回）
- 5-6 エンドオブライフ患者と家族の環境（病院・在宅・ホスピス・高齢者施設など）の生活条件によるアセスメントとケアポイントの相違・特徴（2回）
- 7-8 エンドオブライフ患者の病態特性とエンドオブライフケアの疾患「がん・心・肺疾患・老衰」などの事例とその家族の条件によるケアの特徴（2回）
- 9-10 エンドオブライフ患者の疼痛管理、症状緩和ケア（2回）
- 11 統合的症狀緩和ケアモデルと症状緩和ケア（1回）
- 12 死にゆく人の心理過程の介入方法とDying Patient（臨死患者）のアセスメントとニーズ（1回）
- 13 Death & Dying Care、スピリチュアルケアと看取りケア（1回）
- 14 臨死患者の家族の問題とサポートケア、Grief & Mourningなどについて文献や事例検討（1回）
- 15 まとめ 学生の「修得内容のまとめ、レポート発表と検討」により自己の研究や実践力強化に反映させる（1回）

評価基準

1. 授業中の質疑・討議 40%
 2. 情報収集・分析 30%
 3. 課題に関する資料作成と発表 30%
- A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 諸外国とわが国のエンドオブライフケアシステムおよび看護職者の機能を比較し、わが国の課題について述べるができる。				
2. エンドオブライフケア看護学における基礎的用語を理解し、その定義を述べることができる。				
3. エンドステージ患者の身体的、心理社会的、精神的、スピリチュアルな特徴を理解し説明できる。				
4. エンドステージの患者・家族の異なる生活の場におけるアセスメントとケアのポイントと特徴を理解し、説明できる。				
5. Total Painのアセスメント、疼痛管理や症状管理を含む統合的症狀緩和ケアが理解できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MG4201	エンドオブライフケア看護学演習M	1年/後期	2
担当教員		課程	
加藤亜妃子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

エンドオブライフケアにおいて質の高いケアを提供するために、エンド・ステージにある患者ケアの場によるケア展開方法、病態や年齢条件によるケア展開方法、患者のアセスメント・心身変化と満足度のアウトカム評価方法、エンドオブライフケアの質管理、社会資源活用とチームケア、ケアシステムの評価など実際のケア支援方法を修得し、自己の研究に活用できる。

授業内容

QOL・QODを高めるためのエンドオブライフケアにおける権利擁護・インフォームド・コンセント方法、ケアリング能力を高める事例のアセスメントとアウトカム評価方法を理解し、エンド・ステージを迎える事例の年齢層・病態・生活環境条件によるケアの特徴とケア展開方法を研究エビデンスに基づいて理解する。ケア展開における社会資源活用とチーム展開法、ケアの質管理方法をエビデンスに基づいて修得する。

(加藤亜妃子／全30回)

(4回)

在宅ケア看護におけるエンドオブライフケア展開、エンドオブライフケア看護のアウトカム評価方法

(3回)

授業オリエンテーション、ホスピス病棟でのケア展開、エンドオブライフケアにおける社会資源活用とチームケア

(2回)

エンドオブライフケアにおける意思決定能力のアセスメントと支援

(4回)

各発達段階「周産期・学童・青年期・成人期・壮年期・老年期」にある患者とその家族へのエンドオブライフケアの特徴、一般病棟・緩和ケア病棟でのエンドオブライフケア展開

(2回)

高齢者ケア施設及び在宅ホスピスにおけるエンドオブライフケア展開

(6回)

エンドオブライフケアにおけるコミュニケーション技術

(2回)

エンドオブライフケアにおける臨床倫理

(2回)

エンドオブライフケアにおける社会資源活用とチームケア

(4回)

エンドオブライフケアの質管理の視点とケアの展開方法、

(1回)

学生の習得内容のまとめ 討議や発表により自己の研究に反映させる

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。
- なお、本科目の単位習得には、授業時間以外に文献研究、発表準備等、およそ授業時間の2倍程度の自己学習を要します。

教材

教科書				
1. 小笠原知枝編 (2018) 「エンドオブライフケア看護学 - 基礎と実践 - 」ニューヴェルヒロカワ出版				
参考図書				
1. 小笠原知枝・松木光子編 (2012) これからの看護研究 基礎と応用 第3版、ニューヴェルヒロカワ出版				
2. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編 (2006) 「看護理論 理論と実践のリンケージ」ニューヴェルヒロカワ出版				
3. 小笠原知枝、久米弥寿子、他 研究成果報告書ターミナル期にあるがん患者の痛み管理とサポートケアを妨害する諸因子の抽出とその対策 平成9～11年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書				
4. 島内節、内田陽子 (2014) 「在宅におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人の人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房				
5. 内田陽子、島内節編 (2014) 「施設におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人に人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房				
6. 島内節、葉袋淳子 (2008) 「在宅エンドオブライフケア利用者アウトカムと専門職の実践力を高めるケアプログラムの応用」イニシア				
7. 島内節、友安直子、内田陽子 (2002) 「在宅ケアーアウトカム評価と質改善の方法」医学書院				
授業計画 (15回)				
1 授業オリエンテーション (1回)				
2-3 各発達段階「周産期・学童・青年期・成人期・壮年期・老年期」にある患者とその家族へのエンドオブライフケアの特徴 (2回)				
4-5 一般病棟・緩和ケア病棟でのエンドオブライフケア展開 (2回)				
6-7 ホスピス病棟でのケア展開 (2回)				
8-9 高齢者ケア施設及び在宅ホスピスにおけるエンドオブライフケア展開 (2回)				
10-11 在宅ケア看護におけるエンドオブライフケア展開 (2回)				
12-15 エンドオブライフケアの質管理の視点とケアの展開方法 (4回)				
16-21 エンドオブライフケアにおけるコミュニケーション技術 (6回)				
22-23 エンドオブライフケアにおける臨床倫理 (2回)				
24-25 エンドオブライフケアにおける意思決定能力のアセスメントと支援 (2回)				
26-27 エンドオブライフケア看護のアウトカム評価方法 (2回)				
28-29 エンドオブライフケアにおける社会資源活用とチームケア (2回)				
30 まとめ：学生の習得内容のまとめ 討議や発表により自己の研究に反映させる (1回)				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%				
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 一般病棟、緩和ケア病棟、高齢者ケア施設、在宅でのエンドオブライフケアの特徴をいかした実際のケア支援方法を要約できる。				
2. 患者のエンドオブライフの時期におけるケアニーズの変化をアセスメントとアウトカムの評価のポイントを挙げることができる。				
3. 患者の病態や発達段階に応じたケア展開上のポイントを挙げることができる。				
4. エンドオブライフケアの質管理のポイントを説明できる。				
5. エンドオブライフケアにおける社会資源利用とチームケアの要点を説明できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MG4301	エンド・オブ・ライフ ケア看護学演習MⅡ	1年/後期	2
担当教員		課程	
加藤亜妃子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本科目はエンド・オブ・ライフケアにおいて質の高いケアを提供するために、①リーダー能力 ②管理者能力 ③現場指導者としての教育能力の強化をめざしている。これらの能力内容を理解し、実践で知識・技能・コンサルテーション力を含めて計画的・効果的な実践の展開方法を習得する。そのためにエンド・オブ・ライフケア看護の(1)リーダー、(2)管理者、(3)教育支援者の役割・機能と、これらに関する実践力を強化する上での課題に関して、さまざまなケア施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設など）において、フィールドワークを体験する。こうした体験学習で得た課題意識を、自己の研究計画に反映させる。</p>
<p>授業内容</p> <p>本科目では、エンド・オブ・ライフケア看護の(1)リーダー、(2)管理者、(3)教育支援者の具体的な役割・機能と、これらに関する実践力を強化する上での課題について、エンド・オブ・ライフケアを提供する施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設など）において、フィールドワークを体験する。このフィールドワークの前後に、学内演習を加えて体験学習を強化する。具体的には以下を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内でフィールドワークの準備のための文献検討と討議によるレポート作成 2. フィールドワークは現場のリーダー（専門看護師を含む）と管理者の指導のもとに、上記3者の実践活動の見学及び指導の下で一部実践 3. フィールドワークによる体験学習内容を深めるためのまとめ：レポート作成、発表、討議 （加藤亜妃子/30回） （4回） <p>学内で、フィールドワークの準備</p> <p>エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざま施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設）において、(1)リーダー、(2)管理者、(3)教育支援者の具体的な役割・機能と、これらに関する実践力を強化する上での課題について、文献検討と討議によるレポート作成 （18回）</p> <p>エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざま施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設）において、リーダーとしての役割・能力・コンサルテーション能力向上、エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざま施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設）において、管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上 （6回）</p> <p>エンド・オブ・ライフケア提供の各施設におけるスタッフと看護学生への教育的支援の実践力の向上 （2回）</p> <p>上記の役割・機能及び実践上の課題と、それに基づく発表・討論・学生の修得内容のまとめ（学内）</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。
<p>教材</p> <p>各教員により研究論文を中心に適宜使用。</p>
<p>授業計画 (30回)</p> <p>1-4 学内で、フィールドワークの準備： エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざま施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問</p>

看護ステーション、ペインクリニック施設)において、(1) リーダー (2) 管理者 (3) 教育支援者の具体的な役割・機能と、これらに関する実践力を強化する上での課題について、文献検討と討議によるレポート作成

5-12 エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざま施設(緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設)において、リーダーとしての役割能力・コンサルテーション能力向上

- 1) エンド・オブ・ライフケア施設の受持事例ケアの質保証のためにスタッフへのケア支援
- 2) チームケア、他機関との連携調整方法
- 3) 倫理的調整の方法
- 4) 中間管理者としてのリーダーの役割・機能

13-22 エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざま施設(緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設)において、管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上

- 1) 個人情報の保護の方法
- 2) 個別事例と家族のケアの質管理方法
- 3) 事例ケアの質保証のためのケアの組織化とケア体制づくり
- 4) 人事管理と組織力強化
- 5) 訪問看護ステーションの危機管理
- 6) ケアの質管理と経営管理を両立させる方法

23-28 エンド・オブ・ライフケア提供の各施設におけるスタッフと看護学生への教育的支援の実践力の向上

- 1) スタッフへの教育支援
 - (1) 各スタッフのケア実践力を評価し、各スタッフの受け持ち事例を用いてエンド・オブ・ライフケアの知識と技術力向上(事例検討・実践場面での共同実施・アセスメント・ケア方法・技術などの個人およびグループへの指導・訓練)
 - (2) 実践例について連携調整方法・社会資源利用・チームケア展開方法
- 2) 看護学生のエンド・オブ・ライフケア実習での教育支援
実習計画に基づく実習展開における教育支援方法

29-30 上記の役割・機能及び実践上の課題と、それに基づく発表・討論・学生の修得内容のまとめ(学内)

評価基準

1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%
- A (100~80点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79~70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69~60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 看護実践リーダーの役割と機能および効果的な実施方法について理解できる。				
2. 看護実践リーダーの役割・機能を果たす効果的な実施方法について、自己能力を判断して現場に有効な範囲で実施できる。				
3. 看護管理者の役割と機能および効果的な実施方法について理解できる。				
4. 看護管理者の役割・機能を果たす効果的な実施方法について、自己能力を判断して現場に有効な範囲で実施できる。				
5. エンド・オブ・ライフケアにおける教育的機能について理解できる。				
6. エンド・オブ・ライフケアにおける教育的機能について、自己能力を判断して現場に有効な範囲で実施できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MG9101	実践看護学特別研究M I	1年/通年	4単位
担当教員		課程	
深谷久子 加藤亜妃子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本科目の目的は、実践看護学（生涯発達看護学領域、エンド・オブ・ライフケア看護学領域）において、科学的思考力と研究能力を有する看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につけるために、研究計画書を作成することである。看護活動の改善・改革につながることをめざして、理論的・実践的な課題を生涯発達看護学特論Mまたはエンド・オブ・ライフケア看護学特論Mと生涯発達看護学演習M・MIIまたはエンド・オブ・ライフケア看護学演習M・MIIおよび共通科目から学んだ内容を活用して、先進的な課題で実践的研究にとり組む。適切な研究計画書を完成することができる。さらに、研究倫理審査会への提出をめざす。</p>
<p>授業内容</p> <p>本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。</p> <p>研究は分野の広い視野を基盤として、2つの領域のいずれかに焦点を当てて個別研究を行う。看護の改善・改革のために、看護サービスの提供方法、看護システム、看護教育などについて取り組む。研究のプロセスを理解し、研究計画書を作成する。研究のプロセスは、①研究テーマと目的の決定、②研究倫理を含めた研究デザインの選定、データ収集法 ③データ分析法 ④研究の精度を保つ質管理方法 ⑤修士論文計画書を完成する。</p> <p>【担当教員の指導目的・指導の焦点・指導方法・研究テーマ】</p> <p>（深谷久子）</p> <p>生涯発達看護学の中でも特に、子どもとその家族への看護の質の向上と対象者の最善の利益の保障を追究したテーマとする。発達段階からみた子どもの看護過程、先天性の疾患をもつ子どもと家族の看護に関する研究、NICUにおけるファミリーケア・NICU 医療チームと家族の協働、子育て支援、子どもの看護ケアや家族への支援、健康に課題のある子どものきょうだい支援、健康に課題のある子どもと家族がかかえる課題など、学生自身が興味関心のある分野の研究を探究する。研究手法としては、看護の対象者の内的体験を正確により深く理解するための質的研究方法である。</p> <p>（加藤亜妃子）</p> <p>がん看護学、緩和ケア、在宅緩和ケア、エンドオブライフケアに関するテーマ、特にエンドオブライフにあるがん患者とその家族へのケアに関する研究を指導する。研究方法は、テーマに合わせた手法を取り入れるが、主に質的研究のアプローチを用いて探求する。</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。
<p>教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は、自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により検索する。 2. 教員は、必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。
<p>授業計画 (60回)</p>

1-15	研究疑問の明確化（１）：関心のある臨床場 研究疑問の明確化（２）：問いの発見 研究疑問の明確化（３）：問いの洗練
15-23	文献検討 国内の文献クリティーク、国内の研究論文のまとめ 海外の文献クリティーク、海外の研究論文のまとめ 研究テーマの検討（１）：研究の背景に関する検討 研究テーマの検討（２）：文献レビューのまとめ 研究テーマの検討（３）：研究目的と課題の明確化 研究テーマの検討（４）：研究課題の意義と必要性の検討 研究テーマと目的を決定：（自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。）
24-25	研究方法論の検討（１）：既存の研究アプローチ 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討
26-30	研究方法論の検討（２）：研究施設と研究協力者 研究方法論の検討（３）：研究協力者の募り方 研究方法論の検討（４）：データ収集と分析の方法 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集方法と分析方法を選択
31-32	研究における倫理的配慮（１）：研究協力者の脆弱性に対する配慮 研究における倫理的配慮（２）：個人情報保護のための配慮 研究における倫理的配慮（３）：研究参加における不利益に対する配慮 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法
33-34	研究計画書の検討（１）：研究計画書の書き方
34-48	研究計画書の検討（２）：研究計画書作成の実際
49-52	研究計画書の検討（３）：学生と看護学研究科委員による学生のテーマ関連教員参加のもと、「研究計画発表会」にむけた準備・発表・討議
53-60	研究計画書の検討（４）：発表した研究計画の評価に基づいて修正し、また、実践看護学分野のテーマ関連の教員が参加し助言のもと、研究計画書を完成する。

評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価				
A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究論文のクリティークができる。				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
5. 実践看護学分野の看護活動の改善・改革のために、新しい知見が予測される研究計画を完成できる。				
6. 研究計画発表会で発表できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
MG9201	実践看護学特別研究MⅡ	2年/通年	4単位
担当教員		課程	
深谷久子 加藤亜妃子		博士前期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本科目では、生涯発達看護学・エンド・オブ・ライフケア看護学領域を実践看護学分野として構成し、特別研究MⅠの研究計画書に沿って、特別研究MⅡは生涯発達看護学・エンド・オブ・ライフケア看護学の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究にとり組む。その分野で広い視点が持てるように2つの領域でのいずれかにおいて個別専門的視点から科学的思考力を備えた看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。そのため、研究論文を作成する。</p>
<p>授業内容</p> <p>授業内容は、研究目的を達成するために特別研究MⅠで作成した研究計画に沿って次の①～⑤のとおり研究を進める。研究の精度を保つ方法で①データを収集する、②効率的なデータ入力方法、③妥当なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて結果をまとめる、④研究結果データにもとづいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる、⑤研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を適切に検討する。</p> <p>【担当教員の指導目的・指導の焦点・指導方法・研究テーマ】</p> <p>(深谷久子)</p> <p>生涯発達看護学の中でも特に、子どもとその家族への看護の質の向上と対象者の最善の利益の保障を追究したテーマとする。発達段階からみた子どもの看護過程、先天性の疾患をもつ子どもと家族の看護に関する研究、NICUにおけるファミリーケア・NICU 医療チームと家族の協働、子育て支援、子どもの看護ケアや家族への支援、健康に課題のある子どものきょうだい支援、健康に課題のある子どもと家族がかかえる課題など、学生自身が興味関心のある分野の研究を探究する。研究手法としては、看護の対象者の内的体験を正確により深く理解するための質的研究方法である。</p> <p>(加藤亜妃子)</p> <p>がん看護学、緩和ケア、在宅緩和ケア、エンド・オブ・ライフケアに関するテーマ、特にエンドオブライフにあるがん患者とその家族へのケアに関する研究を指導する。研究方法は、テーマに合わせた手法を取り入れるが、主に質的研究のアプローチを用いて探求する。</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。 2. レポートなどの提出物は期日ごとに行う。 3. 授業への積極的参加と研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。
<p>教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は、自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は、必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。
<p>授業計画 (60回)</p>

1-10	研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備。
11-20	研究の精度を保つ方法でデータを収集。
21-35	効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化研究結果に基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる。
36-43	研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討。
44-50	発表会において適切な準備の上で発表・討論。
51-60	発表した論文の評価に基づいて修正し論文を完成する。

評価基準

科目の到達目標の到達度により評価

A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 倫理審査の承認を得た後、研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる。				
2. 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる。				
3. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる。				
4. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる。				
5. 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性が確認できる。				
6. 「中間発表会」で発表し、論文を修正することができる。				
7. 「最終発表会」において、評価を受け、論文を修正し完成することができる。				
8. 決められた期日までに最終論文提出ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DA0101	看護学研究特論D	1年/前期	2単位
担当教員		課程	
藤原奈佳子 西川まり子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的 博士後期課程の目的は、自立した研究者としてグローバルな視点で看護研究と実践活動（現場と教育）の相互関係的発展を促進させる実践科学として看護学の学問的発展に貢献できる研究者と教育者になることである。そこで本科目では、このような研究者となるために研究目的に応じた研究デザインを選定した研究計画の立て方に焦点を当て、計画から研究結果の導き方にも触れて、自己研究に活用できることをめざす。本科目は、各学生の専門領域の特別研究前の基盤となる共通必修科目として位置づけている。
授業内容 独創性・新規性のある研究計画を立てるとはどのようなことか、研究計画からどのようにして結果が導かれるか、自己の研究課題に活用できる示唆が得られるようにする。
留意事項 1. 授業に積極的参加を期待する 2. 授業の課題について事前に情報収集と必要に応じて分析を試みる 3. 自己の研究計画に反映させる なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。
教材 適宜、研究論文などを使用
授業計画（15回） 1. (藤原 1) 看護研究の目的、特徴、新規性・独創性・社会的価値を考慮した研究の進め方、文献検索（和文献）と整理（マトリックス方式） 2. (西川 1) 文献検索の実際と管理（英語論文）、文献管理ソフトの利用、クオリティーの高い論文誌の選択 3. (西川 2) 量的研究法の基礎（1）：研究デザインの選択 4. (西川 3) 量的研究法の基礎（2）：研究の信頼性・妥当性確保 5. (西川 4) 量的研究法の基礎（3）：研究の信頼性・妥当性確保 6. (西川 5) 量的研究法の基礎（4）：介入研究法、介入研究」の登録の意義と実際の方法 7. (西川 6) 質的研究法の基礎：質的研究方法とその質管理 8. (西川 7) 混合研究法の方法、特徴と質管理 9. (藤原 2) 科学者としての研究倫理 と 研究倫理審査申請書作成 10. (藤原 3) 文献クリティークの基礎（1）：質的研究法を含む 11. (藤原 4) 文献クリティークの基礎（2）：量的研究法を含む 12. (藤原 5) 文献クリティークの基礎（3）：実験的研究法を含む 13. (西川 8) 文献クリティークの基礎（4）：混合研究法を含む 14. (藤原 6) 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点 15. (藤原 7) 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点
評価基準 1. 授業中の質疑・討論 40% 2. 情報収集と分析 30% 3. まとめのレポートと発表討論 30% A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 基本的な研究デザインを学び、自己の研究課題に発展させることができる。				
2. 研究目的に応じた研究デザインを検討し、新たな研究計画を立案できる。				
3. 自身の論文作成に結びつけて、倫理的配慮を踏まえた計画書作成の準備ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DA0201	疫学応用統計学D	1年/前期	2単位
担当教員		課程	
箕浦 哲嗣		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

パソコンの発達とともに、保健師や看護師が自ら収集したデータを簡単に分析できるようになりました。しかしながら統計学を理解していないために、間違った結果を提示してしまう過ちも多数見受けられます。医療、看護および保健の分野で必須である統計学について、量的研究の論文を読解できるようになることはもちろん、逆に文献を批判的に読み解く批判的読解力を養うことも目的として、記述統計および推測統計を理解してもらいます。また、医療分野で多く使われている多変量解析に関しても、一部を教授します。

授業内容

本講義は記述統計だけでなく、推測統計の基本である母平均・母比率の推定、平均値の差の検定および比率の差の検定、さらに重回帰分析に始まる多変量解析の初歩までを範囲として、実際に Excel、SPSS あるいは EZR を用いて計算しながら理解を深めます。

評価方法

課題レポート 70% 講義に対するアクティビティ 30%

留意事項

1. 授業に積極的に参加する
2. 授業内容について事前に情報を収集し、必要に応じて分析を試みる
3. 授業内容を自己の研究の計画立案や実践に反映させる

教材

事前に授業支援 CMS よりプリントを配布するので、印刷して参加すること。

授業計画(15回)

1. 統計学の基本的概念（保健統計の必要性、データの種類）
2. 記述的解析（度数分布、特性値、散布度、質的データの記述的解析）
3. 記述的解析（グラフの作成、統計的推論の準備）と論文上の標記の解釈
4. 分布（色々な分布、確率分布、正規分布の基礎）
5. 統計的推論（母集団平均の点推定と区間推定、割合の推定）
6. 統計的推論（割合の推定）、仮説検定の考え方
7. 平均値の差の検定（母集団と標本とのつの比較）
8. 平均値の差の検定（2つの母集団の平均値の差の検定）
9. 分散分析法、ノンパラメトリック検定
10. 比率の差の検定（分割表による検定、カイニ乗検定）
11. 相関と回帰、母相関検定
12. 各種検定の演習
13. 重回帰分析とは
14. EZR 等による記述統計の算出、各種検定、重回帰分析およびロジスティック回帰分析
15. まとめ

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
保健医療データを統計分析する上で基本となる分布や基本統計量についての理解				
健康関連情報処理プロセス（質問紙作成と留意点、データ収集～分析等）の理解				
疫学研究手法の看護研究への適用への理解				
疫学研究における遵守すべき倫理的事項の理解				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DB0101	看護教育学特論D	1年/前期	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子 伊藤千晴		博士後期	

授業計画詳細

授業目的

本課程の目的は、グローバルな視点に立ちながら、研究と実践の相互関係を促す実践科学として看護学の発展に貢献できる自立した研究者、教育者の育成にある。そのため、特論Dでは、看護教育学の教育者・研究者になることを目指して、教育学、教育心理学、学習心理学、社会学、医学、保健学などの看護学周辺諸科学の知見を踏まえつつ、わが国内外の看護教育制度と社会動向を反映させながら授業を進める。

具体的には、わが国の社会的・教育的現状を反映した看護教育カリキュラムの開発、看護学教育への教育介入プログラムの作成と評価、看護学実習における教育環境の分析に基づく教育システムの構築、現場の実践活動を効果的にするためのエキスパート看護師に対する教育方策とその評価などの課題の修得による教育方略力や教育評価力を高めること、などを内容とする。こうした課題に関する諸研究を熟読し、クリティクすることにより、自己の独創的な研究計画や博士論文作成に寄与させる。

授業内容

具体的な授業内容

- わが国の看護教育学における教育と研究上の課題を、国内外の看護教育制度と社会動向を反映した教育現状との関連で分析する
- 看護学教育への教育介入プログラムの作成と評価
- わが国の社会的・教育的現状を反映した看護教育カリキュラムの開発—日米比較
- 体験学習理論を背景にした看護学教育授業展開における教育介入プログラムとの作成と評価法
- 看護学実習における教育環境の分析に基づく教育システムの構築
- 現場の実践活動を効果的にするためのエキスパート看護師に対する教育方策とその評価とまとめ
看護学教育プログラムの開発による教育介入研究や評価研究などについての修得によって、自己の研究計画にどのように活用するのかについて討議する (オムニバス方式/全15回)

留意事項

- 授業に積極的参加を期待する。
- 授業の課題について事前に情報収集と必要に応じて分析を試みる。
- 授業の中で自己の研究計画と実践力強化に反映させる。

教材

必要に応じて適宜使用。

授業計画 (15回)

授業はオムニバス方式により、下記の内容で、講義・討議で進める。

- 2 わが国の看護教育学における教育と研究上の課題を、国内外の看護教育制度と社会動向を反映した教育現状との関連で分析する (篠崎恵美子/2回)
- 4 看護学教育への教育介入プログラムの作成と評価 (篠崎恵美子/2回)
- 6 わが国の社会的・教育的現状を反映した看護教育カリキュラムの開発—日米比較 (篠崎恵美子/2回)
- 9 体験学習理論を背景にした看護学教育授業展開における教育介入プログラムとの作成と評価法 (篠崎恵美子/3回)
- 10-12 看護学実習における教育環境の分析に基づく教育システムの構築 (伊藤千晴/3回)
- 13-14 現場の実践活動を効果的にするためのエキスパート看護師に対する教育方策とその評価

(伊藤千晴／2回)

15 まとめ

看護学教育プログラムの開発による教育介入研究や評価研究などについての修得によって、自己の研究計画にどのように活用するのかについての討議

(伊藤千晴／1回)

評価基準

1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%

A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 看護学教育における研究上の課題を、教育現状との関連で分析できる。				
2. アセスメント能力を高める教育介入研究のプロセスを理解し、分析できる。				
3. 看護学生の実習環境システム研究を分析して、教育指導の在り方を検討することができる。				
4. 体験学習理論に基づき、教育介入プロセスを理解し分析できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DB0201	看護教育学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子 伊藤千晴		博士後期	

授業計画詳細
授業目的
看護教育学や看護の基盤となる基礎看護領域の構成概念・理論・モデルを創造することに貢献する教育力・研究力を高めることを目的とする。そのために、概念分析、国内外の文献検討を修得し、具体的な研究例を用いて、教育介入研究、教育評価研究、ケアアウトカム測定尺度の開発、教育プログラム及び教育システムの開発とその検証などについて論理的に理解し、自己の研究計画や論文作成に活用させる。
授業内容
本演習では、以下の内容を扱うものである。 国内外のシステムティックレビューおよび文献検討と概念分析に関する基礎理解をする。 国内外の諸看護教育学研究の理論生成過程の分析や教育介入研究について、国内外の文献検討をして、クリティークと研究テーマの概念分析をするために、以下を理解するものとする (オムニバス方式/30回)
留意事項
1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集と必要に応じて分析を試みる。 3. 授業の中で自己の研究計画と実践力強化に反映させる。
教材
1. 各教員により研究論文を中心に適宜使用。 2. 参考図書： 1) 杉森みど理・舟島なをみ(2012). 看護教育学 第5版, 医学書院. 2) Kolb, D. A. (1984). <i>Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development</i> , Prentice-hall, New Jersey. 3) 小笠原知枝・松木光子編(2012). <i>これからの看護研究－基礎と応用</i> 第3版
授業計画 (15回)
1-3 ステマティックレビューおよび文献検討と概念分析に関する基礎理解 (篠崎恵美子/3回)
4-9 看護学教育への教育介入研究(教育プログラムの開発を含む)に関する文献検討と概念分析： ・看護アセスメント領域、対人関係看護介入領域における教育プログラムの開発とその検証 (篠崎恵美子/6回)
10-12 看護学教育への教育介入研究(教育プログラムの開発を含む)に関する文献検討と概念分析： ・倫理的態度領域における教育プログラムの開発とその検証 (伊藤千晴/3回)
13-15 正確な臨床判断力を高めるための思考過程の分析と教育プログラムの開発 (篠崎恵美子/3回)
16-20 看護学教育の教育評価研究(測定尺度の開発を含む)に関する文献検討と概念分析 (篠崎恵美子/5回)
21-23 教育システムの開発とその検証などにおける文献検討と概念分析 (篠崎恵美子/4回)
24-29 実習指導と実習環境間の教育システムの開発に関する文献検討と概念分析 (伊藤千晴/5回)
30 まとめ：研究と実践の相互関係的な発展をめざした研究例を通して、どのように自己の研究計画に活用

評価基準

1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%

A (100~80点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79~70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69~60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標

	A	B	C	D
1. 文献検討と概念分析について理解し、その意義を説明できる。				
2. アセスメント能力育成を目的とした教育介入研究のための文献検討に基づく概念分析ができる。				
3. 倫理的態度育成のための教育介入研究に関する文献検討に基づく概念分析ができる。				
4. 臨床実習環境、実習指導と実習評価の文献検討に基づく概念分析ができる。				
5. 教育評価尺度の開発に関する文献検討に基づく概念分析ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DB2101	看護保健管理学特論D	1年/前期	2
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>看護管理学は、経済学、経営学、組織論、心理学、社会学、政治学、政策学、社会保障学、医学など幅広い範囲を扱っている。看護周辺領域の学問体系の考え方にもふれながら、看護の質とは何かを探求し、看護の質向上のための方策をみいだす。看護管理の構築の視点から、組織の特性を踏まえた看護管理プログラムの開発に向けて、保健医療・看護政策や医療施設の管理に関連する国内外の文献を批判的に吟味し、看護管理のあるべき姿について探求する。</p>
<p>授業内容</p> <p>自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために看護管理学は、経済学、経営学、組織論、心理学、社会学、政治学、政策学、社会保障学、医学など幅広い範囲を扱っており、看護周辺領域の学問体系の考え方にもふれながら看護の質とは何かを探求し、看護の質向上をめざす。看護および保健医療政策に関する課題や実践的な看護マネジメントにおける資源の効果的、効率的配分における課題などについての国内外の文献購読をとおして、看護管理学の諸理論を学び、研究動向をとおして研究のプロセスを理解し、自らの研究課題へと発展させる能力を養う。</p>
<p>留意事項</p> <p>各回のテーマに関する国内外論文を検索し、論文内容、研究方法について学習しておくこと。プレゼンテーションは、テーマの理論概説、先行研究や既存資料の観察などを通じた現状分析、自身の体験事例などを統合させて、改善策の提言、看護実践への応用などを含む。討議内容をふまえて課題レポートを作成する。</p> <p>なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。</p>
<p>教材</p> <p>必要文献は都度提示する。</p> <p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スティーブンP. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2009年 ・中西睦子編集：看護サービス管理、第3巻、医学書院、2007年
<p>授業計画 (15回)</p> <p>1-5 「組織行動のマネジメント」を中心に輪読し、心理学・社会学・人類学・政治学などが包含された行動科学について理解する。組織で働く人々を体系的に概観することができる。</p> <p>6-8 医療政策と看護の質、医療の質に関する課題 看護の質、医療の質に関する研究方法を学び、政策が質にもたらす影響を探究する。</p> <p>9-11 組織における質の高い看護サービスの提供 組織、組織変革に関する理論を学び、看護サービスの質向上のための方策を探究する。</p> <p>12-13 財務管理や人材育成などのシステム構築 組織の特性をふまえた看護管理プログラムを提言できる。</p> <p>14-15 政策研究法と政策評価研究法 看護政策研究に関する文献を吟味し政策研究の手法や評価法を理解する。臨床現場での問題点から政策課題をみだし政策代替案を提言することができる。</p> <p style="text-align: right;">(藤原奈佳子/15回)</p>
<p>評価基準</p> <p>1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%</p>

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 心理学・社会学・人類学・政治学などが包含された行動科学について理解し、組織で働く人々を体系的に概観することができる。				
2. 組織、組織変革に関する理論を学び、看護サービスの質向上のための方策を探究することができる。				
3. 組織の特性をふまえた看護管理プログラムを提言できる。				
4. 政策研究の手法や評価法を理解し、臨床現場での問題点から政策課題をみだし政策代替案を提言することができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DB2201	看護保健管理学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
看護管理学領域に関連する課題を中心に、国内外の論文や図書などから情報を収集し、自己の研究課題を導く。				
授業内容				
自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために、看護保健管理学での論文講読は、研究デザインや研究方法の妥当性と信頼性、得られた結果の検討など批判的に精読する。文献検索法、文献整理など研究の基礎的な技術や情報収集能力を修得する。必要な研究方法については、専門書を輪読する。また、既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させる能力を修得する。学生の関心に応じて先進的取り組みを行っている組織においてフィールドワークを行い、その結果を報告・討議し看護管理上の課題を検討する。				
留意事項				
自己の研究課題を明確にするために、事前に自ら演習計画を立案するなど積極的な準備が必要である。 なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。				
教材				
必要文献は都度提示する。 書名：バーンズ&グローブ看護研究入門 著者名：Nancy Burns/Suzan K. Grove/監訳＝黒田裕子他、 出版社・出版年：エルゼビア・ジャパン；原著第5版・2007年 価格：8,640円 著者名：スティーブンP. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、 出版社・出版年：ダイヤモンド社・2009年				
授業計画 (30回)				
1-6 研究について「バーンズ&グローブ看護研究入門」を中心に購読し、研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究する 7-22 自己の課題について国内外の文献を吟味し、管理に関する理論を含めて課題へのとり組みを論理的にプレゼンテーションすることができる 23-30 ヘルスケアシステムにおける課題について組織変革プログラムや政策提言立案ができ、既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させることができる (藤原奈佳子/30回)				
評価基準				
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%				
A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究することができる。				
2. 自己の課題について国内外の文献を吟味し、管理に関する理論を含めて課題へのとり組みを論理的にプレゼンテーションすることができる。				

3. ヘルスケアシステムにおける課題について組織変革プログラムや政策提言立案ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DB9101	看護教育管理学特別研究D I	1年/通年	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子、伊藤千晴、藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本研究では、看護教育と看護管理の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む看護教育学と看護管理学の領域を看護教育管理学看護学分野としている。その2つの領域での分野は国内外で研究を広げ革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発を行う。</p> <p>またグローバルな研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために特別研究D Iでは適切で実行可能な研究計画書を作成するために計画発表会で発表し、研究計画審査の準備を目指す。</p>
<p>授業内容</p> <p>本授業内容は、看護の質保証を重視して専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていく。看護の現象をより、とらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みの明確化し、看護の実践に有用な研究を国内外の文献を通して幅広く行う。研究は分野の広い視点を基盤として2つの領域のいずれかについて深める看護教育学では看護の改善・改革のために、教育プログラムの開発、これに基づく教育介入研究、教育システムの構築を行う。看護管理は臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善などについて取り組む。研究の過程を理解し、研究計画書を作成する。研究計画書には研究タイトル、研究動機、研究背景、研究対象、研究枠組みなど、研究の意義（研究の新規性・独創性・看護における意義、社会的価値）、研究デザイン、データ収集法、分析方法、研究の精度を保つ質管理方法、倫理的配慮などを加え、研究計画書を完成する。看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む</p> <p>(篠崎恵美子)</p> <p>研究テーマはさらに国際的に見地を深め、アセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究を探求する。</p> <p>(伊藤千晴)</p> <p>研究テーマはさらに国際的に見地を深め、倫理的態度育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究である。</p> <p>(藤原奈佳子)</p> <p>看護管理学領域では、看護保健管理学特論D、看護保健管理学演習Dで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。
<p>教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。
<p>授業計画 (30回)</p> <p>1-6 看護教育管理学分野の個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開：共通成が高く有用な研究課題</p>

と手法の代表的な研究例などを用いて下記のプロセスに沿って授業展開を行う。

- 7-8 原著水準の副論文 1 件以上（学術誌の原著論文として採用される）と博士（看護学）学位論文の完成を目指す条件の確認
- 9-11 研究テーマと目的を決定：自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。
- 12-14 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討
- 15-16 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択
- 17-19 データ分析法の選択
- 20-21 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法
- 22-26 研究計画書を作成
- 27-28 看護学研究科委員会による学生と教員参加の「発表会」において準備発表・討論
- 29-30 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成

評価基準

科目の到達目標の到達度により評価

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 学術誌での原著論文の水準を確認できる				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を明確にし、研究テーマと目的を決定させる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析方法を決定できる				
5. 研究プロセスにおける質管理方法を理解し活用できる				
6. 「発表会」に適切な準備の上で発表し、評価が受けられる				
7. 看護実践の改善、変革または政策への提言のために新しい知見が得られる研究計画書を完成させる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DB9201	看護教育管理学特別研究Ⅱ	2年/通年	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子、伊藤千晴、藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本科目では、看護教育と看護管理の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のために独創性と新規性の高い実践的研究に取り組む。看護教育管理学分野において実践科学として学問的発展に貢献できるようになるために研究を行う。看護教育管理学分野の教員が指導をする。専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために、本科目の目的は特別研究Ⅰで準備をした研究計画の審査に合格し、倫理委員会に提出する。また、計画に沿って研究を進め、中間発表会Ⅰで発表する。副論文を学術誌に投稿することを目指して研究をすすめる。</p>
<p>授業内容</p> <p>本授業内容は、分析において国際的視点で教育プログラム開発やシステム開発、または、看護保健管理学の研究テーマに沿って、現場の看護マネジメントの視点から看護実践の改善・変革のための提案ができる研究を行う。看護教育管理学に関する研究計画に沿って研究を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①研究データの収集 ②データの分析 ③精度の高い結果を導き、その解釈、妥当性を検討 ④十分な文献による考察、結論を導く。 ⑤「発表会」で評価を得て論文を修正、博士論文の全体的な計画を実行しながら論文を完成する。 ⑥学術誌に投稿する。 <p>看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。</p> <p>(篠崎恵美子)</p> <p>研究テーマはアセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究。</p> <p>(伊藤千晴)</p> <p>倫理的態度育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究</p> <p>(藤原奈佳子)</p> <p>看護管理学領域では、看護保健管理学特論Ⅰ、看護保健管理学演習Ⅰで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。</p>
<p>留意事項</p> <p>研究の推進、データの収集・分析、データ分析内容に即した副論文の作成、学会発表、学内中間発表の発表内容の精度、内容、評価</p>
<p>教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。
<p>授業計画 (15回)</p> <p>1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備</p> <p>3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集</p> <p>7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討</p>

して図、表を加えて文章化

12-16 研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめ

17-23 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討

24-25 「発表会」において適切な準備の上で発表・討論

26-30 論文の中間発表会の評価に基づいて論文の修正、学術誌に投稿

評価基準

科目の到達目標の到達度により評価

A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画の審査に合格することができる				
2. 倫理審査申請書を提出し、承認を得ることができる				
3. 本研究を国際的な研究動向に位置づけて研究を進めることができる				
4. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析ができる。				
5. 分析結果に基づいて考察と結論を適切に導くことができる。				
6. 研究目的から結論まで論旨一貫性を検討確認できる。				
7. 論文の中間発表会 I で発表し、質疑に適切に対応できる。				
8. 博士（看護学）学位論文に関連する副論文の学術誌を目指して研究を進めることができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DB9301	看護教育管理学特別研究Ⅲ	3年／通年	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子、伊藤千晴、藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本研究では、看護教育・看護保健管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む看護教育学と看護保健管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その2つの領域での広い分野でいずれかについても深め、革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発などを行う。グローバルな研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になることをめざす。特別研究Ⅲの目的は、独創性があり先駆的な論文を作成することである。そのために国際学会での発表、副論文の学術誌への掲載、中間発表会Ⅱでの発表、博士論文予備審査を経て、博士本論文を期限内に提出することを目指す。</p>
<p>授業内容</p> <p>特別研究Ⅲでは、以下のプロセスに沿って授業展開を行う。</p> <p>特別研究Ⅰ・Ⅱの内容水準と研究プロセスを経て博士学位論文の予備審査に合格した後、本論文の博士（看護学）学位論文を完成させ、その最終審査に合格することである。</p> <p>特別研究Ⅱの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、「博士（看護学）学位論文中間発表会（2回目）、研究科委員会において論文審査委員（3名）の口答諮問による予備審査に合格し、論文の最終審査に合格できるようにする。</p> <p>看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。</p> <p>（篠崎恵美子） 研究テーマはアセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究。</p> <p>（伊藤千晴） 倫理的態度育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究</p> <p>（藤原奈佳子） 看護管理学領域では、看護保健管理学特論Ⅲ、看護保健管理学演習Ⅲで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。</p> <p>主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。</p> <p>（篠崎恵美子 伊藤千晴） 学生の研究テーマに沿って研究の集大成として特別研究Ⅲでは、独創性があり、先駆的な例えば、（教育研究では患者や家族をサポートする看護学生に対人関係能力育成の達成の教育プログラムの開発など）、を作成する。</p> <p>（藤原奈佳子） 研究結果から例えば、（現場の看護実践の改善・変革のための提言、保健医療制度をマネジメントする視点から政策への提言など）の論文を作成し、以下の内容水準と研究プロセスを経て博士学位論文の予備審査に合格した後、本論文の博士（看護学）学位論文を完成させ、その最終審査に合格することである。特別研究Ⅱの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討し、原著論文を完成させる。</p>
留意事項

1) 現場志向型研究の過程と方法を修得する。 2) 論理的・分析的思考に基づいた論文作成 3) 期日までに論文を仕上げる				
教材				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・ 教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。 				
授業計画 (30回)				
1-5 グループと個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開				
1-6 特別研究DⅡの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述				
7-14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討				
15-20 研究科委員会が開催する学生と教員参加による「論文発表」において適切な準備の上で発表・討論				
21-30 発表した論文の評価に基づいて修正 独創性・新規性のある論文を作成し、原著論文として投稿				
評価基準				
独創性があり先駆的な原著論文を作成する。				
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 博士論文の作成に向けて研究を進めることができる。				
2. 学術集会への発表など研究成果を報告することができる。				
3. 研究成果として独創性・新規性・社会的価値について述べるすることができる。				
4. 独立した研究者としての能力を備え、幅広く深い知識を基盤としたさらなる研究を展開することができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DE2101	地域看護学特論 D	1年/前期	2
担当教員		課程	
巽あさみ		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>地域で生活する人々の健康水準の向上をめざして、地域看護の実践と研究の相互関係的な進め方を講義と討論を中心として展開する。そこでエビデンスに基づいて地域看護活動の方向性と地域看護活動課題を見出す。地域の人々が保健行動を改善し、定着化できる力量を身につけていくことをめざす。そのために、自立して地区踏査、行政データの分析、調査等を通じて、地域の健康課題と、健康に関連する諸要因を明らかにし、課題解決に向けて行政と住民と各種組織・団体がチームで取り組むために、具体的な行動に移せる計画を住民や関係者と立案し、実行し、評価し、次の活動に生かす行動がとれるようになることをねらいとする。</p>
<p>授業内容</p> <p>地域の人々の健康を守るために、地区診断の理論や、健康支援の理論、健康行動変容のための理論を応用して、地域看護活動の対象である集団と個（母子、成人、高齢者、難病、感染症、災害弱者など）を対象に焦点化して、現在の看護活動の改善と改革的提案を行い住民や各種関係機関の人々との共同計画によって取り組みの方法と評価指標を用いて実施できるようにする。また、諸外国の活動と我が国の活動を比較することで、今後の日本における活動の課題や展望を考察する。</p> <p>(15回)</p> <p>(巽あさみ/7回) 地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向を分析し、我が国における研究と実践課題の明確化をする。地域看護活動の対象者別（高齢者・スラム生活者）に健康水準について先行研究をクリティークし、因果関係・健康阻害要因に関するデータ分析、健康課題をレビューする。地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的变化について、データの偏りを排除した解析を用いて、信頼性と妥当性のある研究的評価を行い、実態を明らかにする。実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因（課題）を明確にし、改善方法を見す。健康課題に対する地域看護活動の方向性と地域の社会資源（関係機関、関係職種）を活用した個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を検討し開発する。</p> <p>(巽あさみ/6回) 地域看護活動の対象者別（母子、成人、難病、感染症・災害弱者）に健康水準について先行研究をクリティークし、因果関係・健康阻害要因に関するデータ分析、健康課題をレビューする。</p> <p>住民の健康水準の経年的変化と地域看護活動の実際について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。</p> <p>健康課題の解決のための方向性を住民・地域組織、地域の専門職などの人々と共有する。そのために住民や関係者に対して根拠のある健康情報を開示し、住民とともにあるべき方向を探るための計画の在り方を考察する。</p> <p>(巽あさみ/1回) 明らかになった健康実態把握に対し、健康問題解決のための方法論としてインタビューなどの質的研究及び社会的、易学的な量的研究を行い、健康に影響する要因、様因の因果関係や関連、健康阻害要因を明らかにする。</p> <p>(巽あさみ/1回) 地域の人々の健康水準評価と地域看護活動展開の評価研究について、学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論でまとめを行う。</p>
<p>留意事項</p> <p>授業に①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。</p>
<p>教材</p>

資料（書名、必要な文献など）は、その都度紹介する。				
授業計画（15回）				
1-2. 地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向を分析し、我が国における研究と実践課題の明確化する。（巽あさみ/2回）				
3-4. 地域看護活動の対象者別（高齢者・スラム生活者）に健康水準について先行研究をクリティークし、因果関係・健康障害要因に関するデータ分析、健康課題をレビューする。（巽あさみ/2回）				
5-6 地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的変化について、データの偏りを排除した解析を用いて、信頼性と妥当性のある研究的評価を行い、実態を明らかにする。（巽あさみ/2回）				
7. 実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因（課題）を明確にし、改善方法を見出す。健康課題に対する地域看護活動の方向性と地域の社会資源（関係機関、関係職種）を活用した個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を検討し開発する。（巽あさみ/1回）				
8-10. 地域看護活動の対象者別（母子、成人、難病、感染症・災害弱者）に健康水準について先行研究をクリティークし、因果関係・健康障害要因に関するデータ分析、健康課題をレビューする。（巽あさみ/2回）				
11-12. 住民の健康水準の経年的変化と地域看護活動の実際について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。（巽あさみ/2回）				
13. 健康課題の解決のための方向性を住民・地域組織、地域の専門職などの人々と共有する。そのために住民や関係者に対して根拠のある健康情報を開示し、住民とともにあるべき方向を探るための計画の在り方を考察する。（巽あさみ/1回）				
14. 明らかになった健康実態把握に対し、健康問題解決のための方法論としてインタビューなどの質的研究及び社会学的、疫学的な量的研究を行い、健康に影響する要因、要因の因果関係や関連、健康障害要因を明らかにする。（巽あさみ/1回）				
15. 地域の人々の健康水準評価と地域看護活動展開の評価研究について、学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論でまとめを行う。（巽あさみ/1回）				
評価方法				
1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30%				
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
地域の人々の健康を守るための地区診断の理論や、健康支援の理論、健康行動変容のための理論を理解し応用できる。				
地域看護活動の対象である集団と個（母子、成人、高齢者、難病、感染症、災害弱者など）を対象に焦点化して健康課題の抽出ができる。				
健康課題に沿って、現在の看護活動の改善と改革的提案を行うことができる。				
提案した値域看護活動について、住民や各種関係機関の人々との共同計画によって取り組みの調整ができる。				
諸外国の活動と我が国の活動を比較することで、今後の日本における活動の課題や展望の考察ができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DE2201	地域看護学演習 D	1年/通年	2
担当教員		課程	
巽あさみ		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>地域看護学特論 D」において、理論や展開方法を講義で行った地域看護課題の内容について研究的視点と方法を用いて実践での具体的な展開方法を演習によって行い、研究と実践の相互関係的発展を促す進め方について基盤となる能力を修得する。</p> <p>そのために国内外の文献検討を踏まえ、地域看護活動の具体的な対象集団に対し、分野別の健康課題解決に向けて、研究的に取り組むための検討を行い考察を深める。同時に住民の健康水準向上のための問題解決策を住民が主体的に取り組むことができるよう、その支援方法についての研究を自立して行うことができるようになる。「地域看護学特論 D」の内容を基盤にして、地域看護活動を進めるために具体的な対象集団に対し、海外及び国内自治体等から公表されているデータと、地域看護活動や住民からの聞き取り等から得られるフィールドワークを分析し、健康課題解決のための要因を明らかにする。また、住民と健康課題を共有し、健康水準向上のための活動計画を立案することができる。本演習の過程から、学生が自己の研究課題についての探求する基盤を修得する。</p>
<p>授業内容</p> <p>地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向と我が国活動課題を明確化する。対象者別の集団・個別の健康の水準について先行研究をクリティックし、因果関係や健康阻害要因に関するデータ分析を行い住民の健康課題をレビューする。</p> <p>地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的变化について、信頼性と妥当性のある研究方法と評価の在り方を追究する。健康に影響する要因と因果関係や関連、健康阻害要因を明らかにする。実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因を明確にし、改善方法を見出す。健康水準の経年的変化と地域看護活動の実際について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。健康課題の解決の方向性を住民・地域組織、地域の専門職などと共有した上での解決策を見出し、根拠のある健康情報の開示・提供の有効な方法について検討、具体的に方策を提案する。個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を開発する。地域看護活動展開の評価研究について、学生の学修度と課題についてレポート発表と討論を行う。</p> <p>(全 30 回)</p> <p>(巽あさみ/4 回) 地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向を分析し、我が国の研究と実践課題を明確化する。</p> <p>(巽あさみ/10 回) 国内・外の地域看護活動の対象者別の集団・個別に健康の水準について先行研究をクリティックし、因果関係や健康阻害要因に関するデータ分析を行い住民の健康課題をレビューする。</p> <p>(巽あさみ/4 回) 地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的变化について、データの偏りを排除した解析を用いて、信頼性と妥当性のある研究方法と評価の在り方を追究する。健康実態把握と健康問題解決のための方法論をインタビューなどの質的研究及び社会的、疫学的な量的研究方法を追究し、健康に影響する要因と因果関係や関連、健康阻害要因を明らかにする。</p> <p>(巽あさみ/10 回) 実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因(課題)を明確にし、海外文献等も検討の上、改善方法を見出す。民の健康水準の経年的変化と地域看護活動の実際について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。健康課題の解決の方向性を住民・地域組織、地域の専門職などと共有した上での解決策を見出す。住民や関係者に根拠のある健康情報の開示・提供の有効な方法について検討、具体的に方策を提案する。健康課題に対する地域看護活動の方向性と地域の社会資源(関係機関、関係職種)を活用した個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を検討し開発する。</p> <p>(巽あさみ/2 回) まとめ。地域の人々の健康水準評価と地域看護活動展開の評価研究について、学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論を行う。</p>
<p>留意事項</p> <p>・授業に①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。共通科目 B(フィジカルアセスメント特論、臨床薬理学特論、病</p>

態生理学特論)の履修が望ましい。				
教材				
資料(書名、必要な文献など)は、その都度紹介する。				
授業計画 (15回)				
1-4. 地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向を分析し、我が国の研究と実践課題を明確化する。(異あさみ/4回)				
5-14. 国内・外の地域看護活動の対象者別の集団・個別(母子:3成人:3、高齢者:1、精神:1、難病:1、感染症・災害弱者:1)に健康の水準について先行研究をクリティークし、因果関係や健康阻害要因に関するデータ分析を行い住民の健康課題をレビューする。(異あさみ/10回)				
15-16. 地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的变化について、データの偏りを排除した解析を用いて、信頼性と妥当性のある研究方法と評価の在り方を追究する。(異あさみ/2回)				
17-18. 健康実態把握と健康問題解決のための方法論をインタビューなどの質的研究及び社会学的、疫学的な量的研究方法を追究し、健康に影響する要因と因果関係や関連、健康阻害要因を明らかにする。(異あさみ/2回)				
19-20. 実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因(課題)を明確にし、海外文献等も検討の上、改善方法を見出す。(異あさみ/2回)				
21-22. 住民の健康水準の経年的変化と地域看護活動の実際について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。(異あさみ/2回)				
23-24. 健康課題の解決の方向性を住民・地域組織、地域の専門職などと共有した上で解決策を見出す。住民や関係者に根拠のある健康情報の開示・提供の有効な方法について検討、具体的に方策を提案する。(異あさみ/2回)				
25-28. 健康課題に対する地域看護活動の方向性と地域の社会資源(関係機関、関係職種)を活用した個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を検討し開発する。(異あさみ/4回)				
29-30. まとめ。地域の人々の健康水準評価と地域看護活動展開の評価研究について、学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論を行う。(異あさみ/2回)				
評価基準				
1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30%				
教員別の配点は、授業の時間比率で算出する。				
A (100~80点): 到達目標に達している(Very Good)				
B (79~70点): 到達目標に達しているが不十分な点がある(Good)				
C (69~60点): 到達目標の最低限は満たしている(Pass)				
D (60点未満): 到達目標の最低限を満たしていない(Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 地域で生活する人々の健康上の課題を抽出することができる。				
2. 海外の先進・後進国のデータを我が国の健康水準と比較検討し、具体例を用いて実践的な評価ができる。				
3. 地域の人々や関係機関、関係職種に健康課題を解決するための必要性について説明でき、対象集団、関係機関等と課題解決に向けたシステム構築の説明ができる。				
4. 健康課題別に生活圏域において、適切なサービス計画やサービスシステムに取り組むことができる。				
5. 学修を自己の研究課題や研究計画書作成に反映させることができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DE4101	国際保健看護学特論D	1年/前期	2
担当教員		課程	
西川まり子、		博士後期	

授業計画詳細
授業目的
<p>世界のヘルスを担うトップの人々が注目している内容に焦点を合わせつつ、健康問題をグローバルに捉え、世界のそれぞれの地域、または地球規模で健康に影響を及ぼす諸問題をタイムリーに考える。その中で、健康問題発生の予防、改善・解決と実践の向上をめざす。そのために、健康ニーズの分析方法・ヘルスのメジャーメント・アウトカム測定法・ケアプログラム改善方法・相互関係の構築・ケアシステムの改善・構築方法を理解することができる力をつける。</p>
授業内容
<p>健康ニーズの分析方法・ヘルスのメジャーメント・アウトカム測定法・ケアプログラム解決方法・相互関係の構築・ケアシステムの改善・構築方法を教授し本科目全体を総括する。</p> <p>世界のヘルスを担うトップの人々が注目している内容に焦点を合わせつつ、健康問題をグローバルに捉え、世界のそれぞれの地域、または地球規模で健康に影響を及ぼす諸問題を考え、測定可能な研究デザインを策定する。</p> <p>その中で、討論を中心とまとめとして健康問題発生の予防、改善・解決と実践の向上をめざす。</p>
留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的に参加する 2. 授業の課題について事前に情報収集と必要に応じて分析を試みる 3. 授業の中で自己の研究計画と実践力強化に反映させる。
教材
教材は受講者のニーズに応じて適宜選択する。
授業計画（15回）
<p>以下の内容で授業展開を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 世界のヘルスを担うトップの人々が注目している内容を知る。健康問題をグローバルに捉え、世界のそれぞれの地域又は、地球規模で健康に影響を及ぼす諸問題を考える 2 健康ニーズの分析方法、ヘルスのメジャーメント 3 アウトカム測定法（基礎統計、多変量解析、ノンパラメトリック、ロジスティック解析など非正規分布の解析を含む） 4 ケアプログラム解決方法（理論的説明、実践例の紹介を含む） 5 相互関係の構築（複雑に絡み合った要因の理解） 6 ケアシステムの改善 7 ケアシステムの構築方法 8 健康ニーズ、地域データの収集とコンパクト GIS を用いた数値地図上での可視化（1） 9 健康ニーズ、地域データの収集とコンパクト GIS を用いた数値地図上での可視化（2） 10 アンケート、訴えなどテキストデータの分析 11 保健、疾病要因の解析 12 保健活動アウトカムの推測 13 疾病の地域拡散のシミュレーション 14 まとめと発表の準備 15 発表
評価基準

1. 討議への参加 40% 2. レポート 30% 3. 発表 30% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
世界のヘルスを担うトップの人々が注目している内容を理解できる				
健康問題をグローバルに捉えることができる				
世界のそれぞれの地域、または地球規模で健康に影響を及ぼす諸問題をタイムリーに考えることができる				
健康ニーズの分析方法・ヘルスのメジャーメント・アウトカム測定法が理解できる				
ケアプログラム改善方法・相互関係の構築・ケアシステムの改善・構築方法を理解することができる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DE4201	国際保健看護学演習D	1年/前期	2
担当教員		課程	
西川まり子		博士後期	

授業計画詳細
授業目的
<p>「国際保健看護学特論」を基盤にして、国際保健看護における研究を具体的に進めるための基盤となる内容を教授する。自己の研究に近い内容の既存の研究例をクリティカルに解説しその強さや弱さを見定める。さらに自己の研究をシュミレーションし、教材として研究の進め方を理解できるようにする。常にベンチとフィールドの調和を念頭に演習する。それらをまとめてレポート作成・発表を討論形式で進める。研究者として、基本的な倫理に基づいた真摯な態度でのレポート作成力・討論力を向上させる。これらによって学生が自己の研究課題について明確なリサーチクエスチョンと研究の独自性を持ち、研究デザインと進め方を探求する基礎となるようにする。</p>
授業内容
<p>学びをまとめてレポート作成・発表を討論形式で進める。研究者として、基本的な倫理に基づいた真摯な態度でのレポート作成力・討論力を向上させる。これらによって学生が自己の研究課題について明確なリサーチクエスチョンを持ち、研究デザインと進め方を探求する基礎となるようにする。本科目全体を総括する。</p> <p>「国際保健看護学特論」を基盤にして、国際保健看護における研究を具体的に進めるための基盤となる内容を学修する。自己の研究に近い内容の既存の研究例をクリティカルに解説しその強さや弱さを見定める。さらに自己の研究をシュミレーションし、教材として研究の進め方を理解できるようにする。常にベンチとフィールドの調和を念頭に演習する。研究の進行に合わせて指導を継続する。</p> <p>「国際保健看護学特論」を基盤にして、国際保健看護における研究を具体的に進めるための基盤となる内容を教授する。自己の研究に近い内容の既存の研究例をクリティカルに解説しその強さや弱さを見定める。</p> <p>学びをまとめてレポート作成・発表を討論形式で進める。研究者として、基本的な倫理に基づいた真摯な態度でのレポート作成力・討論力を向上させる。これらによって学生が自己の研究課題について明確なリサーチクエスチョンを持ち、研究デザインと進め方を探求する基礎となるようにする。本科目全体を総括する。</p> <p>さらに自己の研究をシュミレーションし、教材として研究の進め方を理解できるようにする。常にベンチとフィールドの調和を念頭に演習する。研究の進行に合わせて指導を継続する。</p>
留意事項
<p>修士レベルの看護学研究方法特論、国際保健看護学特論、疫学統計学Ⅰ、疫学統計学Ⅱあるいは同等の科目は履修済みであること。授業は、これらの科目で学習した方法を駆使しながら進める。</p>
教材
<p>教材は受講者のニーズに応じて適宜選択する。</p>
授業計画 (30回)
<p>1～2 授業の進め方の説明、学生によるリサーチ・クエスチョンの提示、研究の具体性、適切性、Credibility、実践における有用性の検討</p> <p>3～4 学生による研究デザインの提示と討議</p> <p>5～6 討議と学習課題（先行研究、文献、研究法）の提示</p> <p>7～8 討議と学習課題の提示（継続）</p> <p>9～17 自己の研究に近い内容の既存の研究例をクリティカルに解説と討議</p> <p>18～26 研究室とフィールドとの融合を考慮しながら、自己の研究のシュミレーションおよび研究に必要とする処理技術の習熟</p> <p>27～30 研究の進行に合わせて指導を継続する。</p>

評価基準				
1. 討議への参加とピア評価 40% 2. レポート 60% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 自己の研究に類似した世界的な研究論文をクリティカルに解読でき、その強さと弱さを分析できる。				
2. 自己の研究課題について明確なリサーチクエスチョンを持ち、その重要性を理論的に述べることができる。				
3. 研究室とフィールドの調和を考慮しながら、自己の研究のシミュレーションを描くことができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DE9101	広域看護学特別研究D I	1年/通年	2単位
担当教員		課程	
西川まり子 巽あさみ		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>目的は地域看護学、国際保健看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々の QOL の向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。最初の段階である課題を明確にすること、さらに研究目的、方法（対象と調査方法）を明確にし、介入研究、ケースコントロール研究、コホート研究などのよりエビデンス水準の高い研究計画や複雑な現象を、厳密性を確保した方法で読み解き、ケアの質向上に寄与できる研究計画について教授する。看護研究と実践の相互関係的発展を促進させる実践科学として学問的発展に貢献できる高度で活動的・創造的な自立した研究者・教育者をめざし、初年度は、研究計画書の作成をし、博士論文計画審査準備を行う。さらに、研究倫理審査委員会への提出を目指す。</p>
<p>授業内容</p> <p>明らかにしようとする課題を明確に定め、国内外の文献検討を行い、研究の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての概念枠組みを明確化（関心を持っている課題が、どのような要因、変数、過程にどのように関連しているのか）し、理論的・一般的な前提での仮説設定を行う。そのうえで、研究過程（対象者と調査方法、データ収集、データ分析、結果と考察）を概観し、研究計画を策定する。仮説を科学的に実証していくための厳格な調査・実験等の方法についてしっかりと学んで計画を立てること。また、研究過程でとらえた解釈の限界も十分に認識し考察しておく。研究計画書には研究タイトル、研究動機、研究背景、研究対象のとらえ方（研究枠組みなど）研究の意義（研究の新規性・独創性・看護における意義、社会的価値）、実施計画、必要経費、倫理的配慮について記載する。さらに研究デザインと具体的な研究方法の選択、研究方法の適切性・妥当性の検討、研究の対象、データ収集法・データ分析法・研究のプロセスにおける質管理方に法を含めて検討する。明らかにしたい看護の課題について①厳密な研究対象の選定や介入研究など精度の高い研究方法の選択を行うなど、より高いエビデンスを生み出すための方法を吟味して、研究計画書を作成する。</p> <p>グローバル化に伴う、世界的な健康問題や国境を超えて移動している人々、来日外国人の健康問題、健康課題の研究指導を行う。海外で実施する研究も含む。新興・再興感染症、グローバル化に伴う国際的な感染症の拡がりなど、感染症に対する看護職者の役割は益々重要となっている。ハンセン病やエイズに見るように、感染者、家族への差別が予防や医療の遅れを生み、また社会的な偏見や差別の対象となっている人々やコミュニケーションが不自由な来日外国人では対策が届きにくいなどの課題が生じている。一方で新型インフルエンザや SARS には迅速な対応が地域や医療の場面に求められており、今日の感染症には多面的な視点を持った研究が必要となっている。HIV などの感染症をテーマに、発生動向、疫学研究、感染リスクと予防対策、医療と看護などの先行研究を多面的な視点から総括し、地域や医療の場面で必要とされる課題について解明する研究を行う。研究デザインと具体的な研究方法の選択、研究方法の適切性と妥当性の検討、研究対象者、データ収集法・データ分析法・研究プロセスなどの研究計画書を作成する。</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な思考とレビューを作成すること。 2. レポートなどの提出物は期限を厳守のこと。 3. 授業および研究への積極的な取り組み、行動が求められる。
<p>教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は自己の研究課題に関連した国内外の文献をレビューすること。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を示す。

授業計画 (15回)

1～4 広域看護学分野の教員の参加のもと、研究課題の認識。
 5～8 自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討。研究テーマと目的を決定。
 9～13 概念枠組みの明確化と仮説の設定。
 14～19 研究対象と研究方法の設定（決研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法とデータ分析法を検討）。
 調査方法の選択（研究デザインの選択と研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討し決定）。
 研究の限界の検討（結果解釈の限界を明確にしておく）。
 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法を検討。
 20～22 研究計画書を作成。
 23～26 研究科委員会が開催する学生と教員の参加による「発表会」での発表・討論準備。
 27～28 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成。
 29～30 研究計画書を研究倫理審査委員会へ提出をめざす。

評価基準

科目の到達目標の到達度により評価
 A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
・研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
・適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
・研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
・研究プロセスにおける質管理方法を理解し活用できる				
・「研究計画発表会」に適切な準備の上で発表し、質疑に適切に対応できる。				
・看護実践の改善、変革または政策への提言のために新しい知見が得られる研究計画書作成できるように進める。				
・博士論文の計画審査の準備ができる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DE9201	広域看護学特別研究DⅡ	2年/通年	2単位
担当教員		課程	
西川まり子 巽あさみ		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

目的は地域看護学、国際保健看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々のQOLの向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。最初の段階である課題を明確にすること、さらに研究目的、方法（対象と調査方法）を明確にし、介入研究、ケースコントロール研究、コホート研究などのよりエビデンス水準の高い研究計画や複雑な現象を、厳密性を確保した方法で読み解き、ケアの質向上に寄与できる研究計画について教授する。倫理審査提出前に3名による審査合格、倫理審査提出、中間発表会Ⅰで発表をする。看護研究と実践の相互関係の発展を促進させる実践科学として学問的発展に貢献できる高度で活動的・創造的な自立した研究者・教育者をめざし、フィールドに出て対象者からデータの収集を行い、得られたデータを解析し、信頼性と妥当性を備えた結果解釈を行い、考察へと導く。さらに国際学会に発表をめざし、論文を学会誌に投稿するための準備ができる。

授業内容

特別研究DⅠで作成した研究計画書に従って、データの収集を行う。得られたデータの分析は質的データ・量的データにより異なる。量的データは記述統計を行い、その後目的を明らかにできる統計手法を用いて、分析し結果を整理する。結果から仮説の検証と解釈を行う。質的データは事実の記述・説明、具体例の提示、関係性の理論、理論の発見について、これまでなかった新知見を理論的な手段で整理しまとめる。

国際保健看護の研究で、グローバル化に伴う、世界的な健康問題や国境を超えて移動している人々、来日外国人の健康問題、健康課題の研究指導を行う。海外での調査研究。新興・再興感染症、グローバル化に伴う国際的な感染症の拡がりなど、感染症に対する看護職者の役割は益々重要となっている。HIVなどの感染症に関する先行研究を多面的な視点から総括し、地域や医療の場面で必要とされる課題を解明する研究について、研究計画審査、倫理審査委員会承認を得て、研究を開始する。研究の成果を副論文として学術誌への投稿を目指し研究を進める。

留意事項

研究の推進、データの収集・分析、データ分析、解釈、発表などに積極的に取り組む。

教材

適宜、必要に応じて示す。

授業計画（30回）

- 1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備
- 3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集
- 7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化
- 12-16 研究結果に基づいて、論文（副論文を含む）について適切な考察（結論を含む場合がある）を導き論理的にまとめ
- 17-20 研究目的から考察（結論を含む場合がある）までの論旨一貫性を検討
- 21-22 「発表会Ⅱ（博士論文中間）」において適切な準備の上で発表・討論
- 23-25 論文の発表会の意見・討論に基づいて論文の修正
- 26-27 研究成果を国内・国際学会において発表の準備
- 28-30 副論文を学術誌に投稿準備

評価基準

科目の到達目標の到達度により評価する

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
・ 研究計画に沿って精度を保つ方法でデータが収集できる。				
・ 適切なデータ分析方法によって研究結果の信頼性と妥当性を検討できる。				
・ 分析に基づいて研究目的から結果・考察を適切に導くことができる。				
・ 倫理審査提出前に 3 名による審査に合格できる				
・ 倫理審査申請書の提出ができる				
・ 博士論文中間発表会 I で発表し、質疑に適切に対応できる。				
・ 研究したものを国際学会において発表する準備ができる。				
・ 副論文を学術誌に投稿する準備を進めることができる。(3 月末までをめざす)				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DE9301	広域看護学特別研究DⅢ	3年/通年	2単位
担当教員		課程	
西川まり子 巽あさみ		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

地域看護学、国際保健看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々のQOLの向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。得られた結果を、十分に吟味し、期日までに博士論文をまとめて提出をめざす。中間発表会Ⅱ発表を行う。博士論文予備審査を受ける。副論文の掲載又は掲載証明を得る。国際学会発表できる。最終発表会発表をめざす。

授業内容

特別研究DⅢの目的は、特別研究DⅠと特別研究DⅡで行ってきた研究結果を用いて研究枠組みの検証を行い、一般化への提言をまとめ、原著論文の作成を行う。国内外の発表と、原著論文の投稿をする。

グローバル化に伴う、世界的な健康問題や国境を超えて移動している人々、来日外国人の健康問題、健康課題の研究指導を行う。新興・再興感染症、グローバル化に伴う国際的な感染症の拡がりなど、感染症に対する看護職者の役割は益々重要となっている。HIVなどの感染症に関する先行研究を多面的な視点から総括し、地域や医療の場面で必要とされる課題を解明する研究課題について、国際学会発表、副論文掲載、得られた研究成果の博士論文作成、提出を目指し研究を進める。

留意事項

科学的知見に基づいた論文作成を行う

教材

・教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。

授業計画 (30回)

1～10 特別研究DⅡの研究結果に基づいて、さらに研究結果を見直し適切な考察と結論を記述する
 11～14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討する。
 15～17 看護における研究の意義について再考し、論文としてまとめる。
 18～20 発表会Ⅲ（博士論文中間）において適切な準備の上で発表と討論を行う。
 21～22 中間発表した論文の意見・評価に基づいて修正する。
 23～25 論文最終発表会において適切な発表と質疑ができる。
 26～27 期日までに論文を完成させる。
 29～30 論文の審査において説明と質疑に適切に対応できる。

評価基準

科目の到達目標の到達度により評価する

A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 博士論文の作成に向けて研究を進めることができる。				
2. 学術集会への発表など研究成果を報告することができる。				
3. 研究成果として独創性・新規性・社会的価値について述べるすることができる。				
4. 独立した研究者としての能力を備え、幅広く深い知識を基盤としたさらなる研究を展開することができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DF2101	助産学特論 D	1年/前期	2
担当教員		課程	
杉下佳文		後期課程	

授業計画詳細
授業目的
助産学の研究者として、国内外において自立的に研究活動ができる人材の育成を目指し、助産学やその基となる学問領域および探求方法を学び、助産の実践における理論の役割や重要性について理解する。さらに女性のエンパワーメントを高める健康支援の課題を明確にし、それらの様々な課題に対してグローバルな研究的視点での助産ケアの方略を探求する。助産学的観点から周産期および思春期から更年期までの女性とその家族を対象に新しい理論構築を図ることを目的とする。
授業内容
助産周辺の様々な課題や性と生殖に関する健康課題や健康問題から、近年の動向について研究論文をもとに講述する。助産学における対象の理解や援助方法論では、助産学やその周辺の理論や活用法を講義しディスカッションする。院生は助産ケアの本質から論文をクリティカルに分析し、助産学として新しい理論構築の方法を学ぶ。
評価方法
課題についてプレゼンテーション 50%、討議・ディベート 50%
留意事項
助産学特別研究 DI と連動している。講義及び課題についてプレゼンテーションやレポート発表や、討議・ディベートを行うので、積極的に参加することを期待する。本科目の単位取得にあたり、30 時間の自己学習が必要である。
教材
適時、配布資料として紹介する。
授業計画(回)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護学に有用な概念と理論 2. 母性看護学に有用な概念と理論 3. 助産学における概念と理論 4. 助産学における概念と理論 5. 助産学に有用な概念と理論における課題 発表と討論 6. 助産学に有用な概念と理論における課題 発表と討論 7. 海外における助産ケアの文献検討 8. 海外における助産ケアの文献検討 9. 海外における助産ケアにおける課題 発表と討論 10. 海外における助産ケアにおける課題 発表と討論 11. 夫婦関係・家族関係における助産学的文献検討 12. 子育て支援における助産学的文献検討 13. 対象理解のためのアプローチ方法 14. 自己の課題発表と討論および評価 15. 自己の課題発表と討論および評価

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1.助産学に関する健康問題と健康課題の国内外の今日的動向を分析し、探究すべき課題の提示ができる。				
2.助産学に関する健康課題や健康問題への科学的アプローチの方法を説明できる。				
3.助産ケアについて研究的視点を持った実践方法を説明できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DF2201	助産学演習 D	1年/後期	2
担当教員		課程	
杉下佳文		後期課程	

授業計画詳細
授業目的
助産学の視座から生涯を通じた女性の健康支援の学問分野から知識に依拠し、ケアの本質を追究する方法と理論を学び、自己の関心課題を中心に、文献検討を通し研究的感性を培う。更に自己の研究課題を明確にできるよう課題についてクリティカルに分析し、討議する。女性の安寧を考慮した助産ケアシステム確立や理論構築を目的とする。
授業内容
助産学の文献の分析で助産介入モデルを検討し、自己の研究課題を明確にできるよう実践から女性の健康を考え、研究的に発展させる。国内外のシステマティックレビューおよび文献検討と概念分析を行う。また、今日的動向を取り上げ講述しながら、Well-being の維持や各健康問題への援助方法についてエビデンスを基にその活用法を講義し討議する。研究計画発表会（D1）における発表を行う。
評価方法
助産学および母性看護理論や今日的課題や動向を中心に進める。講義及び課題についてプレゼンテーションやレポート発表や、討議・ディベートを行うので、積極的に参加することが必要である。
留意事項
講義と課題学習に毎回参加して、討議やプレゼンテーションを積極的に行うことを求める。また、学会参加および発表、可能な範囲で地域へ出向き演習として体験学習を期待する。講義の必携テキストは多く提示されているが、文献に親しみ読破することを望む。
教材
1.適宜配布
授業計画(回)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究課題分析 2. 自己の研究課題分析 3. 助産師主導のケアの根拠分析 4. 助産師主導のケアの根拠分析 5. 助産ケア介入プログラムの分析 6. 助産ケア介入プログラムの分析 7. 文献クリティーク 8. 文献クリティーク 9. 文献クリティーク 10. 文献リスト作成 11. 研究 MAP・概念図作成 12. 研究 MAP・概念図作成 13. 自己の研究課題分析 14. 自己の研究課題分析 15. 研究課題の発表
評価基準
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 自己の研究課題をクリティカルな視点で分析することができる。				
2. 助産ケアの根拠についてまとめることができる。				
3. 助産ケア介入についてまとめることができる。				
4. システマティックレビューおよび文献検討をまとめることができる。				
5. 研究概念図および研究 MAP を完成することができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DF9101	助産学特別研究 D I	1年/通年	2
担当教員		課程	
杉下佳文		博士課程後期	

授業計画詳細
授業目的
<p>本科目の目的は、助産学の質保証をめざし、助産活動の改善・改革のための先進的な課題で研究に取り組むことを目的としている。グローバルな視点の研究による専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や教育者になるために特別研究 D I では適切で実行可能な研究計画書を作成する。さらに、研究倫理審査委員会への提出を目指す。</p>
授業内容
<p>本授業内容は、助産学の質保証を重視して専門性の高い助産ケアを行うための科学的な知見を明らかにしていく。事象の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化して助産実践に有用な研究を行う。助産の改善・改革のために教育プログラムの開発、教育介入研究、教育システムの構築、臨床現場での助産管理実践やヘルスケアシステムの改善などについて展開し研究のプロセスを理解し、研究計画書を作成する。研究計画書には研究タイトル、研究動機、研究背景、研究対象、研究枠組みなど、研究の意義（研究の新規性・独創性・看護における意義、社会的価値）、研究デザイン、データ収集法、分析方法、研究の精度を保つ質管理方法、倫理的配慮などを加え、研究計画書を完成する。</p>
留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。
教材
<ul style="list-style-type: none"> ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。
授業計画 (30回)
<p>1-5回：自己の研究の社会的背景、研究の動機について分析する。 6-10回：研究課題と研究手法の代表的文献クリティーク 11-15回：研究テーマと目的を決定：自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。 16-20回：研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討 21-22回：研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択 23-24回：データ分析法の選択 25-27回：研究計画書を作成 28-29回：研究計画発表会」の準備 30回：発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成</p>
評価基準
<p>科目の到達目標の到達度により評価</p> <ul style="list-style-type: none"> A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を明確にし、研究テーマと目的を決定できる				
2. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
3. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析方法を決定できる				
4. 発表に適切な準備の上で「研究計画発表会」で発表し、質疑に適切に対応できる				
5. 新しい知見が得られる研究計画書を作成できる				
6. 博士論文の計画審査の準備ができる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DF9202	助産学特別研究DII	2年/通年	2
担当教員		課程	
杉下佳文		博士後期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
<p>特別研究Ⅱでは、特別研究DⅠで示した各自が設定した研究計画に沿って、新規性や独自性の高い実践的研究を実行する。グローバルな研究的視点をもって解決する研究能力を育成する。研究計画書の第1研究を基に副論文を作成する。さらに、国際学会に発表し、副論文を学術学会誌に投稿するための準備ができることを目的としている。</p>				
授業内容				
<p>本授業内容は、特別研究DⅠで各自が設定した研究計画に沿って研究を進める。研究データの収集、データの分析、精度の高い結果を導き、その解釈、妥当性を検討、十分な文献による考察、結論を導く。「中間発表会Ⅰ」で評価を得て論文を修正、論文の全体的な計画を実行しながら論文を完成する。</p> <p>具体的には助産学に関して、海外文献を抄読し、国内文献クリティークから文献レビューして知見をひろげ、倫理的問題や心理的ケア、ケアシステム研究に着目した授業展開である。</p>				
留意事項				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献などから情報収集を行い、文献レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。 				
教材				
<ul style="list-style-type: none"> ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。 				
授業計画（30回）				
<p>研究プロセスにおけるレポート作成・発表・討論を継続し、研究を進める。</p> <p>1-5回：研究計画の審査を経て、研究倫理審査承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備</p> <p>6-10回：研究の精度を保つ方法でデータを収集</p> <p>11-20回：効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化</p> <p>21-25回：研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめる</p> <p>26-27回：研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討</p> <p>28回：「中間発表会Ⅰ」において適切な準備の上で発表・討論</p> <p>29回：論文の発表会の評価に基づいて論文の修正</p> <p>30回：論文を学術誌に投稿する準備</p>				
評価基準				
<p>研究の推進、データの収集・分析、データ分析内容に即した論文の作成、学会発表、学内中間発表の発表内容の精度、内容、評価</p> <p>A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)</p> <p>B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>				
到達目標	A	B	C	D
1. 博士論文研究計画書審査に合格することができる。				

2. 研究倫理審査申請書の提出ができる。				
3. 研究計画に沿って精度を保つ方法でデータが収集できる。				
4. 適切なデータ分析方法によって研究結果の信頼性と妥当性を検討できる。				
5. 分析に基づいて研究目的から結果・考察を適切に導くことができる。				
6. 博士論文中間発表会 I で発表し、質疑に適切に対応できる。				
7. 国際学会等において発表する準備ができる。				
8. 副論文の学術誌投稿を目指して研究を進めることができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DF9303	助産学特別研究 DⅢ	3年/通年	2
担当教員		課程	
杉下佳文		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

特別研究DⅢは、助産学の質保証をめざし、助産活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組み、博士論文としてまとめることを目的としている。国内外で研究を広げ革新的な助産ケアプログラムやケアシステムの開発、助産理論の構築などを行う。またグローバルな視点による研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や教育者になることを目指す。独創性があり先駆的であり、社会的価値の高い博士論文としてまとめる。

授業内容

特別研究DⅡの研究経過に基づいて、研究結果をまとめ、適切な考察と結論を導き論文をまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、博士（助産学）論文発表会後、論文の修正をし、学会誌に投稿する。具体的には、臨床研究のケア評価などから、科学的なエビデンスに基づき助産を取り巻く課題や関連する施策の改善に寄与し、研究結果から、汎用可能で、かつ、教育的にも有用な研究成果を期待できるようにする。そして研究結果から、理論を用いた検証方法を学ぶことで、さらに自己の研究を深められるようにする。

留意事項

1. 論理的・分析的思考に基づいた論文作成を行うことに留意する。
2. 期日までに論文を仕上げる

教材

- ・自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。
- ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。

授業計画（30回）

- 1-6 特別研究DⅡの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述
7-14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討
15-16 「中間発表会Ⅱ」において適切な準備の上で発表・討論
17-20 発表した論文の評価に基づいて修正
21-30 博士論文としてまとめ、「最終発表会」で発表

評価基準

独創性があり先駆的な原著論文を作成する。

A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 博士論文の作成に向けて研究を進めることができる。				
2. 学術集会への発表など研究成果を報告することができる。				
3. 研究成果として独創性・新規性・社会的価値について述べるができる。				

4. 独立した研究者としての能力を備え、幅広く深い知識を基盤としたさらなる研究を展開することができる。

--	--	--	--

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DG2101	生涯発達看護学特論 D	1年/前期	2
担当教員		課程	
深谷久子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的
人間の生涯発達に関する諸理論の変遷を概観し、重要と考えられる理論の分析、関連領域の研究のクリティークを行い、生涯発達看護学領域における研究の動向と課題、および変化する社会への役割を追究し、新たな生涯発達看護学の方向性を探究する。
授業内容
人間の生涯発達に関わる諸要因、ケアの課題、ケアシステムのあり方など、生涯看護学領域の課題を明らかにし、生涯発達看護学におけるあらゆる側面からヘルスケアシステムの構築、技術開発、健康問題解決などに向けた研究方法が理解できる。また、グローバルで学際的な視点をもち国内外の生涯発達看護学に関する保健・医療・福祉分野の諸問題や、世界の動きに注目し、国際的な看護関係学会の知見をとおして関連領域の研究成果を深め、研究の進め方の概要を理解する。
1. 生涯発達に関する概念／理論の探究
2. 関連領域の保健政策と医療・看護の現状、および対象とその家族へのケアシステム体制と看護の専門性の検討
3. 対象の課題解決とケアの質的向上に向けた理論的背景の理解、課題達成のための分析方法、アウトカム測定方法、ケアプログラムの開発、システム構築の方法の概観
4. 1) 生涯発達看護学領域の研究のクリティーク、関心ある現象に対する研究デザインの選択
2) 国際学会の知見や関連領域の研究成果の検討
3) 研究課題の明確化
留意事項
各課題のレポート作成、発表、討論への参加、自己の研究課題解決に向けた関連図書および学術研究報告書などの文献的考察などを行う。
教材
必要に応じて文献、論文などは、その都度提示する。
授業計画 (15回)
1-2 人間の生涯発達に関する諸理論について看護への適用と研究上の課題
3-5 小児看護学領域の保健政策と医療・看護の現状、および対象とその家族へのケアシステム体制と看護の専門性の検討
6-9 対象の課題解決とケアの質的向上に向けた理論的背景の理解、課題達成のための分析方法、アウトカム測定方法、ケアプログラムの開発、システム構築の方法について理解する(倉田節子・河野保子)
10-15 生涯発達看護学領域の研究のクリティーク、関心ある現象に対する研究デザインの選択
国際的な視野を踏まえた関連学会の知見や関連領域の研究成果の検討を行う
研究課題の明確化
対象の健康に関わる諸要因、ケアの課題、ケアシステムのあり方などの課題が明らかにできる。
評価基準
問題・課題の発見、専門書および論文の選択と内容の理解、討論・プレゼンテーション内容、レポート内容などから総合的に評価する。

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 生涯発達看護学領域における保健・医療政策と現状について、論じることができる。				
2. 生涯発達を遂げる対象への看護の諸問題、対象とその家族へのケアシステムと看護の専門性の検討ができる。				
3. 生涯発達の視点からヘルスケアシステムの構築、技術開発、健康問題解決等に向けた研究の方法が理解できる。				
4. 生涯発達を遂げる対象の健康に関わる諸要因、ケアの課題、ケアシステムのあり方など、生涯発達看護学領域の課題を明らかにし、検討できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DG2201	生涯発達看護学演習 D	1年/通年	2
担当教員		課程	
深谷久子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的
生涯発達を遂げる対象への新たな介入の創造と開発を目標に、他学問分野の方法論をも加味して関連領域研究のクリティークを行う。対象のQOLの向上やセルフケアの向上、ケアシステムの質的向上を目指し、顕在的・潜在的な健康課題や問題解決のために必要な看護学理論や方法論・技法の開発に繋げることをねらいとする。
授業内容
理論の構築、看護方法論の開発ができる能力を培うように、生涯発達看護領域の学問的・社会的・国際的な研究に関してさらに演習で深める。生涯発達を遂げる対象への新たな介入の創造と開発を目標に、他学問分野の方法論をも加味して関連領域研究のクリティークを行う。対象のQOLの向上やセルフケアの向上、ケアシステムの質的向上をめざし、顕在的・潜在的な健康課題や問題解決のために必要な看護学理論や方法論・技法の開発に繋げることをねらいとする。世界的な健康問題と対策などの広い視野をもち、生涯発達看護学における研究課題について、文献レビュー、課題の明確化、研究方法に関する演習を行い、研究課題の探求・進め方の基盤となるようにする。
1. 関連領域の研究の国内外の文献検討後、諸問題と将来展望を考察。生涯発達看護学における今日的課題に関連する文献の検索とクリティーク、および新規性のある研究課題の検討、方法論の選択。(16回)
2. 既存文献の検討から新規性のある研究課題と方法論の整理・決定、妥当性の理論的説明、研究計画書の草案作成、フィールドワーク。(7回)
3. 研究課題の方法論とその実現可能性の検討、倫理的な妥当性をふまえた研究計画書の作成、生涯発達看護学領域における研究課題の重要性・新規性・学術的意義の明確化。(7回)
留意事項
各課題のレポート作成、発表、討論への参加、研究課題の関連図書及び学術研究報告書などの文献的考察などを行う。
教材
必要に応じて文献、論文などは、その都度提示する。
授業計画 (30回)
1-16 生涯発達看護学に関する研究の国内外の文献検討後、諸問題や国際活動の将来展望を考察する。 次に、生涯発達看護学領域における今日的問題を踏まえ、必要な看護学理論や方法論・技法の追求・構築のための研究課題、および学生の志向する課題に関連する文献の検索とクリティークを行う中から、新規性のある研究課題を検討し、方法論の選択を行う。特に、健康に関わる諸要因、ケアの課題、ヘルスケアシステムの構築、知識・技術開発、健康問題解決等に向けた研究は実証的に探究、クリティークを行う。
17-23 既存文献の検討から新規性のある研究課題と方法を決定する。研究課題と方法論を整理し、妥当性を理論的に説明する。研究計画書の草案を作成する。本研究課題の概念／理論の探究・分析・展開などについてフィールド演習を行う。
24-30 研究課題を決定し、方法論とその実現可能性を検討し、倫理的な妥当性を踏まえて研究計画書の作成を行う。生涯発達看護学領域における本研究課題の重要性・新規性を明確にする。
評価基準
文献レビュー、課題の明確化、研究方法の内容、討論・プレゼンテーション内容、レポート内容等から総合的に評価する。

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 関心のあるテーマについての文献検討から、課題を明確にできる。				
2. 文献検討の発表・討議を通して、対象への支援のための方法論を追究できる。				
3. 文献検討で得られた示唆を基に、対象と社会に寄与することのできる知見や技術を探究し、看護実践モデルや生涯発達を遂げる対象への看護の質を向上させる研究への適用について考究できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DG2101	エンド・オブ・ライフケア看護学特論D	1年/前期	2
担当教員		課程	
加藤亜妃子		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本学の博士課程が目指す看護人材像（教育目的）は、グローバルな視点を持って学問的発展に貢献できる活動的創造的で自立した研究者と教育者の育成である。そのため、エンド・オブ・ライフケア看護学では、海外の終末期ケア学研究やがん看護学研究で生成された理論・概念・モデルを基盤に、わが国の社会文化を反映したエンド・オブ・ライフケア看護学を探究する。さらに終末期におけるがん・非がんのあらゆる対象者の心身ニーズの対応、家族支援を含めた終末期患者のQOL・QODDを高めることに貢献できる研究力を育成する。</p> <p>そこで、エンド・オブ・ライフケア看護学特論Dでは、エンド・オブ・ライフケアと研究において必要とされる国内外の制度、ケアシステム、研究動向を理解し、わが国の課題を分析する。アセスメントや評価を中心に、エンド・オブ・ライフケアの改善・改革のために、実践的研究からエビデンスを分析し、新たな知識や理論の構築のプロセスを理解する。さらに、本特論Dでは、看護学周辺の学問領域で得られた知見と海外のエンド・オブ・ライフケアの質評価に関する研究文献を基盤に、エンド・オブ・ライフケアの専門的機能、ケアシステムやその評価方法、ケアの質管理方法を修得することによって、各自の研究課題に反映させる。</p>
<p>授業内容</p> <p>授業はオムニバス方式で、狭義のがん看護領域のエンド・オブ・ライフケアだけでなく、在宅看護、老年看護、小児看護などにおけるエンド・オブ・ライフケアであり、また病棟・ホスピス・施設・在宅などのさまざまな生活環境からのエンド・オブ・ライフケアと広義にとらえて展開する。</p> <p>授業内容には、1) 諸外国におけるエンド・オブ・ライフケア制度、ケアシステムの実態と研究の動向から分析したわが国の課題、2) エンドオブライフ患者と家族の生活環境のアセスメントとケア評価、3) エンドオブライフ患者と家族のDying Careと看取りケアにおける諸外国との比較、4) Total Painの測定尺度の開発と緩和ケアに対するエンド・オブ・ライフケア評価、5) Death & Dying Care, Spiritual Care, Grief & Mourning careなどのケアリングに関与する諸要因、6) エンドオブライフ患者と家族のケア介入研究とケアシステムの開発、7) エンドオブライフ患者と家族のケアシステムとその評価方法などを含む。</p> <p>（加藤亜妃子／全15回）</p> <p>（4回）</p> <p>エンドオブライフ患者と家族のエンド・オブ・ライフケアにおける諸外国との比較、Death & Dying Care, Spiritual Care, Grief & Mourning careなどのケアリングに関与する諸要因</p> <p>（2回）</p> <p>エンドオブライフ患者と家族のケアシステムとその評価方法</p> <p>（2回）</p> <p>エンドオブライフ患者へのケア介入研究とケアシステム開発</p> <p>（2回）</p> <p>諸外国におけるエンド・オブ・ライフケア制度、ケアシステムの実態と研究の動向から分析したわが国の課題</p> <p>（2回）</p> <p>エンド・オブ・ライフケア患者と家族の生活環境のアセスメントとケア評価</p> <p>（2回）</p> <p>Total Painの測定尺度の開発と緩和ケアに対するエンド・オブ・ライフケア評価</p>

<p>(1回)</p> <p>まとめ</p> <p>エンド・オブ・ライフケア看護学特論Dで修得した内容と各自の研究課題に関連づけた討議とレポートの提出</p>
<p>留意事項</p> <p>1. 授業に積極的参加を期待する。</p> <p>2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。</p> <p>3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。</p> <p>なお、本科目の単位習得には、授業時間以外に文献研究、発表準備等、およそ授業時間の2倍程度の自己学習を要します。</p>
<p>教材</p> <p>必要に応じてその都度、提示配布する。</p> <p>教科書</p> <p>1. 小笠原知枝編 (2018) 「エンド・オブ・ライフケア看護学 - 基礎と実践 - 」ニューヴェルヒロカワ出版</p> <p>参考図書</p> <p>1. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編 (2006) 「看護理論 理論と実践のリンケージ」ニューヴェルヒロカワ出版</p> <p>2. 小笠原知枝・松木光子編 (2012) これからの看護研究 基礎と応用 第3版、ニューヴェルヒロカワ出版</p> <p>3. 小笠原知枝・久米弥寿子 (2000) ターミナル期にあるがん患者の痛み管理とサポートケアを妨害する諸因子の抽出とその対策 (日米比較研究を含む) 平成9～11年度科学研究費補助金報告書</p> <p>4. C. Ogasawara, Y. Kume and M. Andouh (2003) Family Satisfaction with Perception of and Barriers to Terminal Care in Japan, Oncology Nursing Forum 30(5) : E100-105.</p> <p>5. 島内節、内田陽子 (2014) 「在宅におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人の人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房</p> <p>6. 内田陽子、島内節編 (2014) 「施設におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人に人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房</p> <p>7. 島内節、葉袋淳子 (2008) 「在宅エンド・オブ・ライフケア利用者アウトカムと専門職の実践力を高めるケアプログラムの応用」イニシア?</p> <p>8. 島内節、友安直子、内田陽子 (2002) 「在宅ケアーアウトカム評価と質改善の方法」医学書院</p>
<p>授業計画 (15回)</p> <p>1-2 諸外国におけるエンド・オブ・ライフケア制度、ケアシステムの実態と研究の動向から分析したわが国の課題 (2回)</p> <p>以下3 - 14回では、下記のテーマに関する実践的研究から新たな知識や理論の構築のプロセスについて理解する。</p> <p>3-4 エンド・オブ・ライフケア患者と家族の生活環境のアセスメントとケア評価 (2回)</p> <p>5-6 エンドオブライフ患者と家族のエンド・オブ・ライフケアにおける諸外国との比較 (2回)</p> <p>7-8 Total Painの測定尺度の開発と緩和ケアに対するエンド・オブ・ライフケア評価 (2回)</p> <p>9-10 Death & Dying Care, Spiritual Care, Grief & Mourning careなどのケアリングに関与する諸要因 (2回)</p> <p>11-12 エンドオブライフ患者へのケア介入研究とケアシステム開発 (2回)</p> <p>13-14 エンドオブライフ患者と家族のケアシステムとその評価方法 (2回)</p> <p>15 まとめ</p> <p>エンド・オブ・ライフケア看護学特論Dで修得した内容と各自の研究課題に関連づけた討議とレポートの</p>

提出				
(1回)				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. エンド・オブ・ライフケア看護学領域における主要な概念構造や理論について説明することができる。				
2. エンド・オブ・ライフケアに関する看護理論の生成過程と、看護研究と実践との関連性について説明できる。				
3. 海外におけるエンド・オブ・ライフケアにおける緩和ケアの実践と評価方法を理解し、わが国での活用の可能性を検討できる。				
4. 終末期患者と家族のニーズと支援の実態および研究例を分析することができる。				
5. エンド・オブ・ライフケアの評価指標の開発とケアシステムのモデル開発例を分析し、クリティークすることができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DG4201	エンド・オブ・ライフケア看護学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
加藤亜妃子		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本学の博士課程が目指す看護人材像（教育目的）は、グローバルな視点を持って学問的発展に貢献できる活動的創造的で自立した研究者と教育者の育成である。そのため、海外の終末期ケア学研究とがん看護学研究に基づく生成された理論・概念・モデルを探求する。さらに終末期におけるがん・非がんのあらゆる対象者の心身のニーズの対応、家族支援を含めた終末期患者のQOL・QODDを高めるケアリングのための研究力、教育力を促す。</p> <p>本演習Dでは、さまざまな学問領域の研究成果を参考文献にして、ケアの質管理方法を明確にしなが、がん患者の緩和ケアのチームケアとこうか評価方法、スピリチュアルケア、在宅エンドオブライフの経過時期別ニーズの変化、介入研究とその評価方法、教育実践プログラムと有効性検証などについてシステムティック・レビューや概念分析を行う。また実践例でのケア展開と文献検討を行って、看護研究と実践との相互発展を促進する研究の進め方を理解し、自己の研究プロセス（テーマ設定・研究計画・研究実施・論文作成）に反映させる。</p>
<p>授業内容</p> <p>本演習では、以下の内容を扱うものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システムティック・レビューと概念分析に関する基礎理解をする。 <ul style="list-style-type: none"> 国内外のエンド・オブ・ライフケア研究の理論生成過程の分析や介入研究について、システムティック・レビューをして、クリティークと研究テーマの概念分析をするために、以下を理解するものとする。 2. がん患者の症状緩和ケア介入プログラムの開発と効果評価に関するシステムティック・レビューと概念分析 3. Total PainやQOD測定尺度開発に関するシステムティック・レビューと概念分析 4. エンドオブライフ患者とその家族のDying Careと看取ケアを効果的に行うためのエキスパートナーズに対する教育介入プログラムの開発とその評価研究に関するシステムティック・レビューと概念分析 5. スピリチュアルケアの日米比較研究に関するシステムティック・レビューと概念分析 6. 在宅エンドオブライフの経過時期別ニーズの変化とケアパス開発とその有効性検証に関するシステムティック・レビューと概念分析 <p>（加藤亜妃子／全30回）</p> <p>（9回）</p> <p>システムティック・レビューと概念分析方法の修得、Total Pain・QOL・QODD、EOLC・スピリチュアルケアなどの概念分析と測定尺度の開発、エンド・オブ・ライフケアの実践教育プログラムの開発とその有効性検証</p> <p>（4回）</p> <p>在宅エンドオブライフの経過時期別ニーズの変化とケアパス開発によるケア評価方法</p> <p>（3回）</p> <p>がん患者の家族のグリーフケアと効果評価研究</p> <p>（4回）</p> <p>がん患者の症状緩和ケア介入プログラムの開発とその効果評価方法</p> <p>（4回）</p> <p>エンドオブライフ患者とその家族のDying Careと看取ケアを効果的に行うためのエキスパートナーズに対する教育介入プログラムの開発とその評価研究</p> <p>（2回）</p>

まとめ：学生のレポート発表と討論「看護の開発的研究と実践の相互的發展を促す研究の進め方」
留意事項
<p>1. 授業に積極的参加を期待する。</p> <p>2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。</p> <p>3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。</p> <p>なお、本科目の単位習得には、授業時間以外に文献研究、発表準備等、およそ授業時間の2倍程度の自己学習を要します。</p>
教材
<p>必要に応じてその都度、提示配布する。</p> <p>教科書</p> <p>1. 小笠原知枝編（2018）「エンド・オブ・ライフケア看護学 - 基礎と実践 - 」ニューヴェルヒロカワ出版</p> <p>参考図書</p> <p>1. 小笠原知枝・松木光子編（2012）「これからの看護研究 基礎と応用 第3版」ニューヴェルヒロカワ出版</p> <p>2. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編（2006）「看護理論 理論と実践のリンケージ」ニューヴェルヒロカワ出版</p> <p>3. 小笠原知枝・久米弥寿子編（2000）日本における末期乳がん患者の看護診断と看護介入：異なる入院目的による比較 Journal of Nursing Terminologies and Classification 16（3～4）：54～64</p> <p>4. 島内節・内田陽子（2014）「在宅におけるエンド・オブ・ライフケア実践書－死を迎える人の人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房</p> <p>5. 内田陽子・島内節編（2014）「施設におけるエンド・オブ・ライフケア実践書－死を迎える人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房</p> <p>6. 島内節・薬袋淳子（2008）「在宅エンド・オブ・ライフケア利用者アウトカムと専門職の実践力を高めるケアプログラムの応用」イニシア</p> <p>7. 島内節・友安直子・内田陽子（2002）「在宅ケアアアウトカム評価と質改善の方法」医学書院</p>
授業計画（15回）
<p>授業は講義・演習・討議形式によって展開する。</p> <p>システムティック・レビューと概念分析について理解をした上で、下記のテーマに関連して、システムティック・レビューを行う。ケアシステムや効果評価研究を比較検討しながら進める。</p> <p>1-2 システムティック・レビューと概念分析方法の修得（2回）</p> <p>3-5 Total Pain・QOL・QODD、EOLC・スピリチュアルケアなどの概念分析と測定尺度の開発（3回）</p> <p>6-9 がん患者の症状緩和ケア介入プログラムの開発とその効果評価方法（4回）</p> <p>10-13 エンドオブライフ患者とその家族のDying Careと看取ケアを効果的に行うためのエキスパートナースに対する教育介入プログラムの開発とその評価研究（4回）</p> <p>14-16 がん患者の家族のグリーフケアと効果評価研究（3回）</p> <p>17-20 エンド・オブ・ライフケア看護における介入研究とその効果評価研究（4回）</p> <p>21-24 在宅エンドオブライフの経過時期別ニーズの変化とケアパス開発によるケア評価方法（4回）</p> <p>25-28 エンド・オブ・ライフケアの実践教育プログラムの開発とその有効性検証（4回）</p> <p>29-30 まとめ：学生のレポート発表と討論「看護の開発的研究と実践の相互的發展を促す研究の進め方」（2回）</p>
評価基準
<p>1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%</p> <p>A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)</p> <p>B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>

到達目標	A	B	C	D
1. システマティック・レビューの方法について理解できる。				
2. がん患者の緩和ケアにおけるチームケアおよびその効果評価方法を理解し、具体的な活用を検討できる。				
3. グリーフケア研究事例について分析し、ケア効果を評価し課題について検討できる。				
4. 在宅エンドオブライフの経過時期別ニーズの変化によるケア評価方法について、事例を分析し検討できる。				
5. エンド・オブ・ライフケアの実践教育プログラムの開発過程を理解し、とその有効性検証の方法について検討できる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DG9101	実践看護学特別研究 D I	1年/通年	2
担当教員		課程	
河野保子 三並めぐる		博士課程後期	

授業計画詳細
授業目的
<p>本科目の目的は、生涯発達看護学とエンド・オブ・ライフケア看護学の領域を実践看護学分野として、生涯発達看護とエンド・オブ・ライフケア看護の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。実践看護学分野の研究において広い視野が持てるように、グローバルな視点の研究による専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために特別研究 D I では適切で実行可能な研究計画書を作成する。さらに、研究倫理審査委員会への提出をめざす。</p>
授業内容
<p>本授業内容は、生涯発達看護とエンド・オブ・ライフケア看護の質保証を重視して専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていく。看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化して看護の実践に有用な研究を行う。そのため看護の改善・改革のために教育プログラムの開発、教育介入研究、教育システムの構築、臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善などについて展開し研究のプロセスを理解し、研究計画書を作成する。研究計画書には研究タイトル、研究動機、研究背景、研究対象、研究枠組みなど、研究の意義（研究の新規性・独創性・看護における意義、社会的価値）、研究デザイン、データ収集法、分析方法、研究の精度を保つ質管理方法、倫理的配慮などを加え、研究計画書を完成する。</p> <p>【担当教員の指導目的・指導の焦点・指導方法・研究テーマ】 （河野保子）</p> <p>生涯発達看護学の中における高齢者看護に関して、高齢者とその家族に対する看護の質保証のために、科学的根拠に基づく専門性の高い看護実践を導き出すことのできる課題を設定する。また超高齢社会における高齢者の QOL について、地域包括ケアシステムやケアとの関連性で課題を設定し、研究テーマを追究する。研究手法として調査研究、実験研究、質的研究などを用い、研究計画書を作成するまでの研究プロセスを展開する。特にリサーチクエスチョン（研究の問い）・研究枠組みに対して指導を行う。高齢者看護の改善・改革のために、看護介入のエビデンスの明確化、実践・支援プログラムの開発等、新しい知見をえるために研究指導を行う。</p> <p>（三並めぐる）</p> <p>発達段階にある小児のヘルスプロモーション活動とその教育に関わる小児看護師または養護教諭の役割、養護教諭の救急対応実践能力、小児の不慮の事故の防止、子どもの看護ケアや家族への支援、健康に課題のある患児のきょうだい支援、重症心身障がい児の家族の支援、健康に課題のある小児と家族が抱える課題など、学生自身が興味関心のある分野の研究を探求し、対象者の健康増進、生活の質保証となるような支援方法や実践プログラムの開発を目指す研究とする。</p>
留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。
教材
<ul style="list-style-type: none"> ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。
授業計画（30回）

1-5 共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて講義演習を行う。				
6-11 研究テーマと目的を決定：自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。				
12-14 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討				
15-16 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択				
17-19 データ分析法の選択				
20-21 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法				
22-26 研究計画書を作成				
27-28 「研究計画発表会」の準備				
29-30 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価				
A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 学術誌での原著論文の水準を確認できる				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を明確にし、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析方法を決定できる				
5. 研究プロセスにおける質管理方法を理解し活用できる				
6. 発表に適切な準備の上で「研究計画発表会」で発表し、質疑に適切に対応できる				
7. 看護実践の改善、変革への提言のために新しい知見が得られる研究計画書を作成できるように進める。				
8. 博士論文の計画審査の準備ができる				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DG9202	実践看護学特別研究DⅡ	2年/通年	2
担当教員		課程	
河野保子 三並めぐる		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本研究では、生涯発達看護学とエンド・オブ・ライフケア看護学の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む生涯発達看護学とエンド・オブ・ライフケア看護学の領域を実践看護学分野としている。その2つの領域での分野は国内外で研究を広げ革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発などを行う。またグローバルな研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために、特別研究DⅡでは、特別研究DⅠで示した研究領域の選択内での各自が設定した研究計画に沿って研究を実行しながら論文作成をめざす。さらに、国際学会に発表し、論文を学術学会誌に投稿するための準備ができる。</p>
<p>授業内容</p> <p>本授業内容は、特別研究DⅠで示した研究領域の選択内での各自が設定した研究計画に沿って研究を進める。研究データの収集、データの分析、精度の高い結果を導き、その解釈、妥当性を検討、十分な文献による考察、結論を導く準備ができる。「中間発表会」で評価を得て論文を修正、論文の全体的な計画を実行しながら論文作成をめざす。</p> <p>【担当教員の指導目的・指導の焦点・指導方法・研究テーマ】 (河野保子)</p> <p>生涯発達看護学の中における高齢者看護に関して、実践看護学特別研究DⅠで作成した研究計画書に基づき研究を遂行する。中間発表会までにはリサーチクエスションのいくつかを論文として記述し、既存の文献との比較において考察・結論を導き出す。特にデータ収集は倫理的に行うこと、収集したデータの集計はコーディング表や概念抽出に関するモデル図等を作成し分析可能なデータに転換すること、研究結果の信頼性・妥当性を検討すること、リサーチクエスションや研究枠組みの適切性、論理展開の一貫性などについて研究指導を行う。高齢者看護の改善・改革のために、看護現場に活用できる支援方法や看護介入、支援モデルの開発など、新しい知見を得るために研究指導を行う。</p> <p>(三並めぐる)</p> <p>発達段階にある小児のヘルスプロモーション活動とその教育に関わる小児看護師または養護教諭の役割、養護教諭の救急対応実践能力、小児の不慮の事故の防止、子どもの看護ケアや家族への支援、健康に課題のある患児のきょうだい支援、重症心身障がい児の家族の支援、健康に課題のある小児と家族が抱える課題など、学生自身が興味関心のある分野の研究の論文を作成する。学会発表などにむけた準備ができる。</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献などから情報収集を行い、文献レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。
<p>教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。
<p>授業計画 (30回)</p> <p>学生の個別研究</p> <p>研究プロセスにおけるレポート作成・発表・討論を継続し、研究を進める。</p> <p>1-2 研究計画の審査を経て、研究倫理審査承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備</p>

3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集
 7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化
 12-16 研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめ
 17-23 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討
 24-25 「中間発表会」において適切な準備の上で発表・討論
 26-28 論文の発表会の評価に基づいて論文の修正
 29-30 論文を学術誌に投稿する準備

評価基準

研究の推進、データの収集・分析、データ分析内容に即した論文の作成、学会発表、学内中間発表の発表内容の精度、内容、評価
 A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 博士論文研究計画書審査に合格することができる。				
2. 研究倫理審査申請書の提出ができる。				
3. 研究計画に沿って精度を保つ方法でデータが収集できる。				
4. 適切なデータ分析方法によって研究結果の信頼性と妥当性を検討できる。				
5. 分析に基づいて研究目的から結果・考察を適切に導くことができる。				
6. 博士論文中間発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				
7. 国際学会等において発表する準備ができる。				
8. 副論文の学術誌投稿を目指して研究を進めることができる。				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
DG9301	実践看護学特別研究DⅢ	3年/通年	2
担当教員		課程	
河野保子 三並めぐる		博士後期課程	

授業計画詳細
<p>授業目的</p> <p>本研究では、生涯発達看護とエンド・オブ・ライフケア看護の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む生涯発達看護学とエンド・オブ・ライフケア看護学の領域を実践看護学分野としている。その2つの領域での分野は国内外で研究を広げ革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発などを行う。またグローバルな視点による研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になることを目指す。独創性があり先駆的な博士論文としてまとめることができる。</p>
<p>授業内容</p> <p>実践看護学分野における特別研究DⅡの研究経過にもとづいて、研究結果をまとめ、適切な考察と結論を導き論文をまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、博士論文をまとめることができる。具体的には、各看護学領域の多種多様な課題に、理論の構築、看護方法論の開発・創造等により、学問的発展に貢献できる研究論文の作成を行う。また、臨床研究のケア評価などから、科学的なエビデンスに基づき看護の問題や関連する施策の改善に寄与し、研究結果から、汎用可能で、かつ、教育的にも有用な研究成果を期待できる研究方法ができるようにする。そして、研究結果から、理論を用いた検証方法を学ぶことで、さらに自己の研究を深められるようにする。</p> <p>【担当教員の指導目的・指導の焦点・指導方法・研究テーマ】</p> <p>(河野保子)</p> <p>生涯発達看護学の中における高齢者看護に関して、実践看護学特別研究DⅠ、Ⅱをさらに発展・深化させて、すべてのリサーチクエスチョンに解を導き出し、研究結果をまとめて適切な考察と結論を出し論文をまとめる。研究論文(博士論文)は、研究目的から結論まで、論旨の一貫性、及び信頼性・妥当性・客観性が求められる。高齢者看護学における自身の課題(高齢者のQOL・ADL・自己効力感、認知症者の記憶・行動特性、高齢者の人権・尊厳性、高齢者の自己決定、高齢者と世代継承性、家族介護者への支援、地域包括ケアシステムやケアの在り方、高齢者と倫理的意思決定、高齢者とフレイルサイクル等の研究)に対して、教育・実践支援方法の開発、看護介入やプログラム開発、看護モデル・理論の開発等、新たな知見を創造するよう研究指導を行う。超高齢社会に還元できる高齢者看護学の構築を考究する。</p> <p>(三並めぐる)</p> <p>発達段階にある小児のヘルスプロモーション活動とその教育に関わる小児看護師または養護教諭の役割、養護教諭の救急対応実践能力、小児の不慮の事故の防止、子どもの看護ケアや家族への支援、健康に課題のある患児のきょうだい支援、重症心身障がい児の家族の支援、健康に課題のある小児と家族が抱える課題など、学生自身が興味関心のある分野の研究を探求し、対象者の健康増進、生活の質保証、社会に還元できる独創的な研究とする。</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現場志向型研究の過程と方法を修得する。 2. 論理的・分析的思考に基づいた論文作成 3. 期日までに論文を仕上げる
<p>教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。

授業計画 (30回)				
1-6 特別研究DⅡの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述				
7-14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討				
15-20 評価に基づいて修正				
21-30 博士論文としてまとめ、「最終発表会」で発表				
評価基準				
独創性があり先駆的な原著論文を作成する。				
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 博士論文の作成に向けて研究を進めることができる。				
2. 学術集会への発表など研究成果を報告することができる。				
3. 研究成果として独創性・新規性・社会的価値について述べるができる。				
4. 独立した研究者としての能力を備え、幅広く深い知識を基盤としたさらなる研究を展開することができる。				